

ひとり親家庭等の生活と意識に関するアンケート集計結果（中間報告）

（目次）

I	あなたとご家族の状況について	4
1	ひとり親家庭になった理由（SA）【母父質問 38、寡 27】	4
2	ひとり親の年齢（SA）【質問 1】	4
3-1	世帯における子どもの数（SA）【質問 2】	5
3-2	就学等の状況別子どもの数（SA）【質問 2】	6
3-3	子の年齢階層別就学・就労状況（0～3歳）（SA）【母父質問 2】	6
3-4	子の年齢階層別就学・就労状況（4～6歳）（SA）【母父質問 2】	7
3-5	子の年齢階層別就学・就労状況（15～18歳）（SA）【母父質問 2】	7
3-6	子の年齢階層別就学・就労状況（18～22歳）（SA）【母父質問 2】	7
3-7	子の年齢階層別就学・就労状況（18～22歳）（SA）【母父質問 2】	8
3-8	子の年齢階層別就学・就労状況（18～19歳のうち「高校生」以外）（SA）【母父質問 2】	8
4	子ども以外の同居人（MA）【質問 3】（回答内容精査中につき参考）	8
5	ひとり親等の最終学歴（SA）【質問 5】	9
6	子に期待する最終学歴（SA）【質問 20】	9
	（まとめ 1） 就学状況について	10
7	今後の生活への不安（SA）【質問 6】	11
8	今後の生活への不安（同居人の有無）（SA）【質問 6】	11
9	今後の生活への不安（雇用形態別）（SA）【質問 6】	13
10	現在困っていること（MA）【質問 7】	15
11	困ったときの悩みの相談相手（MA）【質問 8】	16
12	現在の健康状態（MA）【質問 9】	17
13	過去 1 か月の心の状態【質問 10】	17
	（まとめ 2） 不安や悩みについて	18
14-1	就学前の子どもの過ごし方（SA）【母父質問 12】	18
14-2	小学校低学年の子の放課後の過ごし方（SA）【質問 13】	19
14-3	小学校高学年の子の放課後の過ごし方（SA）【母父質問 14-1】	19
14-4	中学生の子の放課後の過ごし方（SA）【母父質問 15-1】	20
14-5	高校生の子の放課後の過ごし方（SA）【母父質問 16-1】	20
	（まとめ 3） 子どもの日中・放課後の過ごし方について	21
15-1	就学前の子に関する悩み（MA）【母父質問 12-2】	21
15-2	小学校低学年の子に関する悩み（MA）【母父質問 13-2】	22
15-3	小学校高学年の子に関する悩み（MA）【母父質問 14-2】	23
15-4	中学生の子に関する悩み（MA）【母父質問 15-2】	24
15-5	高校生の子に関する悩み（MA）【母父質問 16-2】	25
16	親子での食事の状況（SA）【質問 17、18】	25
17	病気等のときにお子さんや親本人の身の回りの世話を頼む相手の有無（SA）【質問 19】	26
	（まとめ 4） 子どもに関する悩みなどについて	27
II	住居の状況について	28
18	現在の住まいの種類（SA）【母父質問 21、寡 12】	28

19	住まいを決めるうえで重要視する点 (SA) 【母父質問 22、寡 13】	28
20	希望する住まいの種類 (SA) 【母父質問 23、寡 14】 転居を検討されている方への質問	29
	(まとめ 5) 住まいの状況について	29
Ⅲ	仕事の状況について	30
21-1	雇用形態 (母子家庭) (SA) 【母質問 25】	30
21-2	雇用形態 (母子家庭—ひとり親になる前後比較) (SA) 【母質問 24、25】	30
22-1	雇用形態 (父子家庭) (SA) 【父質問 25】	31
22-2	雇用形態 (父子家庭—ひとり親になる前後比較) (SA) 【父質問 24、25】	31
23-1	雇用形態 (寡婦) (SA) 【寡質問 15、16】	32
24	希望する雇用形態 (SA) 【母父質問 29、寡質問 20】 求職中又は転職を考えている人への質問	32
25	仕事の悩みや不安 (MA) 【母父質問 26、寡 17】 現在働いている方への質問	33
26	転職等の希望 (SA) 【母父質問 23、寡 18】 現在働いている方への質問	34
27	資格の保有状況 (MA) 【母父質問 30、寡婦 21】	35
28	今後取得したい資格 (MA) 【母父質問 30、寡婦 21】	35
29	子育てをしながら働くために会社に望むこと (MA) 【母父質問 31】	36
	(まとめ 6) 雇用状況等について	37
Ⅳ	家計の状況について	38
30	世帯の家計の状況 (SA) 【母父質問 32、寡 22】	38
31-1	経済的な理由により購入できなかったことなど (母子家庭) 【母質問 33】	38
31-2	経済的な理由により購入できなかったことなど (父子家庭) 【父質問】	39
31-3	経済的な理由により購入できなかったことなど (寡婦) 【寡質問 23】	39
32	世帯の年間総収入 (SA) 【母父質問 34、寡 24】	40
33	年間就労収入 (SA) 【母父質問 35、寡 25】	41
34-1	親の最終学歴と年間就労収入 (母子家庭)	42
34-2	親の最終学歴と年間就労収入 (父子家庭)	42
34-3	雇用形態と年間就労収入 (母子家庭)	43
34-4	雇用形態と年間就労収入 (父子家庭)	43
	(まとめ 7) 収入状況等から見た課題	46
Ⅴ	養育費の受け取り状況などについて	47
35	ひとり親としての生活を始めるときに困難だったこと (MA) 【母父質問 39、寡 28】	47
36	財産分与の状況 (SA) 【母父質問 41、寡 30】 ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	47
37	養育費の取決状況 (SA) 【母父質問 42、寡 31】 ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	48
38	養育費の受取状況 (SA) 【母父質問 44】 ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	48
38-1	財産分与と養育費の受取金額 (SA) 【母質問 41-1、45】 財産分与が「あった」、養育費の取決めを「交わした」と回答した者	49
39	養育費の相談 (MA) 【母父質問 43、寡 32】 ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	50
40	面会交流の取決状況 (SA) 【母父質問 47、寡 33】 ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	51
41	面会交流の実施状況 (SA) 【母父質問 49】 ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	52
42	面会交流の相談 (MA) 【母父質問 48】 ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	53
43	面会交流の取決めをしていない理由 (MA) 【母父質問 50】	54
44	面会交流実施状況別の養育費の受取状況 (母子家庭) (SA) 【母質問 44、49】	55
	ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ	55
	(まとめ 8) 養育費等について	56
Ⅵ	支援制度等について	57

45 支援制度の利用率・認知度（母子家庭）（SA）【母質問 51】	57
46 支援制度の利用率・認知度（父子家庭）（SA）【父質問 51】	58
47 支援制度の利用率・認知度（寡婦）（SA）【寡質問 35】	59
48 支援策等の情報収集の手段（MA）【母父質問 52、寡 36】	61
49 充実を望む支援施策（MA）【母父質問 53、寡 37】	62
（まとめ 9） 支援制度等について	63
VII 新型コロナウイルス感染症について	64
50 新型コロナによる生活への影響（MA）【母父質問 54】	64
51 新型コロナによる子どもへの影響（MA）【母父質問 55】	65
52 新型コロナによる仕事への影響（MA）【母父質問 55、寡質問 39】	66
（まとめ 10） 新型コロナの影響について	66

<凡例>

①標記について

SA：単一回答の設問

MA：複数回答の設問

②母数について

回答数は母子 1016 件、父子 151 件、寡婦 163 件。質問によっては回答者を限定しているものがある。

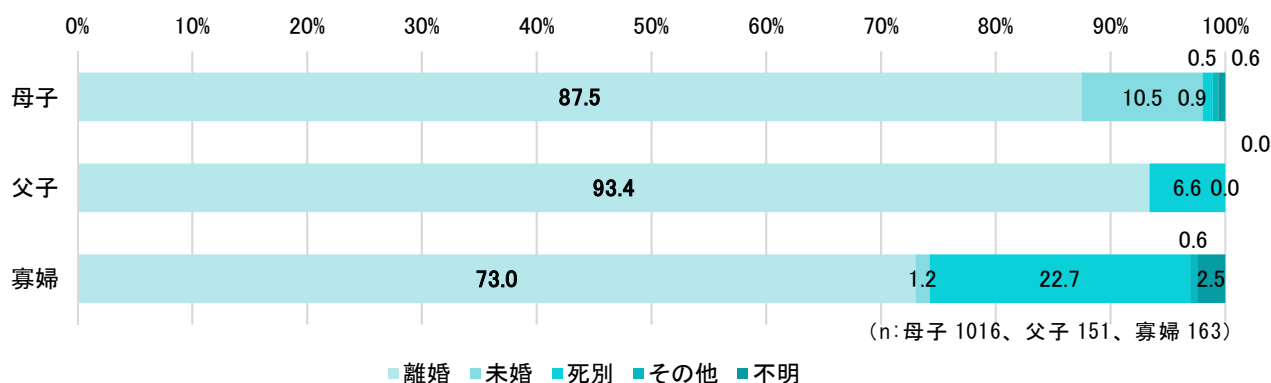
③記載方法について

無回答のものを「不明」としている。資料中の表では特に件数が多いもの以外は「不明」分は記載していない。

I あなたとご家族の状況について

1 ひとり親家庭になった理由 (SA) 【母父質問 38、寡 27】

図1 ひとり親家庭になった理由



(前回調査比較)

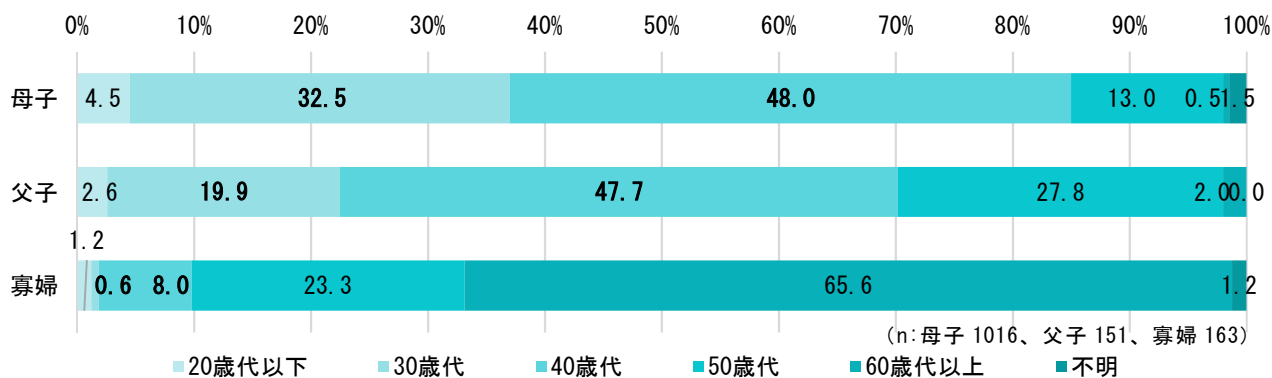
		離婚	未婚	死別
母子家庭	H29 調査	89.1%	9.2%	0.8%
	R4 調査	87.5%	10.5%	0.9%
父子家庭	H29 調査	89.6%	0.6%	7.8%
	R4 調査	93.4%	0.0%	6.6%
寡婦	H29 調査	69.6%	0.0%	25.1%
	R4 調査	73.0%	1.2%	22.7%

(現状)

- 母子家庭では、「離婚 (87.5%)」の割合が最も多く、次いで「未婚 (10.5%)」、「死別 (0.9%)」となっている。
- 父子家庭では、「離婚 (93.4%)」の割合が最も多く、次いで「死別 (6.6%)」となっている。
- 寡婦では、「離婚 (73.0%)」の割合が最も多く、次いで「死別 (22.7%)」、「未婚 (1.2%)」となっている。

2 ひとり親の年齢 (SA) 【質問 1】

図2 ひとり親家庭の親の年齢



(前回調査比較)

		20 歳代以下	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代以上
母子家庭	H29 調査	7.4%	37.5%	44.1%	9.2% (50 歳以上)	
	R4 調査	4.5%	32.5%	48.0%	13.0%	0.5%
父子家庭	H29 調査	1.9%	27.3%	46.8%	22.7% (50 歳以上)	
	R4 調査	2.6%	19.9%	47.7%	27.8%	2.0%
寡婦	H29 調査	—	—	5.2%	88.4% (50 歳以上)	
	R4 調査	1.2%	0.6%	8.0%	23.3%	65.6%

※H29 調査では、60 歳代の選択項目なし

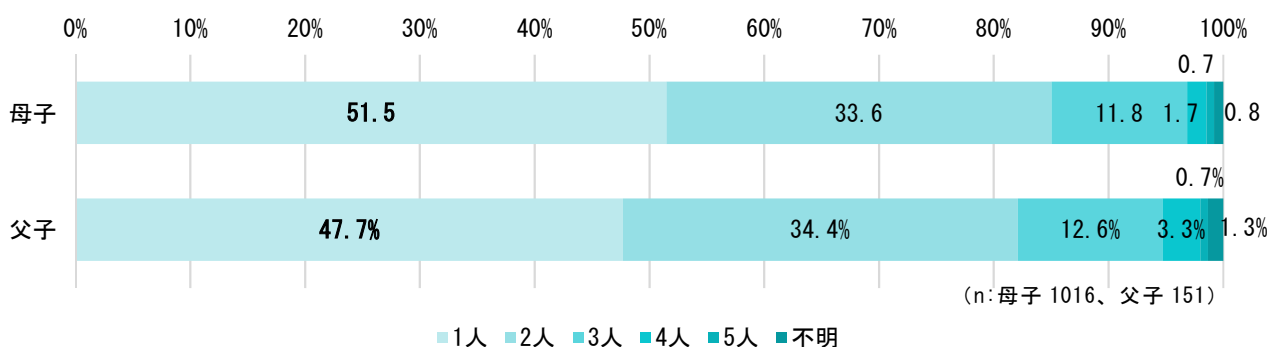
※寡婦の 20 歳代以下は誤回答と思われるが、回答どおり記載

(現状)

- 母子・父子家庭では 40 歳代（母子家庭 48.0%、父子家庭 47.7%）の割合が最も高く、寡婦で 60 歳代以上（65.6%）の割合が半数以上を占めている。また、母子・父子家庭において、前回調査と比較し 40 歳代・50 歳代の割合が増えている。

3-1 世帯における子どもの数 (SA)【質問 2】

図3-1 ひとり親家庭の子どもの数



(前回調査比較)

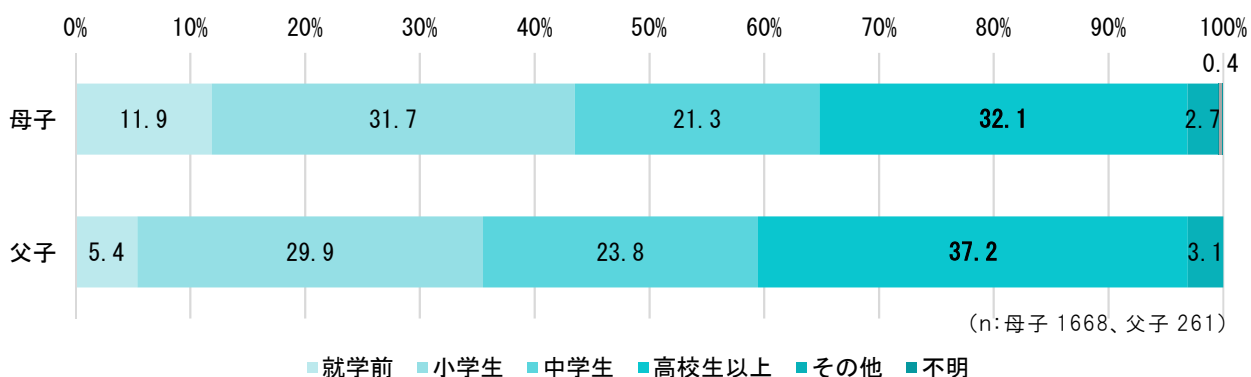
		1 人	2 人	3 人	4 人以上
母子家庭	H29 調査	53.3%	33.8%	10.4%	2.2%
	R4 調査	51.5%	33.6%	11.8%	2.4%
父子家庭	H29 調査	49.4%	33.1%	13.0%	3.2%
	R4 調査	47.7%	34.4%	12.6%	3.3%

(現状)

- 母子家庭では、「1 人（51.5%）」の割合が最も多く、次いで「2 人（33.6%）」、「3 人（11.8%）」となっている。
- 父子家庭では、「1 人（47.0%）」の割合が最も多く、次いで「2 人（36.4%）」、「3 人（12.6%）」となっている。
- 子どもの数の平均は、母子家庭が 1.64 人、父子家庭が 1.72 人となっている。

3-2 就学等の状況別子どもの数 (SA)【質問 2】

図3-2 学校種別毎の子どもの数

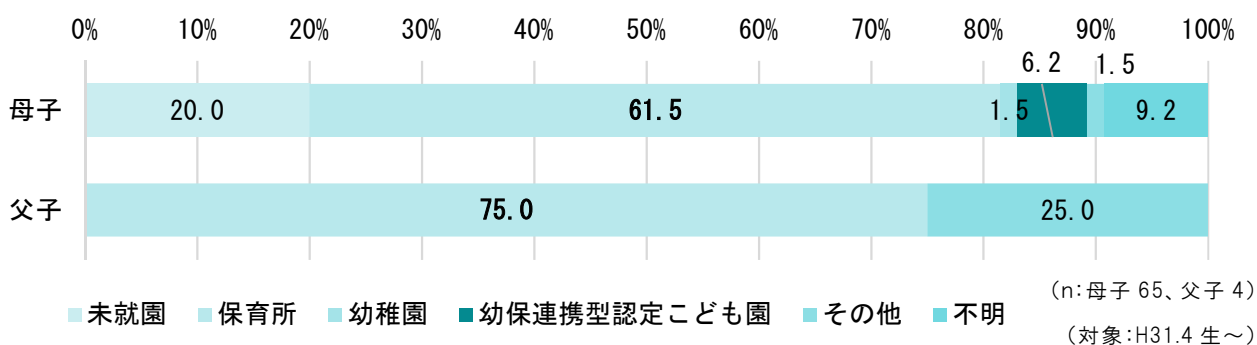


(現状)

- 母子家庭では、「高校生以上 (32.1%)」の割合が最も多く、次いで「小学生 (31.7%)」、「中学生 (21.3%)」となっている。
- 父子家庭では、「高校生以上 (37.2%)」の割合が最も多く、次いで「小学生 (29.9%)」、「中学生 (23.8%)」となっている。

3-3 子の年齢階層別就学・就労状況 (0～3歳) (SA)【母父質問 2】

図3-3 子の就園の状況 (0～3歳)

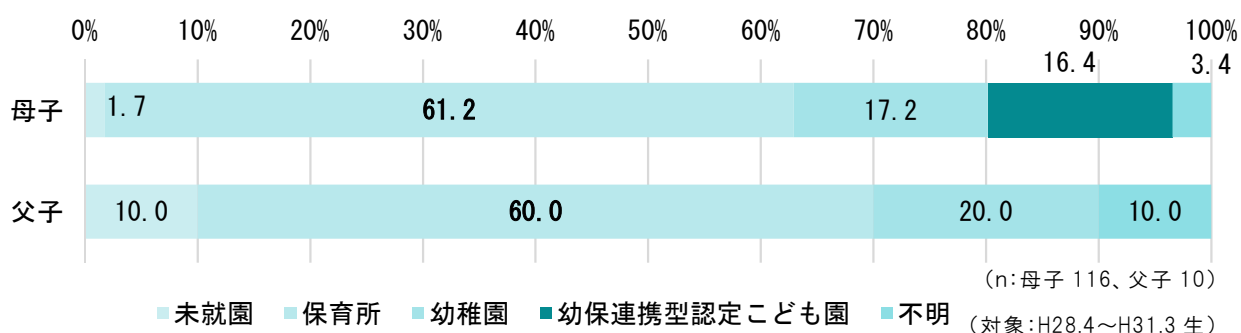


(現状)

- 母子家庭では、「保育所 (61.5%)」の割合が最も多く、次いで「未就園 (20.0%)」となっている。
- 父子家庭では、「保育所 (75.0%)」の割合が最も多く、次いで「その他 (25.0%)」となっている。

3-4 子の年齢階層別就学・就労状況（4～6歳）（SA）【母父質問2】

図3-4 子の就園の状況（4～6歳）

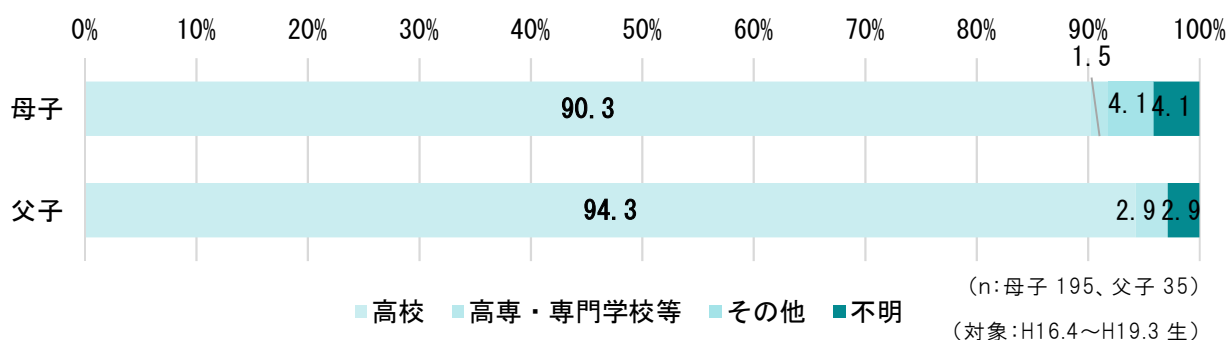


(現状)

- 母子家庭では、「保育所（61.2%）」の割合が最も多く、次いで「幼稚園（17.2%）」、「幼保連携型認定こども園（16.4%）」となっている。
- 父子家庭では、「保育所（60.0%）」の割合が最も多く、次いで「幼稚園（20.0%）」となっている。

3-5 子の年齢階層別就学・就労状況（15～18歳）（SA）【母父質問2】

図3-5 子の就学・就労の状況（15～18歳）

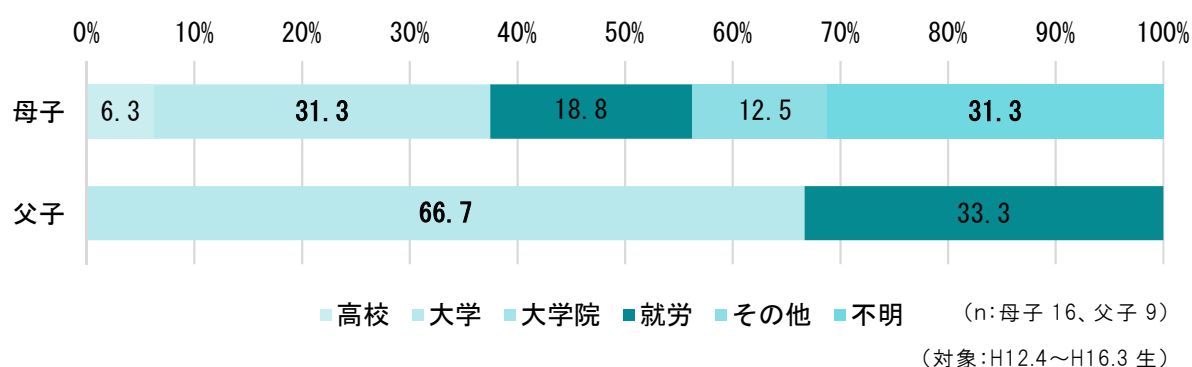


(現状)

- 母子家庭・父子家庭とも「高校（母子 90.3%、父子 94.3%）」が最も多くなっている。

3-6 子の年齢階層別就学・就労状況（18～22歳）（SA）【母父質問2】

図3-6 子の就学の状況（18～22歳）

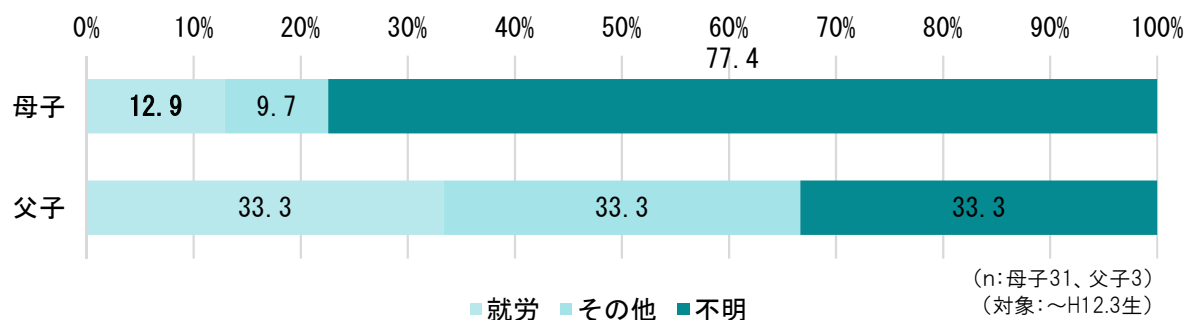


(現状)

- 母子家庭では、「大学 (31.3%)」と「就労 (31.3%)」が同率で最も多くなっている。
- 父子家庭では、「大学 (66.7%)」が最も多く、次いで「その他 (33.3%)」となっている。

3-7 子の年齢階層別就学・就労状況 (18~22歳) (SA) 【母父質問 2】

図3-7 子の就学・就労の状況 (22歳以降)



(現状)

- 母子家庭では、「就労 (12.9%)」が最も多く、次いで「その他 (9.7%)」となっている。
- 父子家庭では、母数が極端に少ないため参考。

3-8 子の年齢階層別就学・就労状況 (18~19歳のうち「高校生」以外) (SA) 【母父質問 2】

母子・父子	全体	高専・専門学校等	短大	大学	大学院	就労	その他	不明
H29 調査	83	19.3%	4.8%	30.1%	0.0%	37.3%	8.4%	0.0%
R4 調査	75	33.3%	2.7%	29.3%	0.0%	20.0%	12.0%	2.7%

※「高専・専門学校等」には「高校生」も含まれている可能性があるが、専門学校生との区別ができないため、割合の算出に含めている。

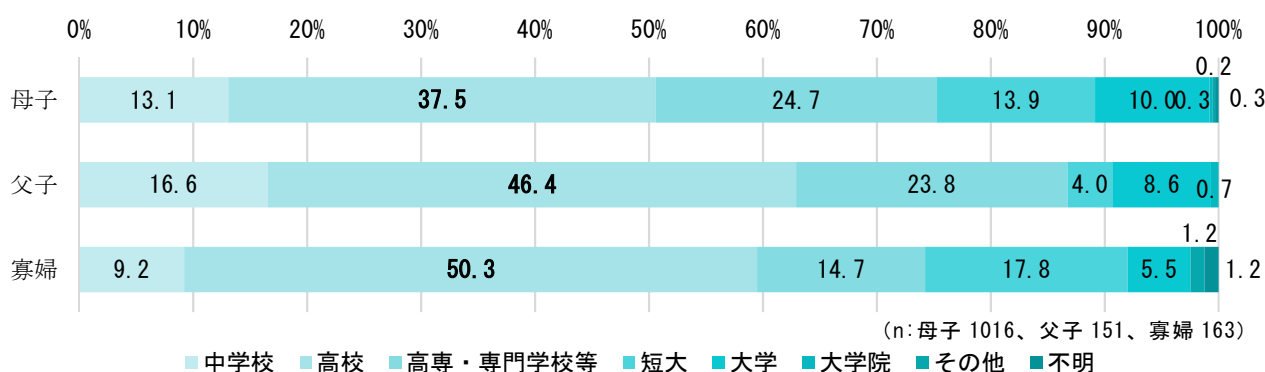
4 子ども以外の同居人 (MA) 【質問 3】 (回答内容精査中につき参考)

子以外に同居する人	同居人がある件数	1 位	2 位	3 位
母子家庭	266	本人の母	本人の父	本人のきょうだい
父子家庭	57	本人の母	本人の父	本人のきょうだい

※子以外の同居人がある件数は「その他」を含む数。その他には「同居人はいない」として回答されている可能性を含む

5 ひとり親等の最終学歴（SA）【質問 5】

図 4 親の最終学歴

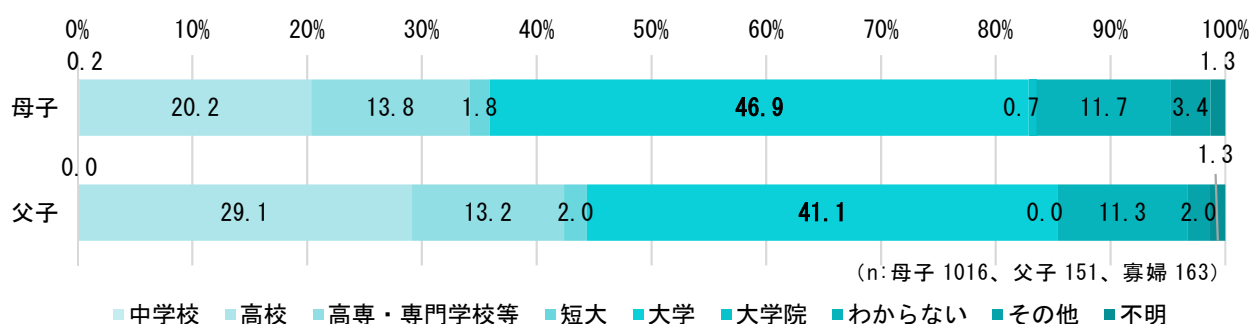


(現状)

- 母子家庭では、親の最終学歴は「高校 (37.5%)」が最も多く、次いで「高専・専門学校等 (24.7%)」、「短大 (13.9%)」となっている。
- 父子家庭では、親の最終学歴は「高校 (46.4%)」が最も多く、次いで「高専・専門学校等 (23.8%)」、「中学校 (16.6%)」となっている。
- 寡婦では、親の最終学歴は「高校 (50.9%)」が最も多く、次いで「短大 (17.8%)」、「高専・専門学校等 (14.7%)」となっている。

6 子に期待する最終学歴（SA）【質問 20】

図 5 子に期待する最終学歴



(前回調査比較)

		高校	高専・専門学校等	大学
母子家庭	H29 調査	19.7%	14.9%	48.2%
	R4 調査	20.2%	13.8%	46.9%
父子家庭	H29 調査	31.8%	10.4%	39.6%
	R4 調査	29.1%	13.2%	41.1%

(現状)

- 母子家庭では、「大学 (46.9%)」の割合が最も多く、次いで「高校 (20.2%)」、「高専・専門学校等 (13.8%)」となっている。29 年度調査を比較すると、1.3%大学の割合が減少している。
- 父子家庭では、「大学 (41.1%)」の割合が最も多く、次いで「高校 (29.1%)」、「高専・専門学校等 (13.2%)」となっている。

（参考：令和３年度学校基本調査）

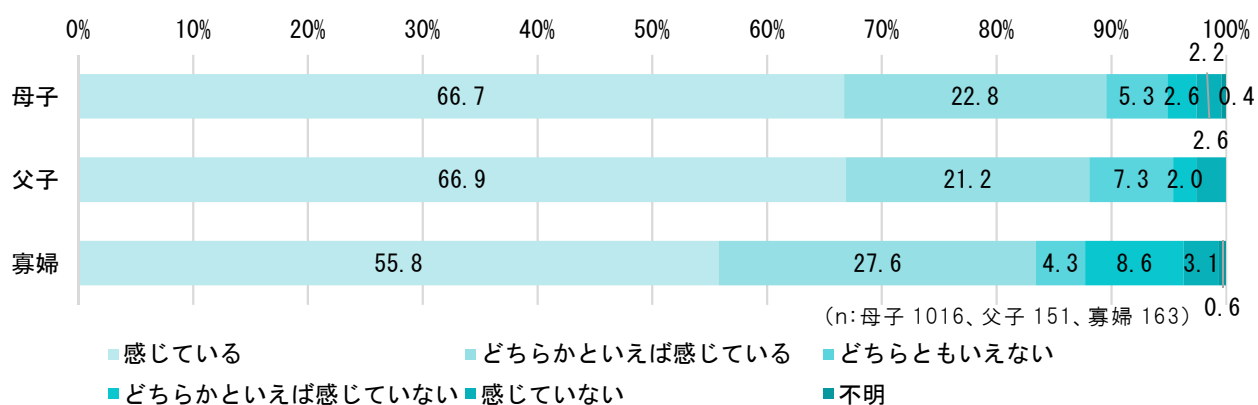
- 令和３年度学校基本調査では、一般世帯の大学進学が 54.9%、短大進学が 4.0%、専門学校が 24.0%となっている。

（まとめ１） 就学状況について

- 大学進学を期待する割合 46.2%に対し、18～19 歳世代の現状の大学進学割合は 29.3%となっている（「3-8」）。
- これは、令和３年度学校基本調査による一般世帯の大学進学率（54.9%）を大きく下回っている。
- ひとり親の最終学歴の割合は高校が最多であり（母子家庭 37.5%、父子家庭 46.4%）、大学以上への進学を希望する場合、金銭的な支援にとどまらず、身近なロールモデルの獲得も重要であると考えられる。

7 今後の生活への不安 (SA)【質問 6】

図 6 今後の生活への不安 (全体)



(前回調査比較)

		感じている (「どちらかといえ ば」を含む)	感じていない (「どちらかとい えば」を含む)
母子家庭	H29 調査	88.0%	3.7%
	R4 調査	89.6%	4.7%
父子家庭	H29 調査	84.4%	4.5%
	R4 調査	88.1%	4.6%
寡婦	H29 調査	66.0%	9.9%
	R4 調査	83.4%	11.7%

(現状)

- 「感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせた割合は、母子家庭が 89.6%、父子家庭が 88.1%、寡婦が 83.4%の人となっており、特に寡婦で不安を感じている割合が大幅に増加している。

図 6-1 今後の生活への不安 (母子-子以外の同居者の有無別)

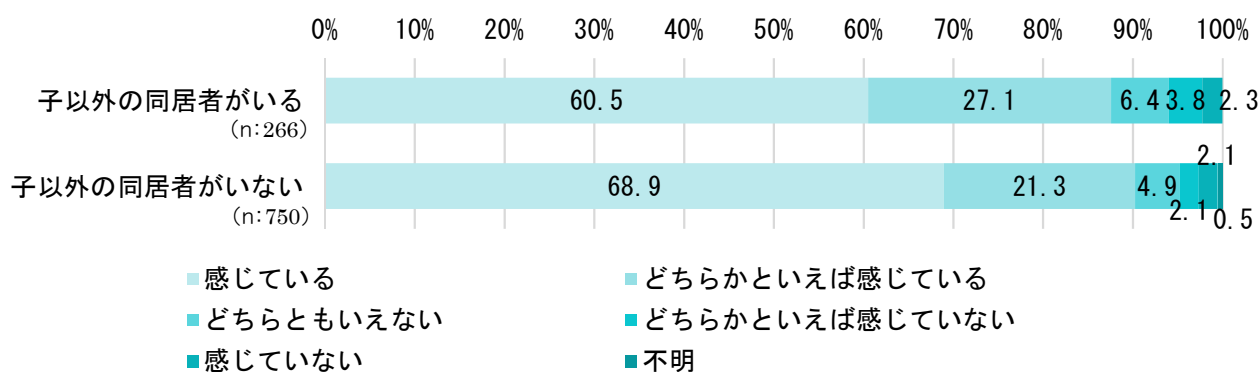


図 6-2 今後の生活への不安（父子-子以外の同居者の有無別）

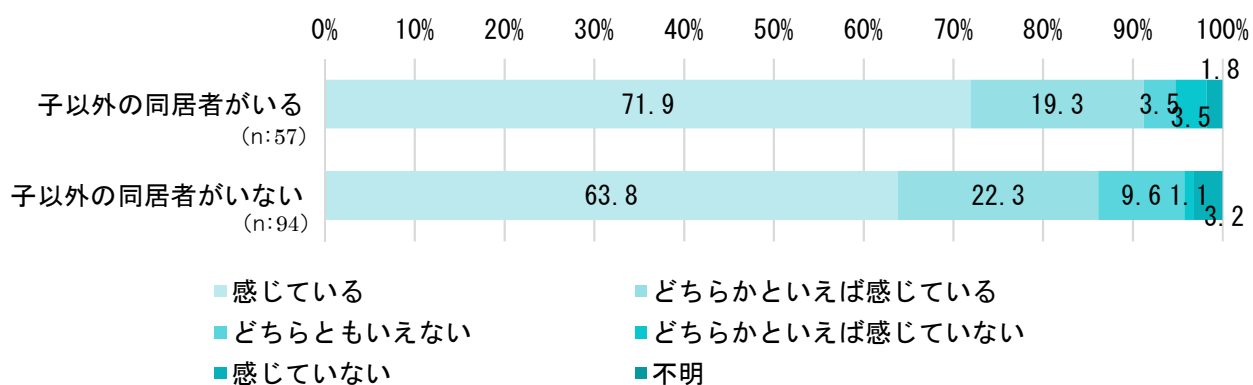


図 6-3 今後の生活への不安（寡婦-子以外の同居者の有無別）

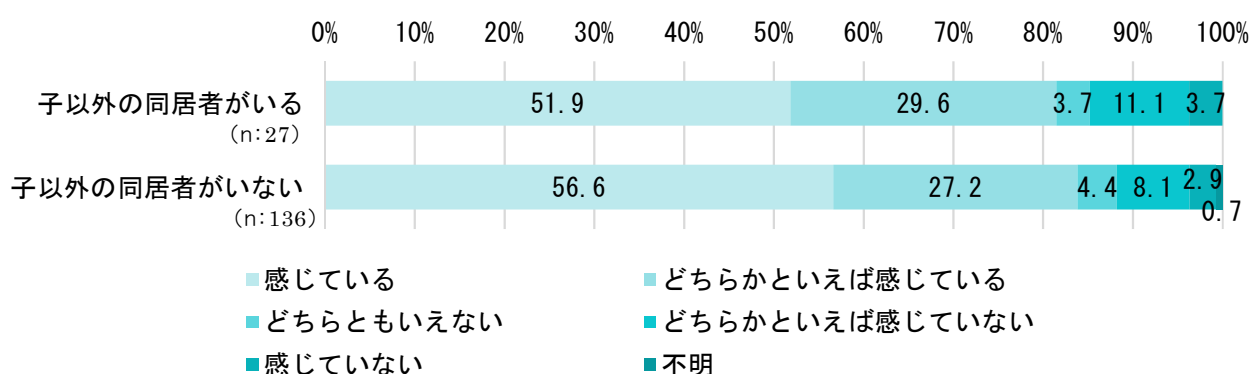


図 6-4 今後の生活への不安（母子-相談相手の有無別）

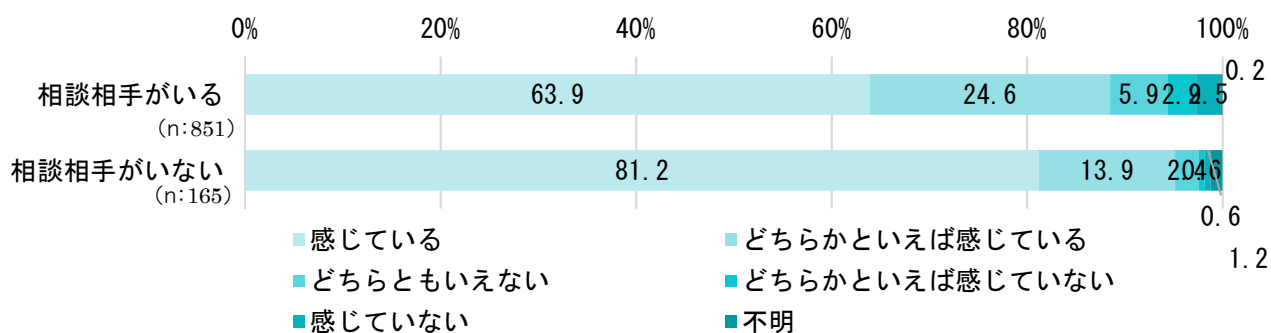


図 6-5 今後の生活への不安（父子-相談相手の有無別）

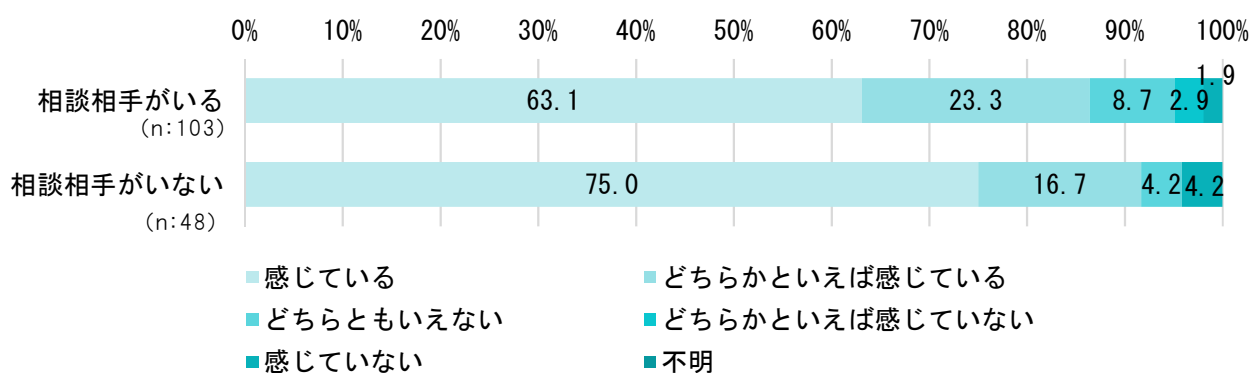
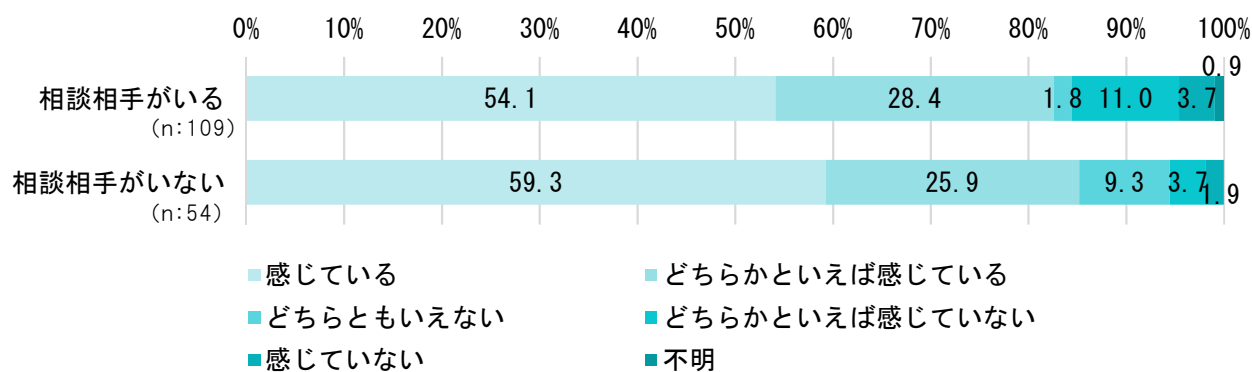


図 6-6 今後の生活への不安（寡婦-相談相手の有無別）



(現状)

- 今後の生活への不安を、「子以外の同居者の有無」、「相談相手の有無」の別に見ると、同居者のいない人、相談相手のいない人に「感じている」と回答する割合が高い傾向にある。

図 6-7 今後の生活への不安（母子家庭-現在の雇用形態別）

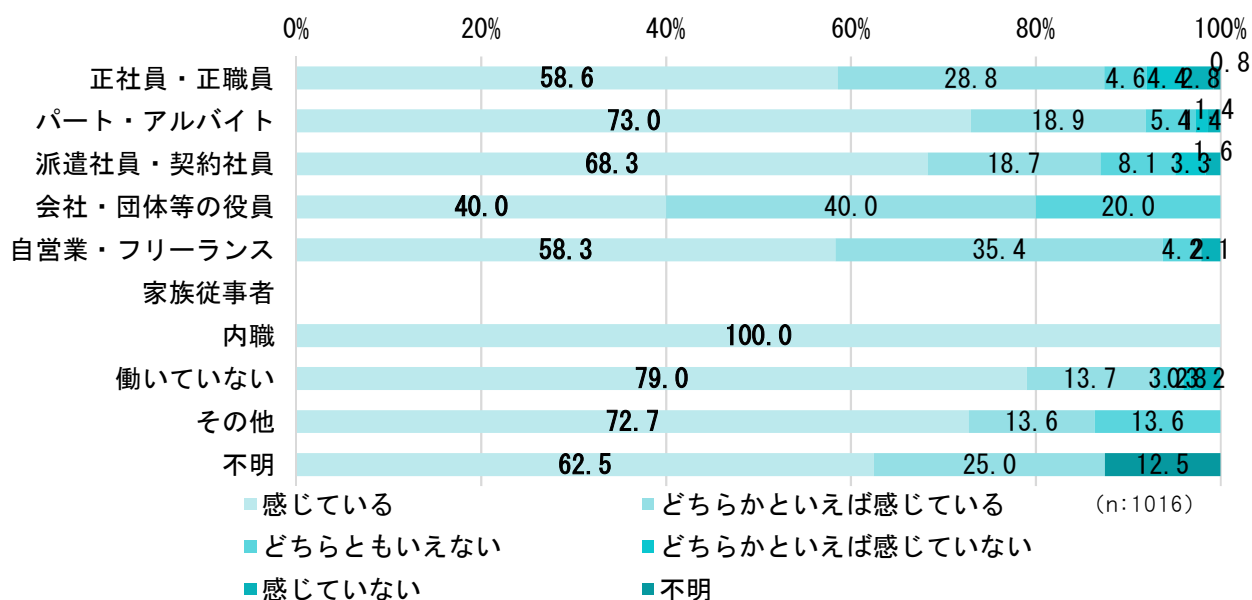


図 6－8 今後の生活への不安（父子家庭-現在の雇用形態別）

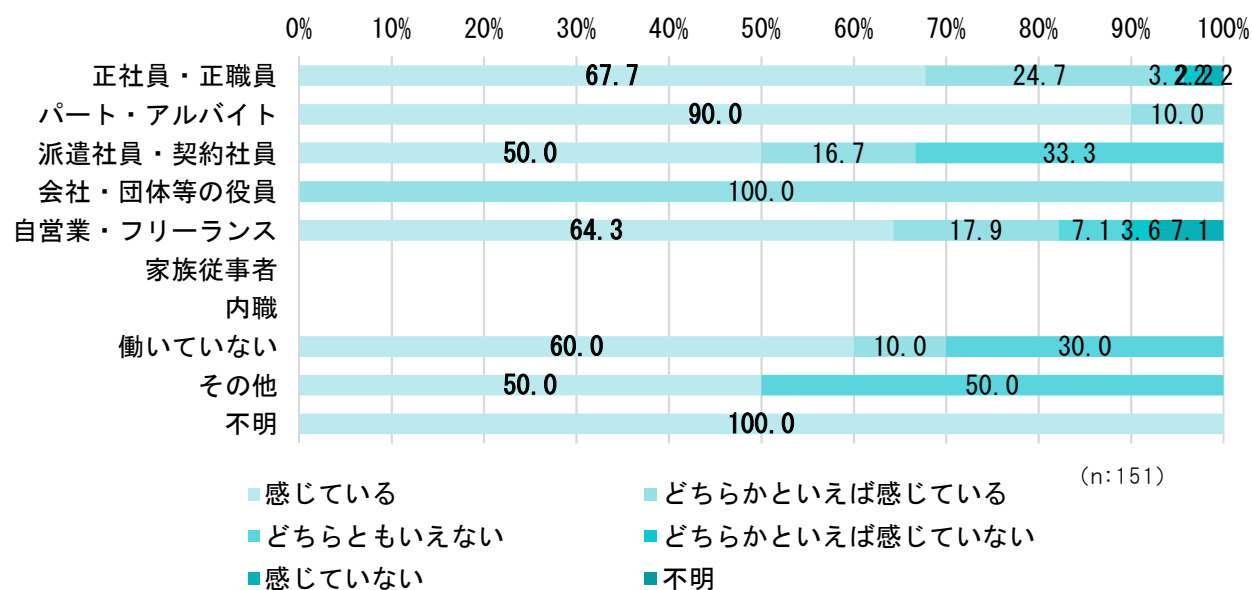
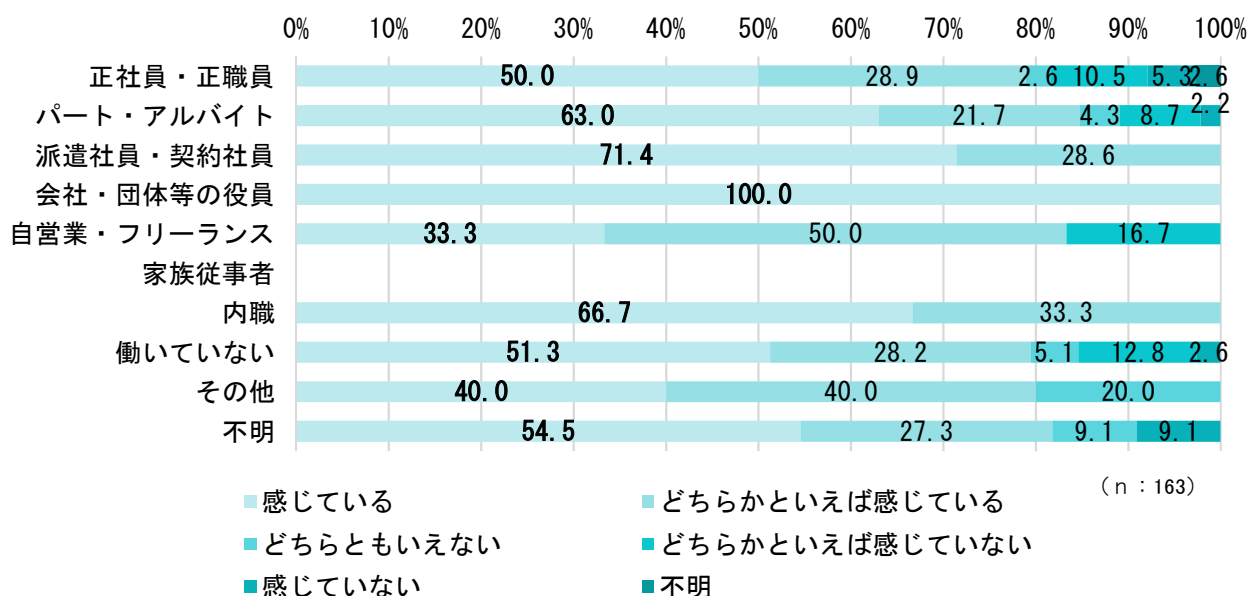


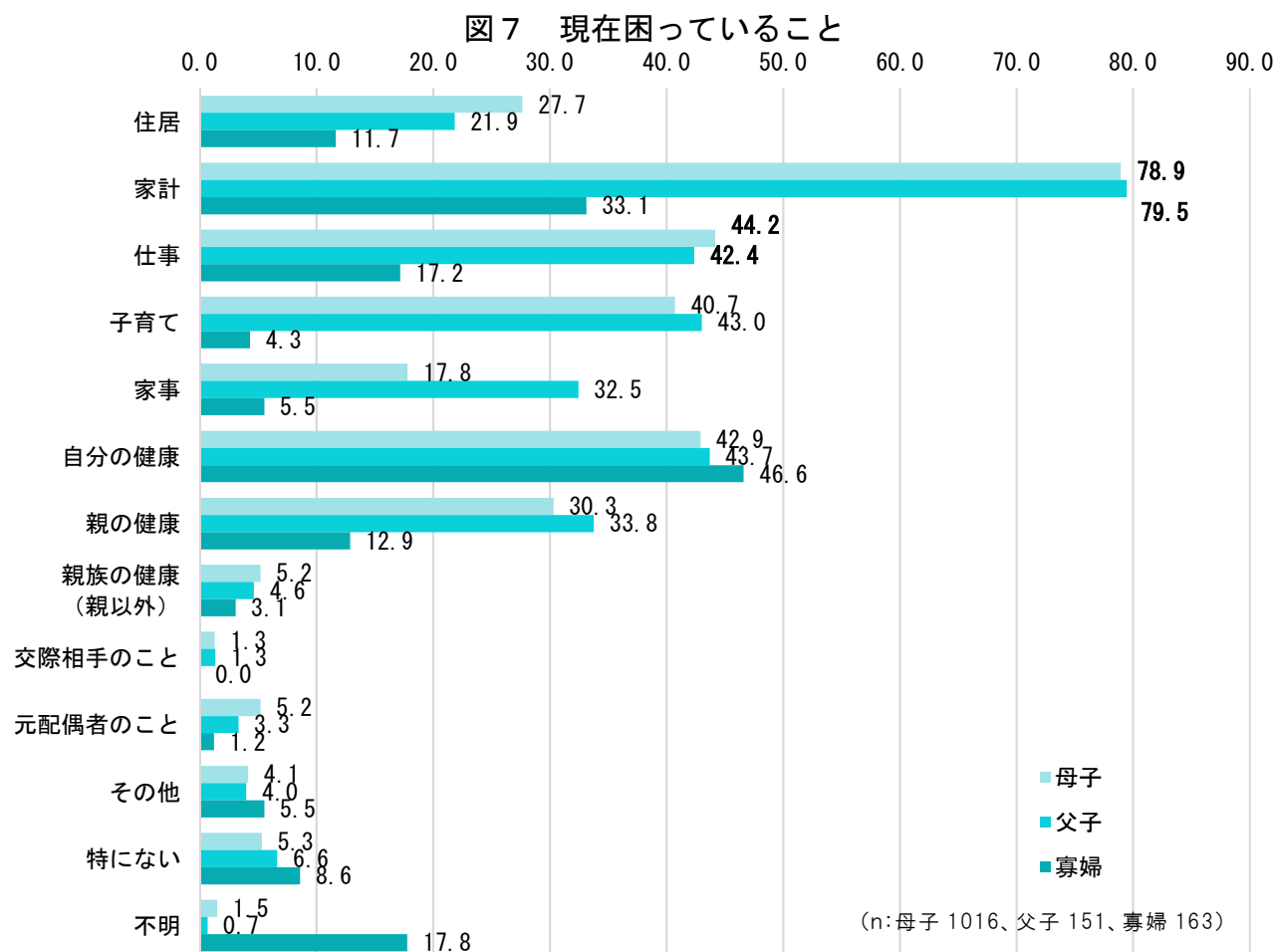
図 6－9 今後の生活への不安（寡婦-現在の雇用形態別）



（現状）

- 今後の生活への不安を、雇用形態別に見ると、母子家庭、父子家庭、寡婦ともに、「パート・アルバイト」、「派遣社員・契約社員」と比較して、「正社員・正職員」は、「感じている」と回答する割合が低い傾向にある。

10 現在困っていること (MA)【質問 7】



(前回調査比較) (不明除く)

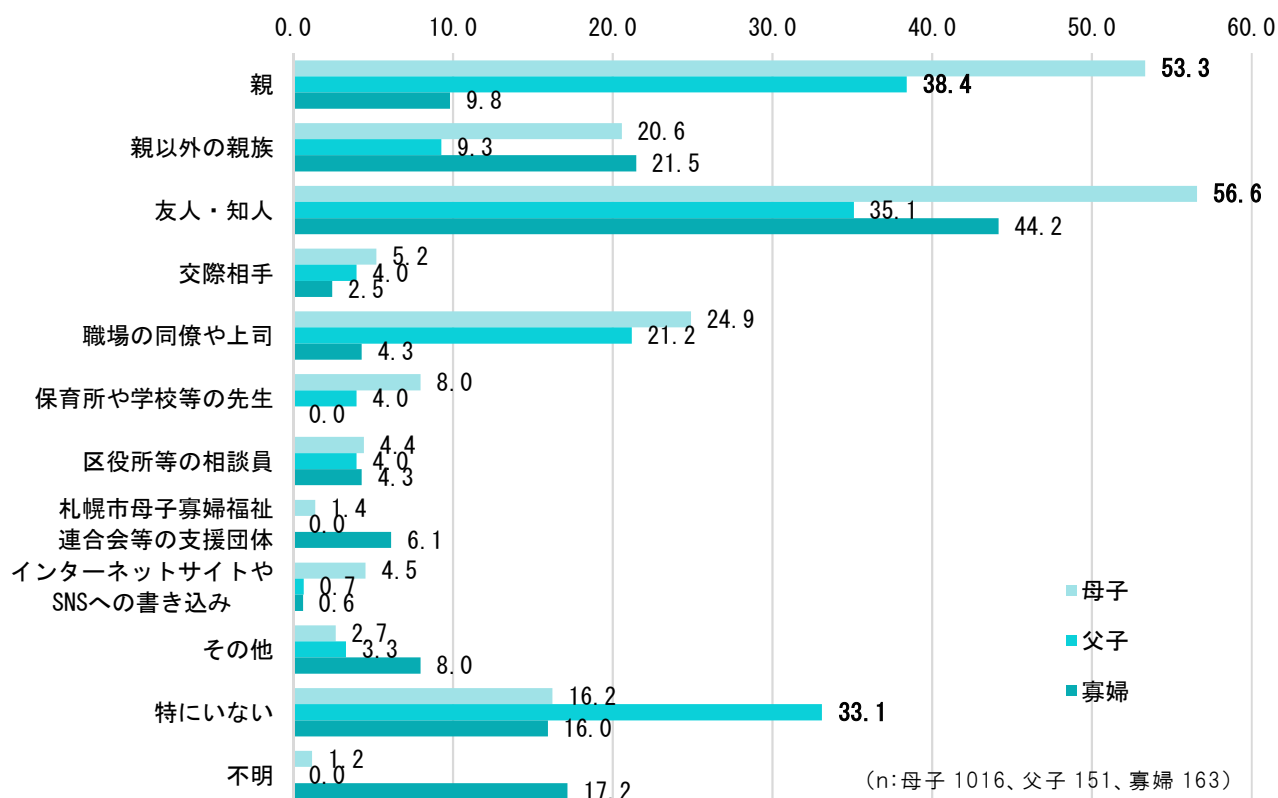
		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	家計 (79.5%)	仕事 (49.8%)	自分の健康(44.5%)
	R4 調査	家計 (78.9%)	仕事 (44.2%)	自分の健康(42.9%)
父子家庭	H29 調査	家計 (74.7%)	仕事 (48.1%)	自分の健康(46.1%)
	R4 調査	家計 (79.5%)	自分の健康 (43.7%)	子育て (43.0%)
寡婦	H29 調査	自分の健康(59.2%)	家計 (43.5%)	親族の健康(29.3%)
	R4 調査	自分の健康(46.6%)	家計 (33.1%)	仕事 (17.2%)

(現状)

- 母子家庭では、「家計 (78.9%)」の割合が最も多く、次いで「仕事 (44.2%)」、「自分の健康 (42.9%)」となっている。
- 父子家庭では、「家計 (79.5%)」の割合が最も多く、次いで「自分の健康 (43.7%)」、「子育て (43.0%)」、「仕事 (42.4%)」がほぼ同じ割合で高くなっている。また、「家事 (32.5%)」と答えた人の割合が、母子家庭や寡婦と比較して、高い傾向にある。
- 寡婦では、「自分の健康 (46.6%)」の割合が最も多く、次いで「家計 (33.1%)」、「仕事 (17.2%)」となっている。

11 困ったときの悩みの相談相手（MA）【質問8】

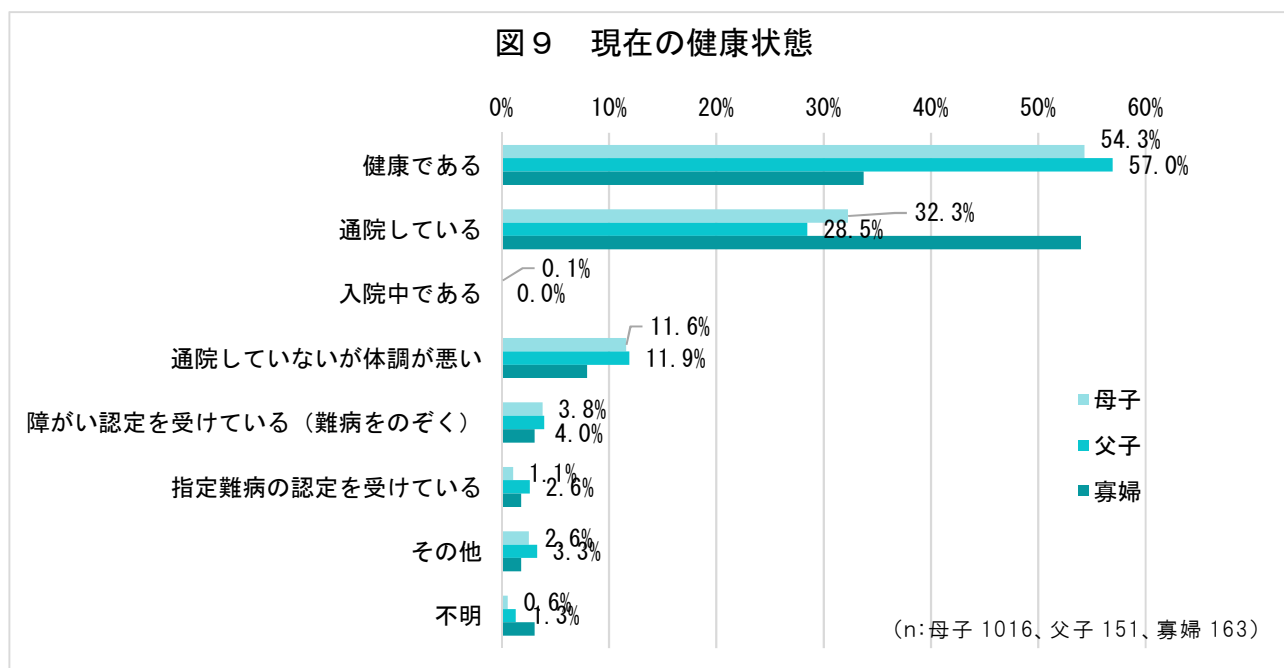
図8 困ったときや悩みの相談相手



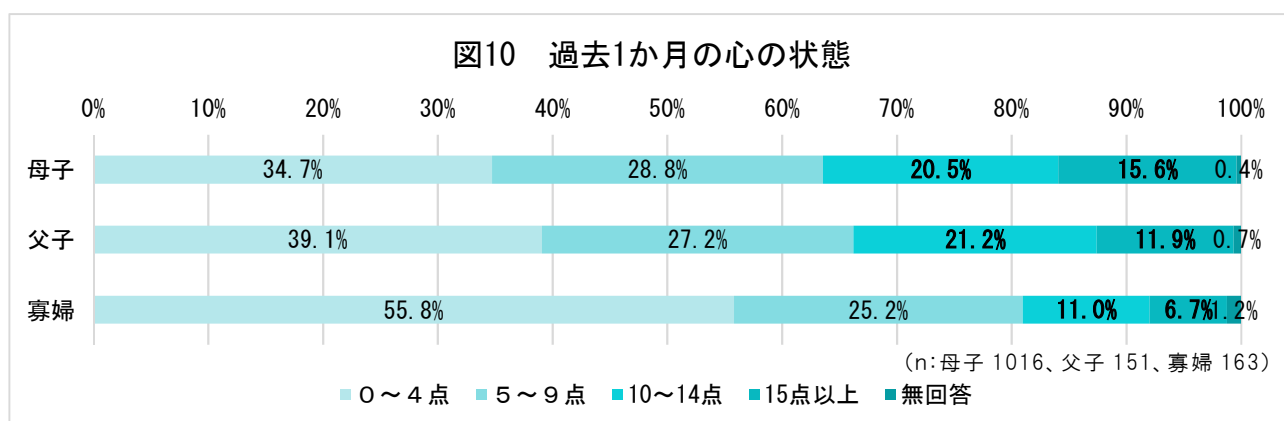
(現状)

- 母子家庭では、「友人・知人（56.6%）」の割合が最も多く、次いで「親（53.3%）」、「職場の同僚や上司（24.9%）」となっている。
- 父子家庭では、「親（38.4%）」の割合が最も多く、次いで「友人・知人（35.1%）」、「特にいない（33.1%）」となっており、母子家庭・寡婦と比べて相談相手のいない人が多い傾向にある。
- 寡婦では、「友人・知人（53.3%）」の割合が最も多く、次いで「親以外の親族（25.9%）」、「特にいない（19.3%）」となっている。
- 今回追加した「交際相手」に関する回答も一部見受けられた。

12 現在の健康状態（MA）【質問 9】



13 過去 1 か月の心の状態【質問 10】



【参考】

2019 年国民生活基礎調査（厚生労働省）年齢階級別にみたところの状態（点数階級）の構成割合（12 歳以上）

	0～4 点	5～9 点	10～14 点	15 点以上	不詳
総数	68.3%	17.3%	7.1%	2.5%	4.8%

12 歳以上の者（入院者を除く）について、過去 1 か月間の心の状態を点数階級別（6 つの質問について、5 段階（0～4 点）で点数化して合計したもの）の結果。点数が高いほど精神的な問題が重い可能性がある。

（現状）

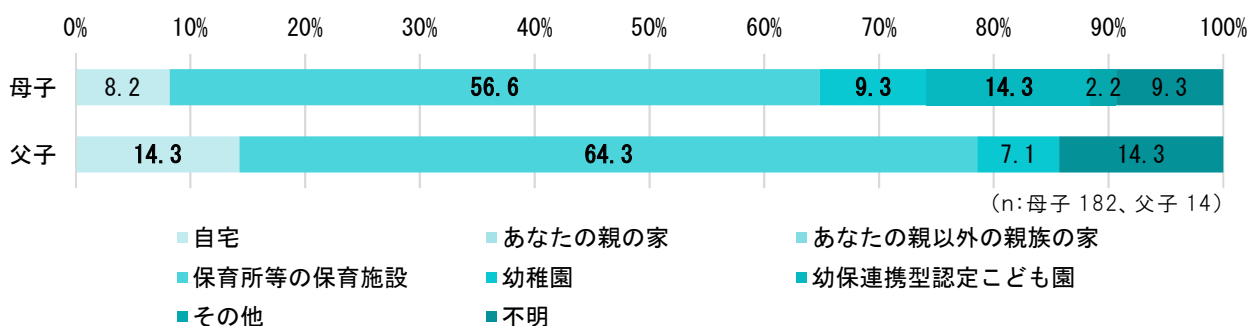
- 母子・父子ともに「健康である」と答えた割合がそれぞれ「54.3%」、「57.0%」と高くなっているが、過去 1 か月の心の状態について国民生活基礎調査（2019 年）と比較すると、母子・父子・寡婦すべてにおいて、点数が高い傾向にある。

（まとめ 2） 不安や悩みについて

- 前回調査と比較し、今後の生活への不安が高まる傾向にある。調査の時期（令和 4 年 10～11 月頃）を鑑みると、新型コロナウイルス感染症による社会不安やウクライナ情勢による物価高騰等の影響とも考えられる。
- 同居者のいない人、相談相手のいない人に不安を感じる割合が高い。
- 父子家庭では、他の区分と比較して「家事」について困っていると回答した割合が突出して高かった。
- 困ったときや悩みの相談相手が「特にいない」と回答した人が、一定の割合（母子家庭 16.2%、父子家庭 33.1%、寡婦 16.0%）いる一方で、市の相談窓口である「区役所等の相談員」、「札幌市母子寡婦福祉連合会（ひとり親家庭支援センター）」が相談相手になっている割合が低い。

14-1 就学前の子どもの過ごし方（SA）【母父質問 12】

図11-1 子どもの日中の過ごし方（就学前）



（前回調査比較）

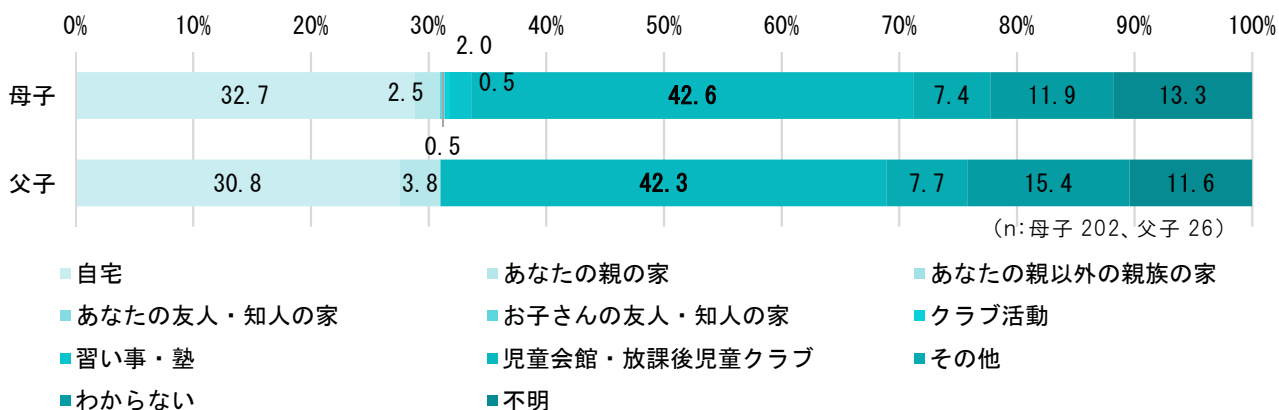
		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	保育施設（69.7%）	幼稚園（13.9%）	自宅（12.1%）
	R4 調査	保育施設（56.6%）	認定こども園（14.3%）	幼稚園（9.3%）
父子家庭	H29 調査	保育施設（66.7%）	幼稚園（19.0%）	自宅（14.3%）
	R4 調査	保育施設（64.3%）	自宅（14.3%）	幼稚園（7.1%）

（現状）

- 「保育所等の保育施設（母子家庭 56.2%）（父子家庭 52.6%）」の割合が最も多く、次いで母子家庭では「認定こども園（14.3%）」、父子家庭では「自宅（14.3%）」となっている。

14-2 小学校低学年の子の放課後の過ごし方（SA）【質問 13】

図11-2 子どもの日中の過ごし方（小学校低学年）



(前回調査比較)

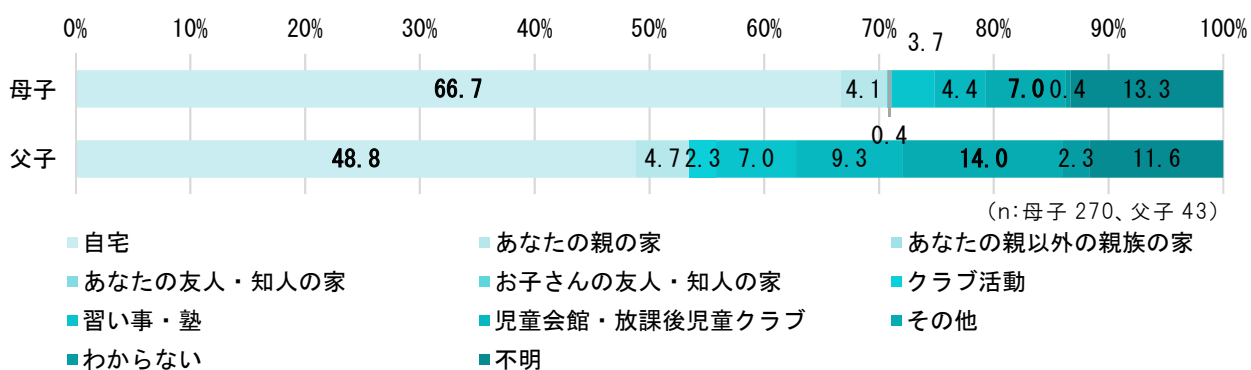
		1 位	2 位
母子家庭	H29 調査	児童会館・児童クラブ (58.0%)	自宅 (27.3%)
	R4 調査	児童会館・児童クラブ (42.6%)	自宅 (32.7%)
父子家庭	H29 調査	児童会館・児童クラブ (42.9%)	自宅 (37.1%)
	R4 調査	児童会館・児童クラブ (42.3%)	自宅 (30.8%)

(現状)

- 「児童会館・放課後児童クラブ（母子家庭 42.6%）（父子家庭 42.3%）」の割合が最も多く、次いで「自宅（母子家庭 32.7%）（父子家庭 30.8%）」となっている。

14-3 小学校高学年の子の放課後の過ごし方（SA）【母父質問 14-1】

図11-3 子どもの日中の過ごし方（小学校高学年）



(前回調査比較)

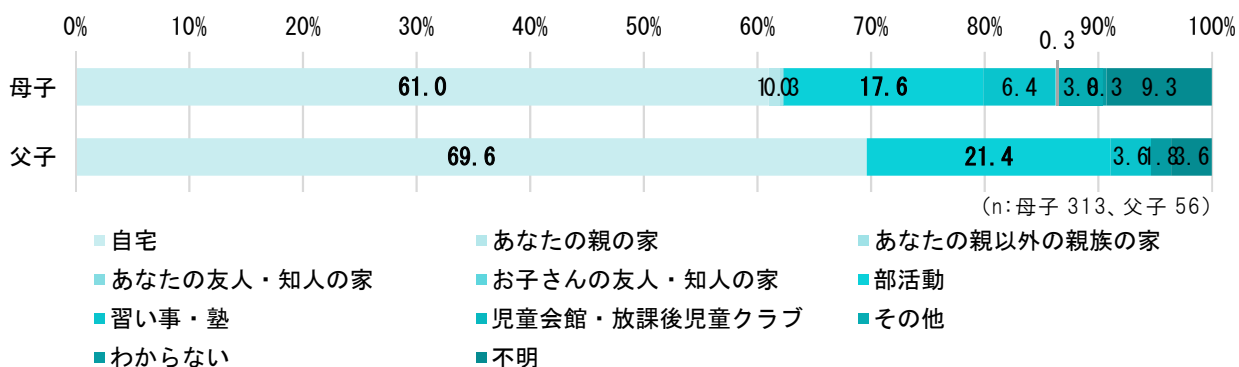
		1 位	2 位
母子家庭	H29 調査	自宅 (69.8%)	児童会館・児童クラブ (13.2%)
	R4 調査	自宅 (66.7%)	その他 (7.0%)
父子家庭	H29 調査	自宅 (55.3%)	児童会館・児童クラブ (21.1%)
	R4 調査	自宅 (48.8%)	その他 (14.0%)

(現状)

- 「自宅（母子家庭 66.7%）（父子家庭 48.8%）」の割合が最も多く、次いで「その他（母子家庭 7.0%）（父子家庭 14.0%）」となっている。
- 前回調査で母子家庭・父子家庭ともに2番目に多かった「児童会館・放課後児童クラブ」の割合は母子家庭で4.4%（前回13.2%）、父子家庭で9.3%（21.1%）と大きく下がっている。

14-4 中学生の子の放課後の過ごし方（SA）【母父質問 15-1】

図11-4 子どもの日中の過ごし方（中学生）



(前回調査比較)

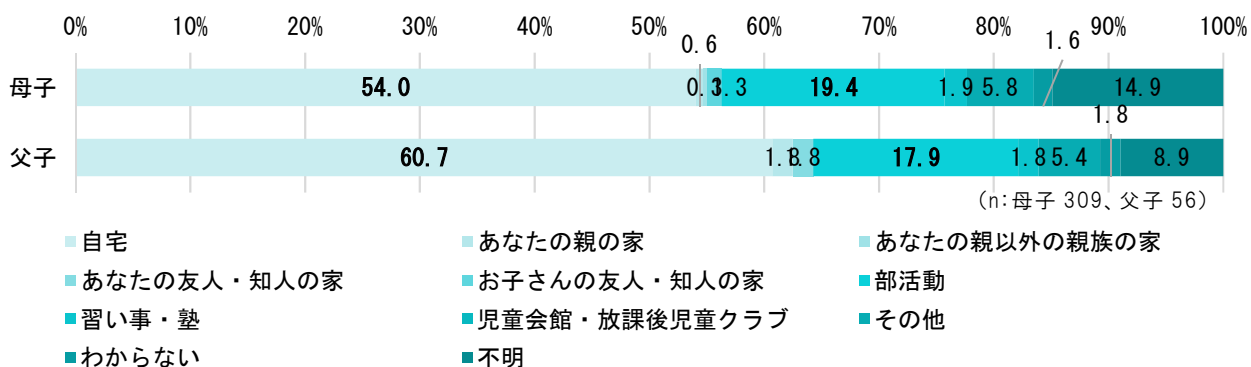
		1 位	2 位
母子家庭	H29 調査	自宅 (61.2%)	部活動 (29.5%)
	R4 調査	自宅 (61.0%)	部活動 (17.6%)
父子家庭	H29 調査	自宅 (56.8%)	部活動 (31.8%)
	R4 調査	自宅 (69.6%)	部活動 (21.4%)

(現状)

- 「自宅（母子家庭 61.0%）（父子家庭 69.6%）」の割合が最も多く、次いで「部活動（母子家庭 17.6%）（父子家庭 21.4%）」となっている。

14-5 高校生の子の放課後の過ごし方（SA）【母父質問 16-1】

図11-5 子どもの日中の過ごし方（高校生）



(前回調査比較)

		1 位	2 位
母子家庭	H29 調査	自宅 (53.5%)	部活動 (32.2%)
	R4 調査	自宅 (54.0%)	部活動 (19.4%)
父子家庭	H29 調査	自宅 (51.2%)	部活動 (30.2%)
	R4 調査	自宅 (60.7%)	部活動 (17.9%)

(現状)

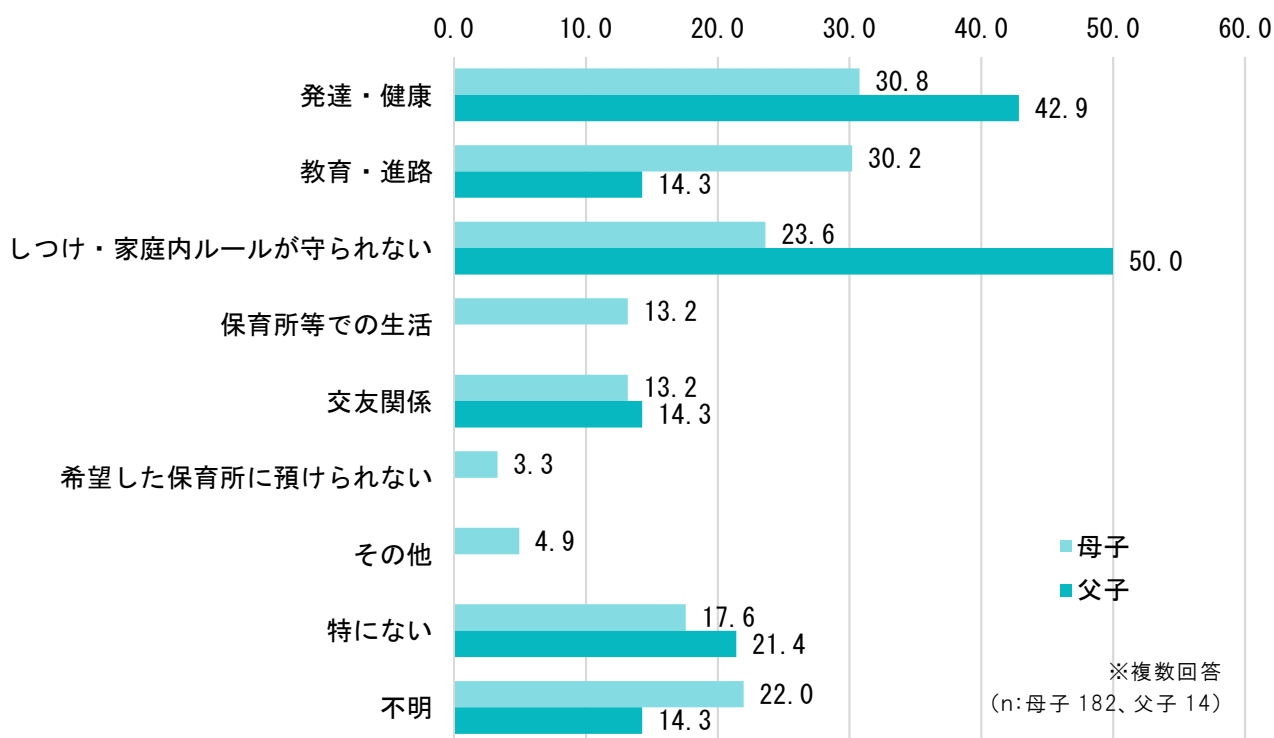
- 「自宅（母子家庭 54.0%）（父子家庭 60.7%）」の割合が最も多く、次いで「部活動（母子家庭 19.4%）（父子家庭 17.9%）」となっている。

(まとめ 3) 子どもの日中・放課後の過ごし方について

- 就学前では、「保育所等の保育施設」を利用している割合が高いが父子家庭では一定数自宅での子の見守りを行っている家庭がある。
- 平成 29 年調査と比較して、小学校高学年において児童会館・児童クラブを利用する割合が減少している。新型コロナの影響も考えられうる。

15-1 就学前の子に関する悩み (MA) 【母父質問 12-2】

図12-1 就学前の子どもに関する悩み



○ (前回調査比較)

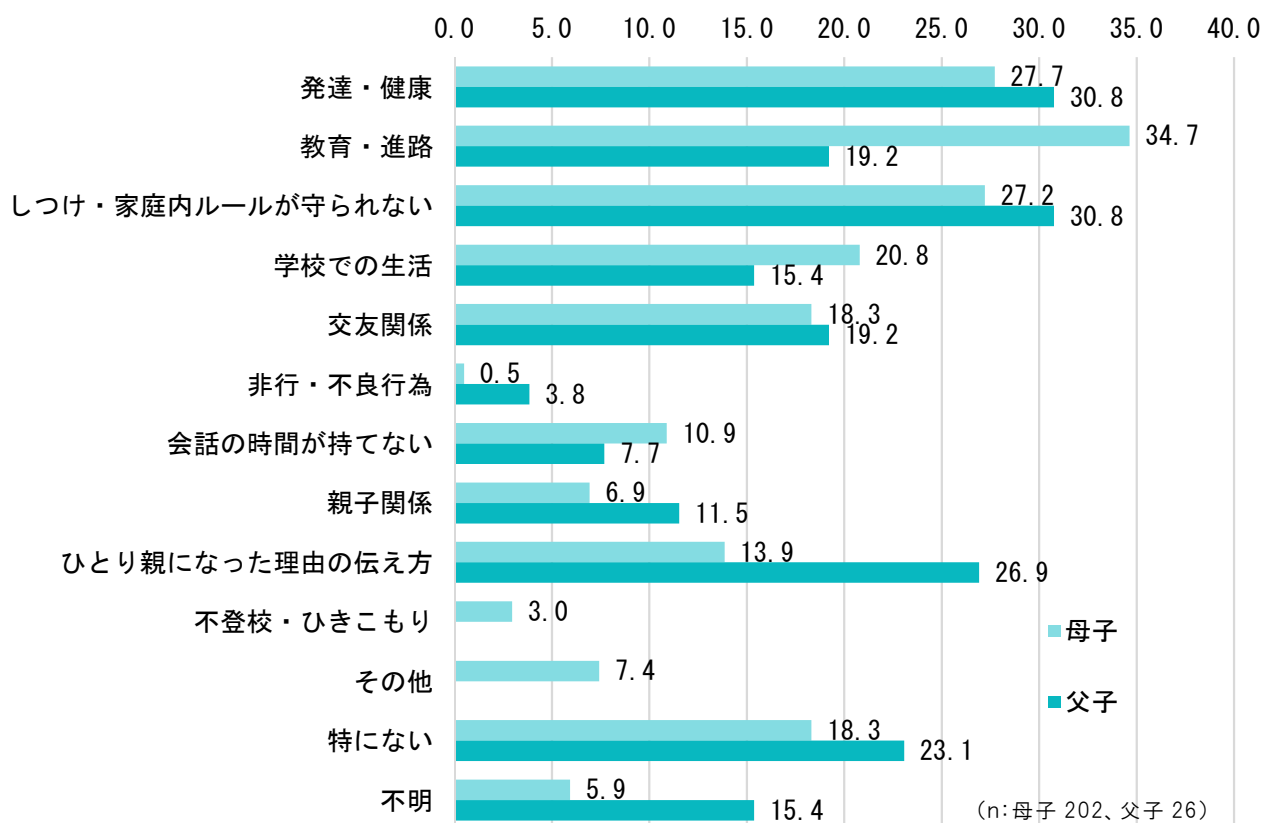
		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	しつけ (41.3%)	発達・健康 (30.2%)	教育・進路 (29.1%)
	R4 調査	発達・健康 (30.8%)	教育・進路 (30.2%)	しつけ等 (23.6%)
父子家庭	H29 調査	しつけ (36.4%)	発達・健康 (31.8%)	教育・進路 (31.8%)
	R4 調査	しつけ等 (50.0%)	発達・健康 (42.9%)	特にない (21.4%)

(現状)

- 母子家庭では、「発達・健康 (30.8%)」、が最も多く、次いで「教育・進路 (30.2%)」、「しつけ・家庭内ルールが守られない (23.6%)」となっている。
- 父子家庭では、「しつけ・家庭内ルールが守られない (50.0%)」が最も多く、次いで「発達・健康 (42.9%)」、「特にない (21.4%)」となっている。

15-2 小学校低学年の子に関する悩み (MA) 【母父質問 13-2】

図12-2 小学校低学年の子どもに関する悩み



(前回調査比較)

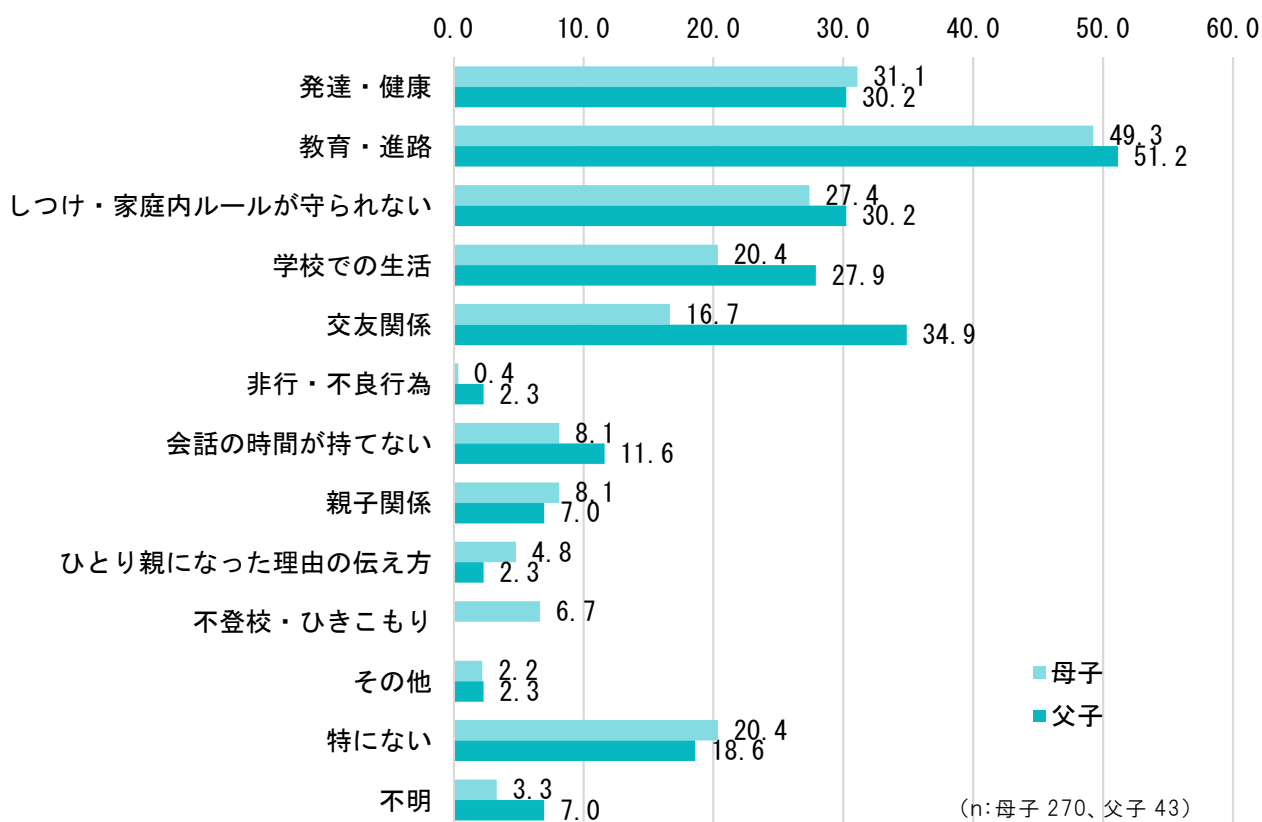
		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	しつけ (41.5%)	教育・進路 (41.5%)	交友関係 (29.8%)
	R4 調査	教育・進路 (34.7%)	発達・健康 (27.7%)	しつけ等 (27.2%)
父子家庭	H29 調査	しつけ (45.0%)	教育・進路 (42.5%)	交友関係 (30.0%)
	R4 調査	発達・健康 (30.8%)	しつけ等 (30.8%)	伝え方 (26.9%)

(現状)

- 母子家庭では、「教育・進路 (34.7%)」と答えた人が最も多く、次いで「発達・健康 (27.7%)」、「しつけ等 (27.2%)」となっている。
- 父子家庭では、同率で「発達・健康」「しつけ等」と答えた人が 30.8%と最も多く、次いで「ひとり親になった理由の伝え方 (26.9%)」となっている。
- 母子家庭と父子家庭で最もポイントに差があったのは「ひとり親になった理由の伝え方」で、父子家庭の方が 13 ポイント高くなっている。

15-3 小学校高学年の子に関する悩み（MA）【母父質問 14-2】

図12-3 小学校高学年の子どもに関する悩み



(前回調査比較)

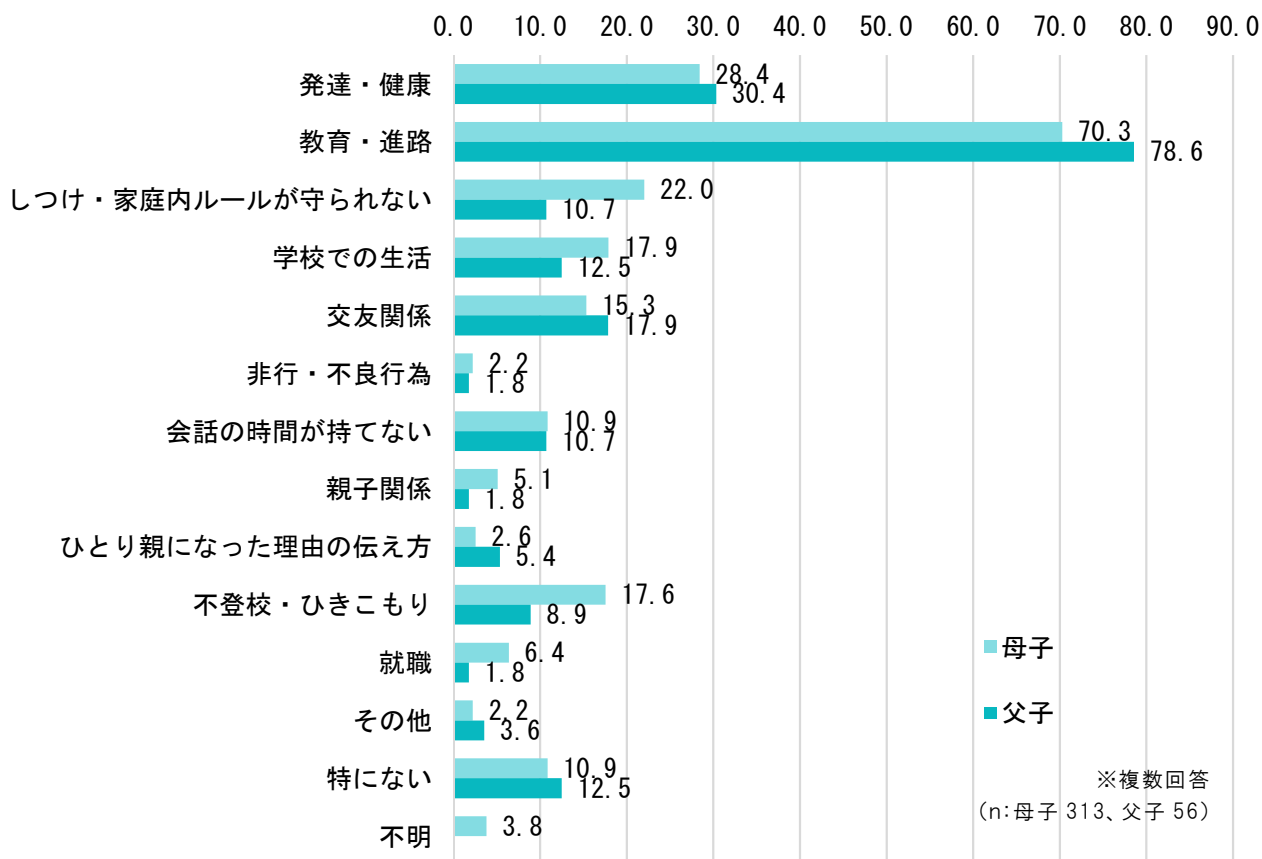
		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	教育・進路 (60.4%)	しつけ (39.6%)	発達・健康(31.1%)
	R4 調査	教育・進路 (51.2%)	発達・健康 (31.1%)	しつけ等(27.4%)
父子家庭	H29 調査	教育・進路 (63.6%)	しつけ (36.4%)	発達・健康(27.3%)
	R4 調査	教育・進路 (51.2%)	交友関係 (34.9%)	発達・しつけ等(30.2%)

(現状)

- 母子家庭、父子家庭ともに「教育・進路（母子家庭 49.3%）（父子家庭 51.2%）」の割合が最も多く、次いで母子家庭では「発達・健康（31.1%）」、「しつけ等（27.4%）」、父子家庭では「交友関係（34.9%）」、同率で「発達・健康」「しつけ等」30.2%の順になっている。

15-4 中学生の子に関する悩み（MA）【母父質問 15-2】

図12-4 中学生の子どもに関する悩み

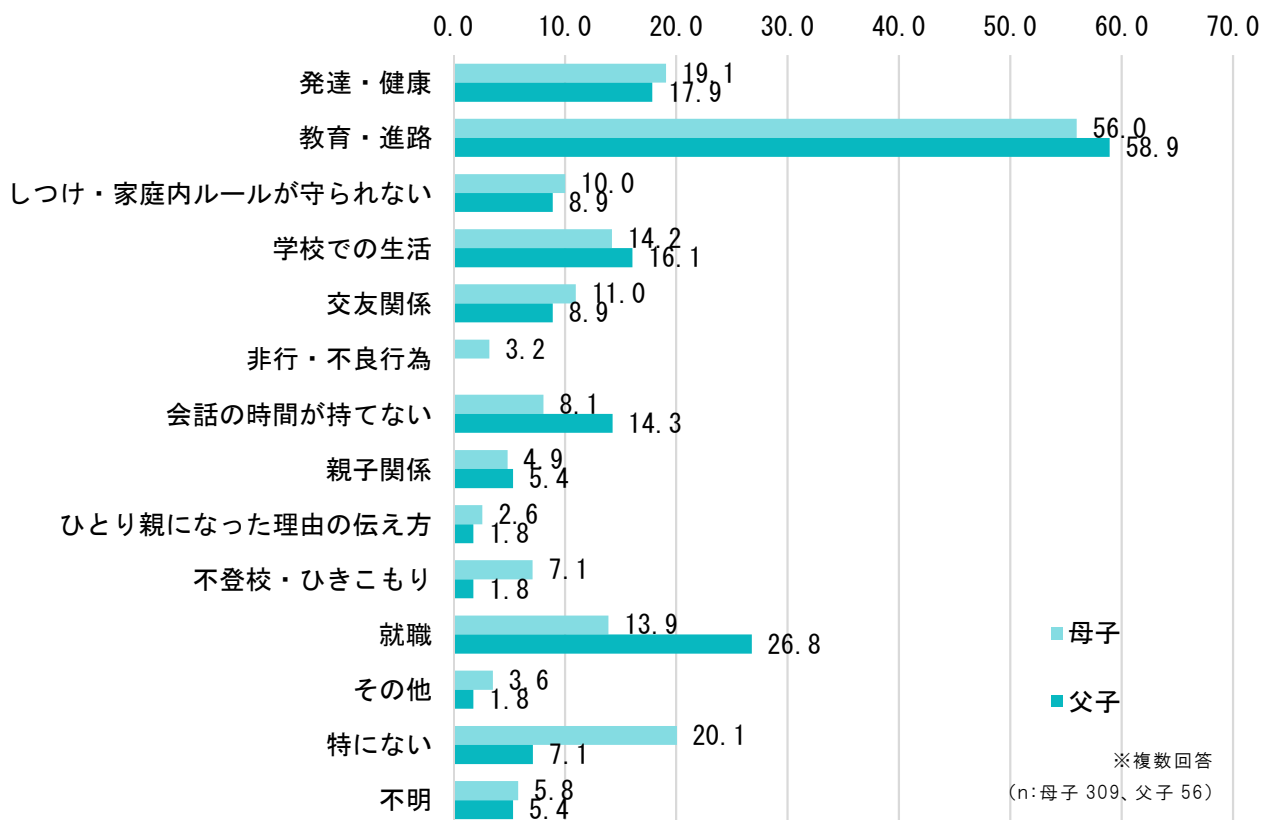


(現状)

- 母子家庭、父子家庭ともに「教育・進路（母子家庭 70.3%）（父子家庭 78.6%）」の割合が最も多く、次いで「発達・健康（母子家庭 28.4%）（父子家庭 30.4%）」となっている。

15-5 高校生の子に関する悩み（MA）【母父質問 16-2】

図12-5 高校生の子どもに関する悩み



(現状)

- 母子家庭では、「教育・進路 (56.0%)」の割合が最も多く、次いで「特にない (20.1%)」、「発達・健康 (19.1%)」となっている。
- 父子家庭では、「教育・進路 (58.9%)」の割合が最も多く、次いで「就職 (26.8%)」、「発達・健康 (17.9%)」となっている。

16 親子での食事の状況（SA）【質問 17、18】

図13-1 親子での食事の状況（母子家庭）

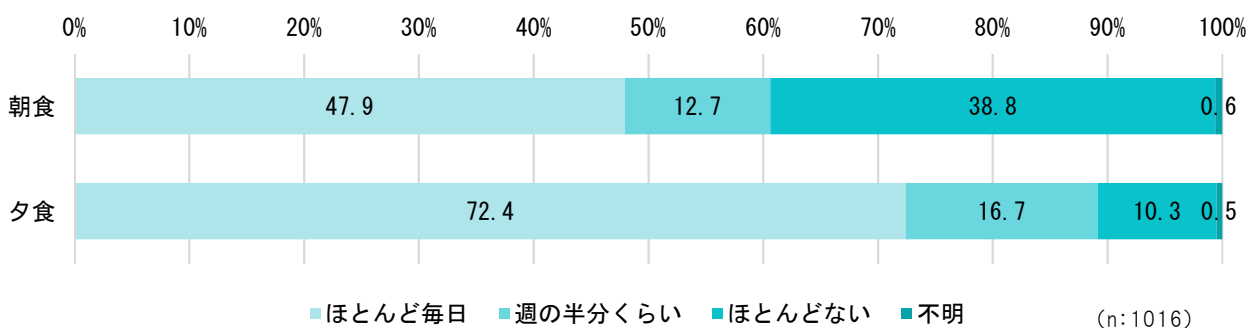
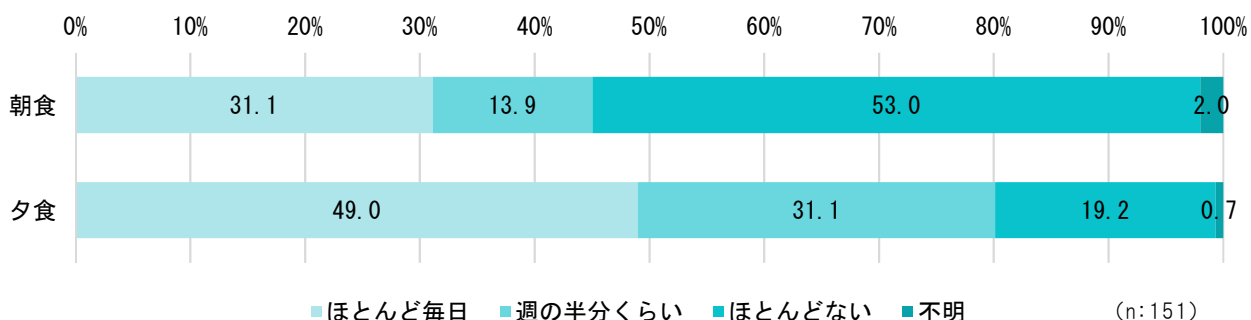


図13-2 親子での食事の状況（父子家庭）



(前回調査比較)「ほとんどない」と回答した割合

		朝食	夕食	朝食も夕食も「ほとんどない」※
母子家庭	H29 調査	37.5%	11.4%	
	R4 調査	38.8%	10.3%	8.9%
父子家庭	H29 調査	55.2%	21.4%	
	R4 調査	53.0%	19.2%	16.6%

※全体に対して、朝食と夕食の両方を「ほとんどない」と回答した割合

(現状)

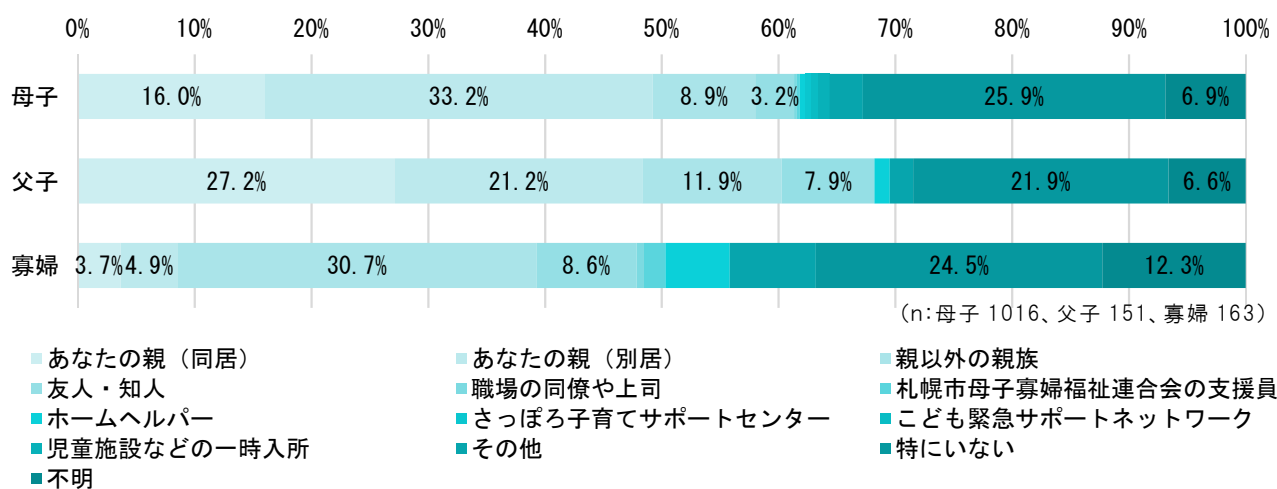
- 母子家庭では、食事を一緒にとることが「ほとんどない」と回答した割合が、朝食で 38.8%、夕食で 10.3%となっている。
- 父子家庭では、食事を一緒にとることが「ほとんどない」と回答した割合が、朝食で 53.0%、夕食で 19.2%となっている。
- 母子家庭で 8.9%、父子家庭では 16.6%が朝食も夕食もほとんど一緒に食べていない結果となっている。

(参考：令和 2 年度札幌市の児童生徒の実態に関する基礎調査（札幌市教育委員会）)

- 「朝食を一人でとることが多い」と答えた児童生徒は、小学 5 年生で 19.8%、中学 2 年生で 35.3%、高校 2 年生で 54.8%。

17 病気等のときにお子さんや親本人の身の回りの世話を頼む相手の有無（SA）【質問 19】

図14 ひとり親家庭等の親が病気等のときの世話をする方



(前回調査比較)

		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	親 (53.7%)	特にいない (24.5%)	親以外の親族 (7.2%)
	R4 調査	親 (49.2%)	特にいない (25.9%)	親以外の親族 (8.9%)
父子家庭	H29 調査	親 (51.3%)	特にいない (26.0%)	親以外の親族 (7.8%)
	R4 調査	親 (48.4%)	特にいない (21.9%)	親以外の親族 (11.9%)
寡婦	H29 調査	親以外の親族 (27.7%)	特にいない (25.7%)	その他 (9.4%)
	R4 調査	親以外の親族 (30.7%)	特にいない (24.5%)	友人・知人 (8.6%)

※「親」は同居・別居両方含む

(現状)

- 母子家庭では、「別居の親 (33.2%)」が最も多く、次いで「特にいない (25.9%)」、「同居の親 (16.0%)」となっている。
- 父子家庭では、「同居の親 (27.2%)」が最も多く、次いで「特にいない (21.9%)」、「別居の親 (21.2%)」となっている。
- 寡婦では、「親以外の親族 (30.7%)」の割合が最も多く、次いで「特にいない (24.5%)」となっている。

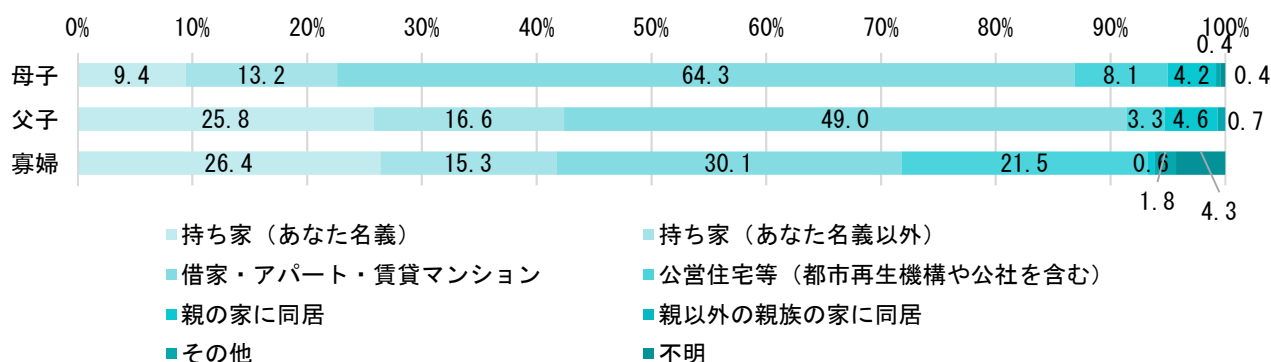
● (まとめ 4) 子どもに関する悩みなどについて

- 小学校高学年からは、「教育・進路」に関する悩みの割合が増えていく一方で、「しつけ」に関する悩みの割合は低下している。
- 食事を一緒にとる機会がないと答えた家庭が特に父子家庭で多くなっている。
- 前回調査と同様に、病気等のときに世話をする方が「特にいない」と回答した人の割合が 2 割を超えている。

Ⅱ 住居の状況について

18 現在の住まいの種類（SA）【母父質問 21、寡 12】

図15 現在の住まいの種類 (n: 母子 1016、父子 151、寡婦 163)



（前回調査比較）

		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	借家等（64.0%）	持ち家（19.6%）	公営住宅等（8.5%）
	R4 調査	借家等（64.3%）	持ち家（22.6%）	公営住宅等（8.1%）
父子家庭	H29 調査	借家等（56.5%）	持ち家（33.1%）	公営住宅等（5.2%）
	R4 調査	借家等（49.0%）	持ち家（42.4%）	親の家に同居（4.6%）
寡婦	H29 調査	持ち家（39.3%）	借家等（28.8%）	公営住宅等（28.3%）
	R4 調査	持ち家（43.6%）	借家等（31.4%）	公営住宅等（22.4%）

※持ち家は「あなた名義」と「あなた名義以外」の合計

（現状）

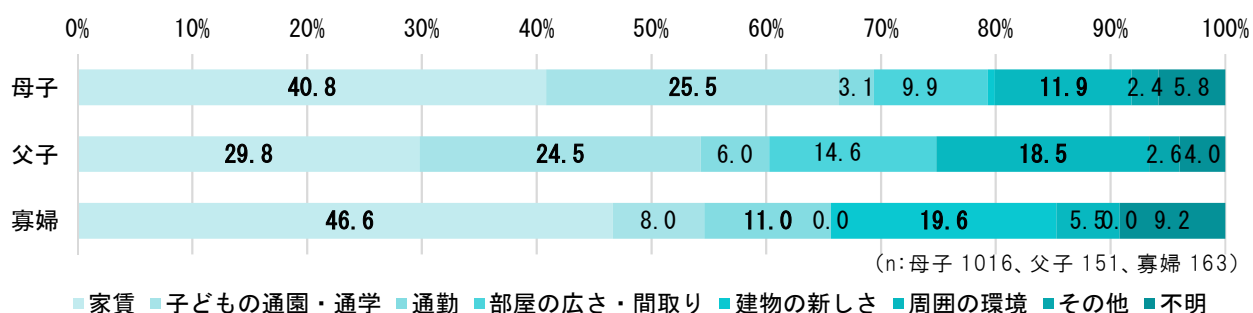
- 母子家庭、父子家庭では、「借家・アパート・賃貸マンション（母子家庭 64.3%）（父子家庭 49.0%）」の割合が最も多く、次いで「持ち家（母子家庭 22.6%）（父子家庭 42.4%）」となっている。
- 寡婦では、「持ち家（43.6%）」の割合が最も多く、次いで「借家・アパート・賃貸マンション（31.4%）」となっている。

【参考：令和 3 年度札幌市統計書 平成 30 年度】

- 札幌市における住まいの種類：持ち家（50.1%）、民間借家等（44.7%）、公営住宅等 3.6%、社宅等（1.6%）

19 住まいを決めるうえで重要視する点（SA）【母父質問 22、寡 13】

図16 住まいを決めるうえで重要視する点



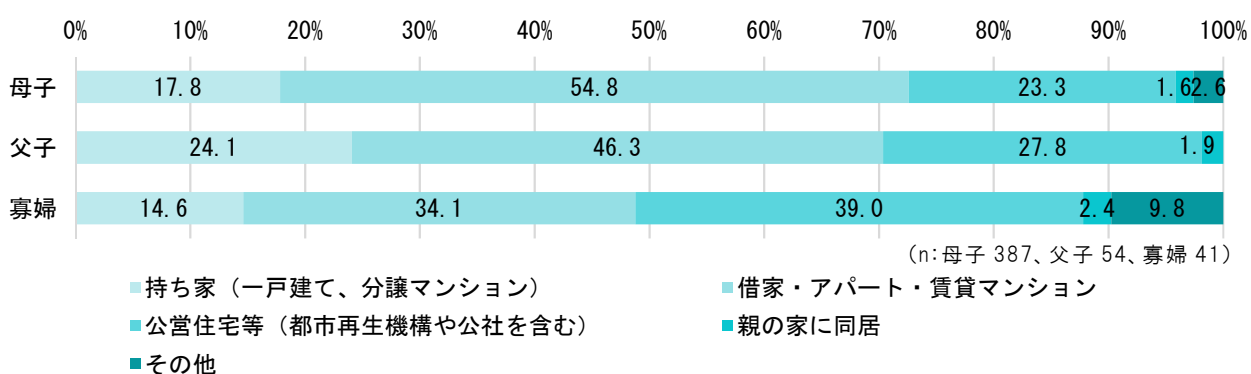
(n: 母子 1016、父子 151、寡婦 163)

(現状)

- 母子・父子家庭が重視するのは「家賃（母子家庭 40.8%、父子家庭 29.8%）」、次いで「子の通園・通学（母子家庭 25.5%、父子家庭 24.5%）」、「周囲の環境（母子家庭 11.9%、父子家庭 18.5%）」となっている。
- 寡婦が重視するのは「家賃(46.6%)」、次いで「建物の新しさ(19.6%)」、「通勤(11.0%)」となっている。

20 希望する住まいの種類（SA）【母父質問 23、寡 14】 転居を検討されている方への質問

図17 希望する住まいの種類



(前回調査比較)

		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	借家等 (46.8%)	公営住宅等 (34.9%)	持ち家 (11.6%)
	R4 調査	借家等 (54.8%)	公営住宅等 (23.3%)	持ち家 (17.8%)
父子家庭	H29 調査	公営住宅等 (40.0%)	借家等 (38.3%)	持ち家 (16.7%)
	R4 調査	借家等 (46.3%)	公営住宅等 (27.8%)	持ち家 (24.1%)
寡婦	H29 調査	公営住宅等 (54.7%)	借家等 (24.5%)	持ち家 (7.5%)
	R4 調査	公営住宅等 (39.0%)	借家等 (34.1%)	持ち家 (14.6%)

(現状)

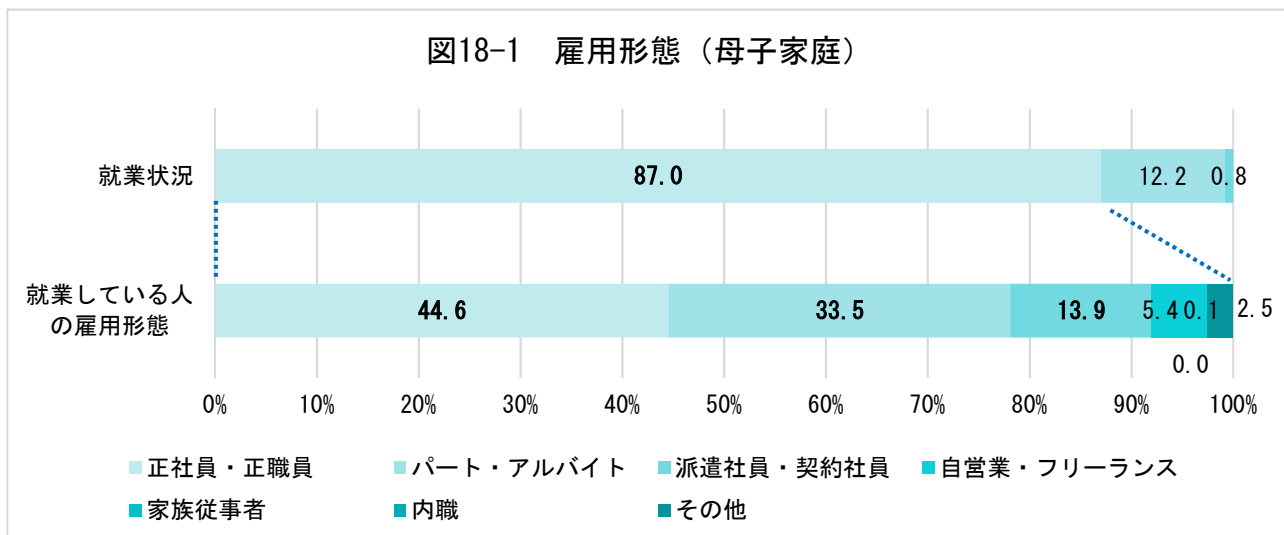
- 母子家庭では、「借家・アパート・賃貸マンション（54.8%）」の割合が最も多く、次いで「公営住宅等（23.3%）」となっている。
- 父子家庭では、「公営住宅等（46.3%）」の割合が最も多く、次いで「借家・アパート・賃貸マンション（27.8%）」となっている。
- 寡婦では、「公営住宅等（39.0%）」の割合が最も多く、次いで「借家・アパート・賃貸マンション（34.1%）」となっている。

(まとめ 5) 住まいの状況について

- いずれの世帯類型においても、住まいを決めるうえで最も重視する点は「家賃」となっているが、母子・父子家庭においては子の通園・通学も 2 番目に割合が高い。
- 前回調査と比較して、「公営住宅等」を希望する割合は減少。

Ⅲ 仕事の状況について

21-1 雇用形態（母子家庭）（SA）【母質問 25】



※就業状況は n = 1016、就業している人の雇用形態は n = 884

※「会社・団体等の役員」は正社員・正職員に含む

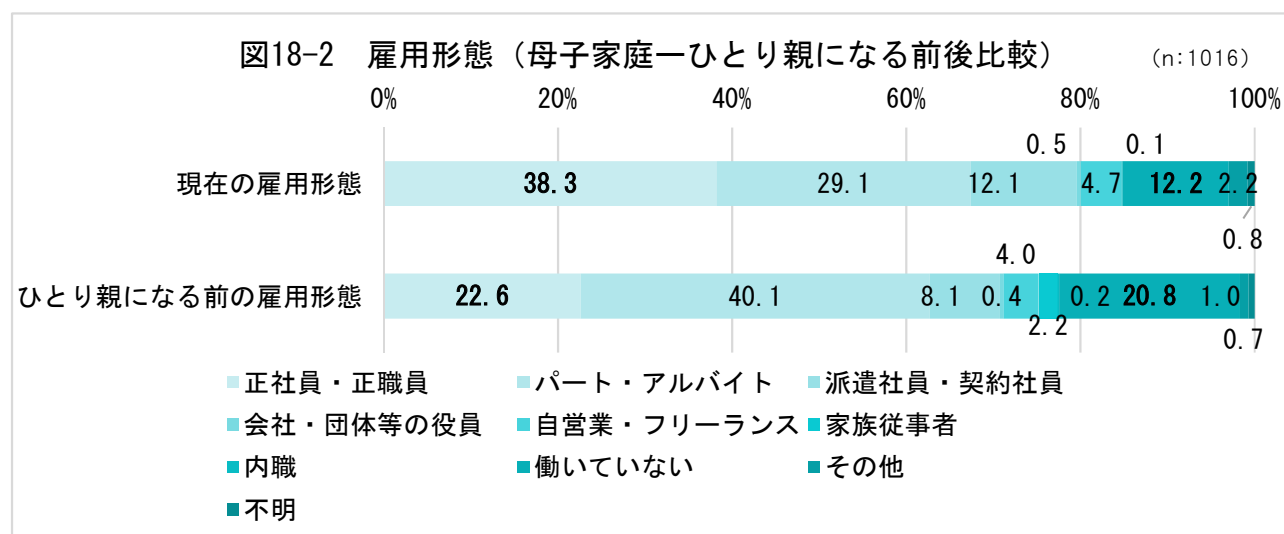
（前回調査比較）

		就業	正社員 正職員	パート アルバイト	派遣社員 契約社員	自営業
母子家庭	H29 調査	83.8%	35.2%	40.4%	17.8%	3.1%
	R4 調査	87.0%	44.6%	33.5%	13.9%	5.4%

（現状）

- 母子家庭の 87.0% が就業している。
- 就業している人における雇用形態では、「正社員・正職員（44.6%）」の割合が最も多く、次いで「パート・アルバイト（33.5%）」、「派遣社員・契約社員（13.9%）」となっている。

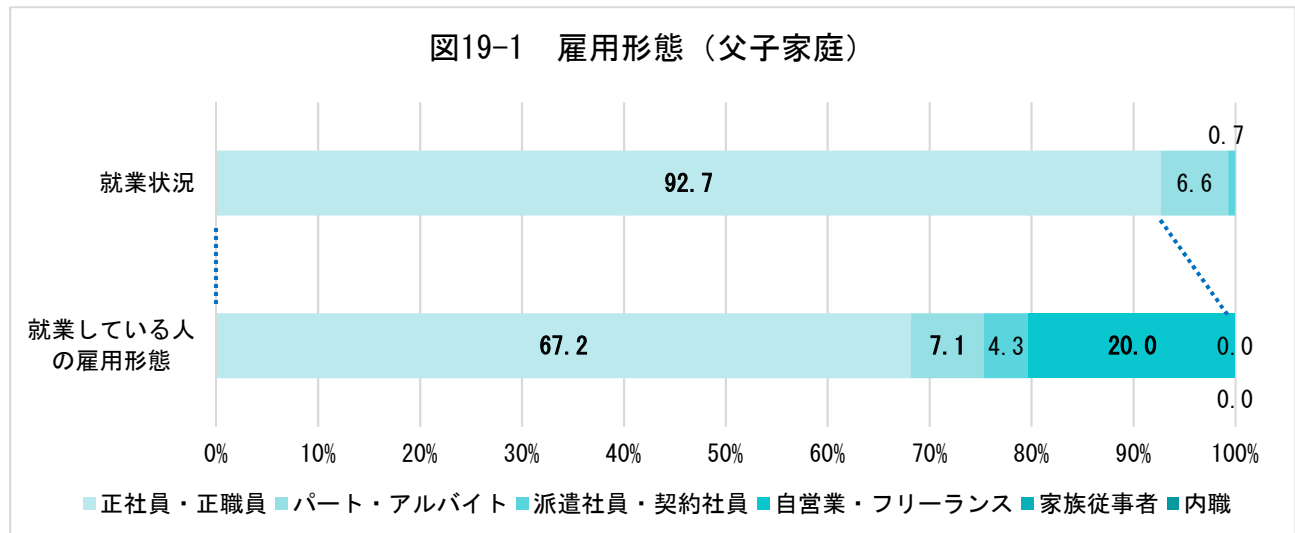
21-2 雇用形態（母子家庭—ひとり親になる前後比較）（SA）【母質問 24、25】



（現状）

- ひとり親になったことを機に、「正社員・正職員」の割合が 22.6% から 38.3% に増加し、「働いていない」の割合が 20.8% から 12.2% に減少している。

22-1 雇用形態（父子家庭）（SA）【父質問 25】



※就業状況は n = 151、就業している人の雇用形態は 140

※「会社・団体等の役員」は正社員・正職員に含む

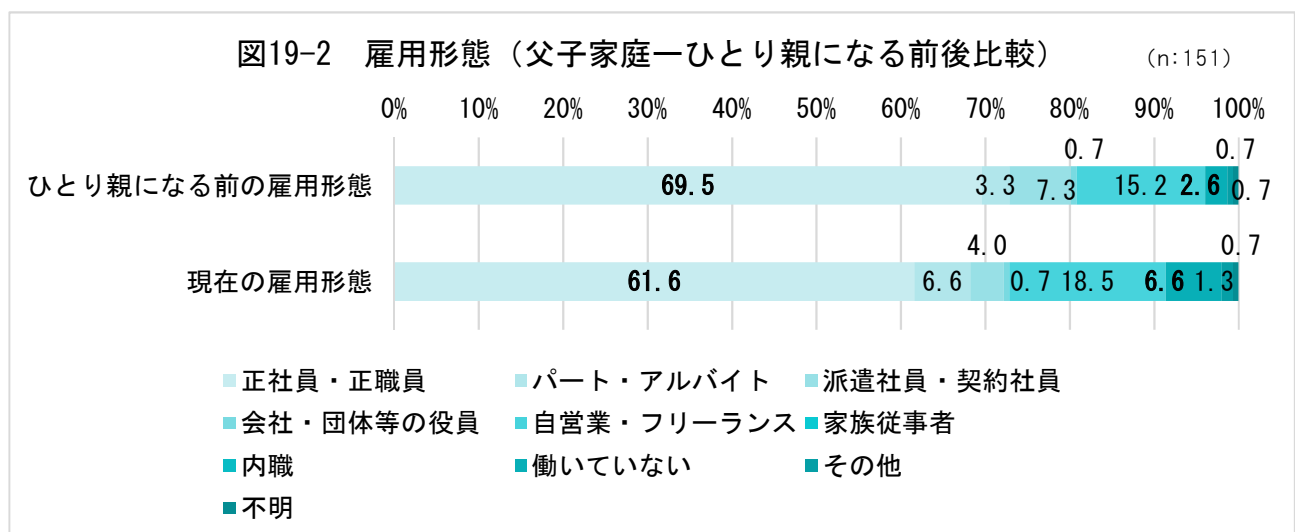
（前回調査比較）

		就業	正社員 正職員	パート アルバイト	派遣社員 契約社員	自営業
父子家庭	H29 調査	85.1%	58.8%	7.6%	8.4%	16.8%
	R4 調査	92.7%	67.2%	7.1%	4.3%	20.0%

（現状）

- 父子家庭の 92.7% が就業している。
- 就業している人における雇用形態では、「正社員・正職員（67.2%）」の割合が最も多く、次いで「自営業（20.0%）」、「パート・アルバイト（7.1%）」となっている。

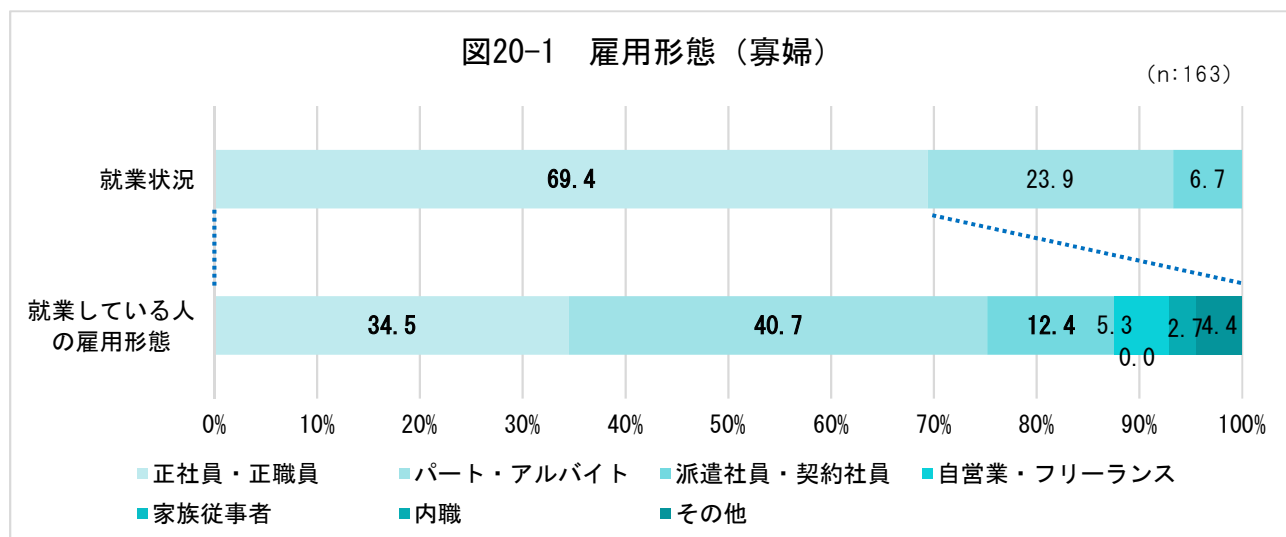
22-2 雇用形態（父子家庭—ひとり親になる前後比較）（SA）【父質問 24、25】



（現状）

- ひとり親になったことを機に、就業率とりわけ「正社員・正職員」の割合が 69.5% から 61.6% に減少し、「働いていない」の割合が 2.6% から 6.6% に増加している。

23-1 雇用形態（寡婦）（SA）【寡質問 15、16】



※就業状況は n = 163、就業している人の雇用形態は 113

※「会社・団体等の役員」は正社員・正職員に含む

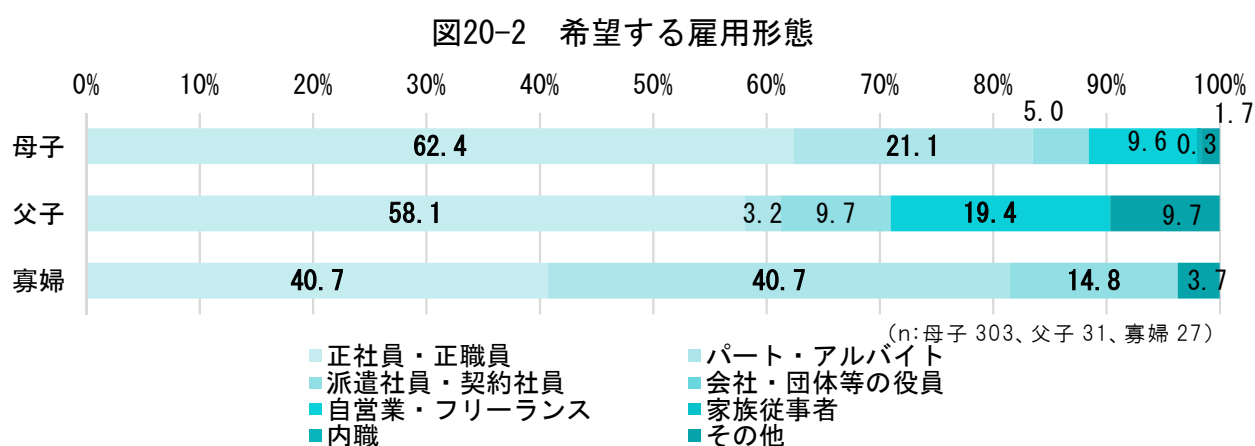
（前回調査比較）

		就業	正社員 正職員	パート アルバイト	派遣社員 契約社員	自営業
寡婦	H29 調査	65.4%	29.6%	48.8%	9.6%	6.4%
	R4 調査	69.4%	34.5%	40.7%	12.4%	5.3%

（現状）

- 寡婦の 69.4%が就業している。
- 就業している人の雇用形態では、「パート・アルバイト（40.7%）」の割合が最も多く、次いで「正社員・正職員（34.5%）」、「派遣社員・契約社員（12.4%）」となっている。

24 希望する雇用形態（SA）【母父質問 29、寡質問 20】 求職中又は転職を考えている人への質問



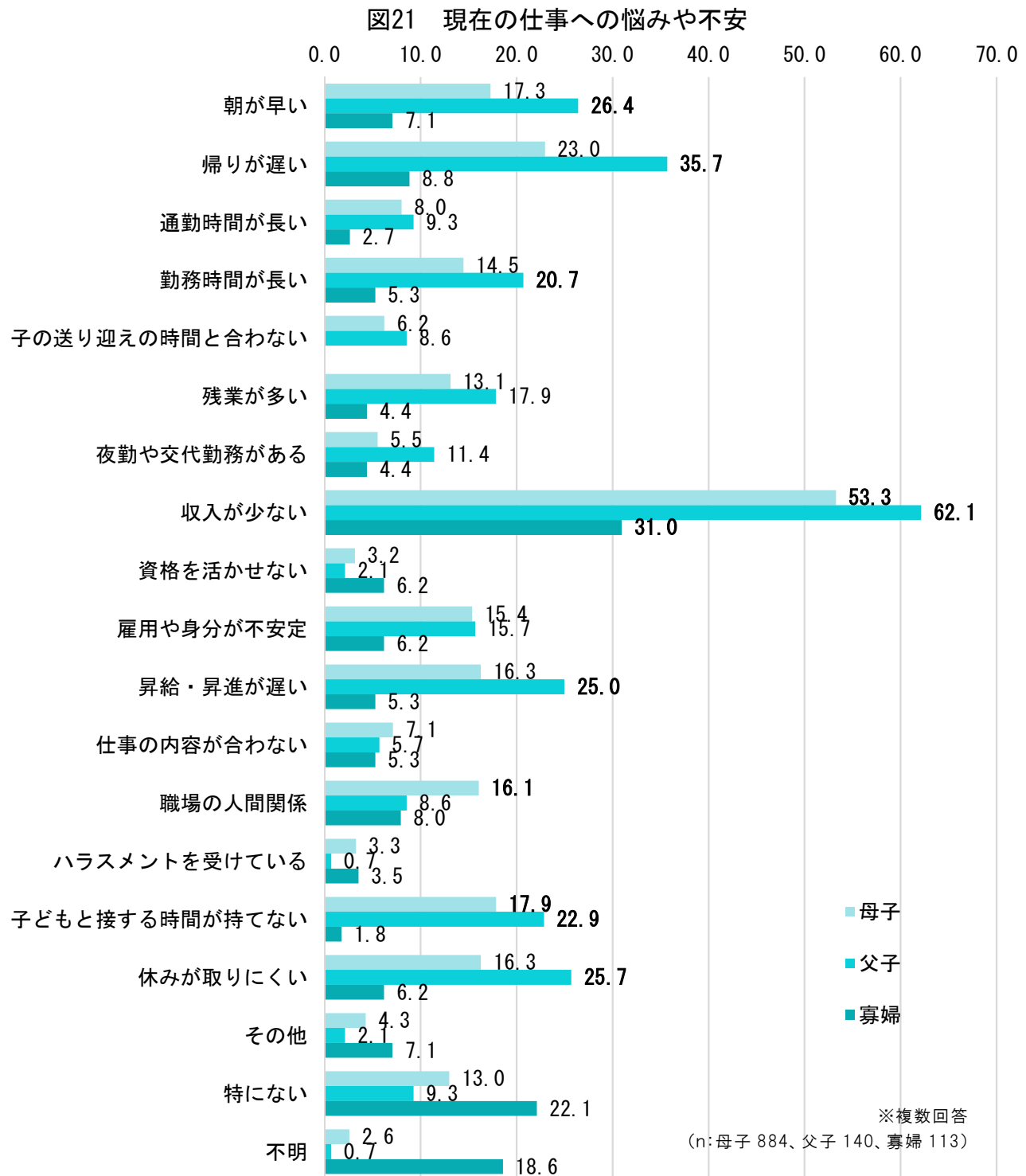
（現状）

- 母子家庭では、「正社員・正職員（62.4%）」の割合が最も多く、次いで「パート・アルバイト（21.1%）」となっている。
- 父子家庭では、「正社員・正職員（58.1%）」の割合が最も多く、次いで「自営業・フリーランス（19.4%）」となっている。
- 寡婦では、「正社員・正職員（40.7%）」と「パート・アルバイト（40.7%）」が同率で最も多く、次いで「派遣社員・契約社員（14.8%）」となっている。

(参考：令和3年厚生労働省労働力調査)

- 全国の雇用者の内の正規・非正規の割合：正規（63.3%）、非正規（36.7%）
- 札幌市の雇用者の内の正規・非正規の割合：正規（58.3%）非正規（41.7%）

25 仕事の悩みや不安（MA）【母父質問 26、寡 17】 現在働いている方への質問



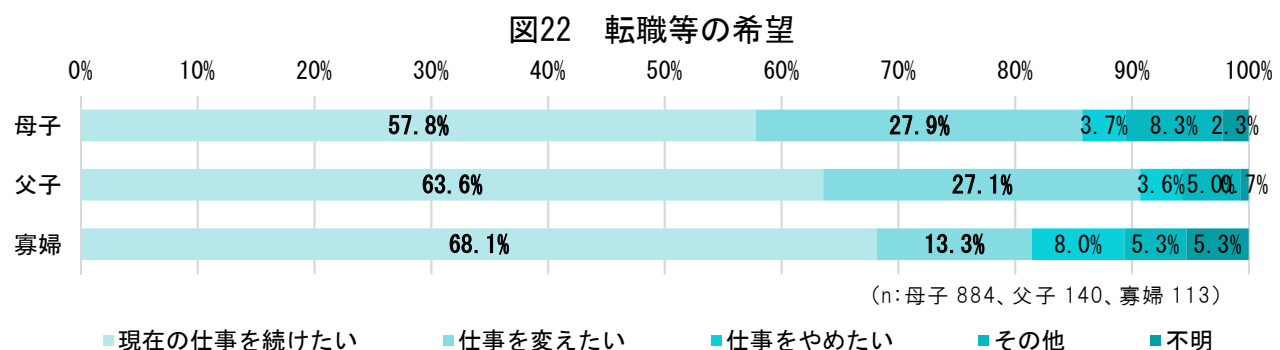
(前回調査比較)

		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	収入が少ない (61.5%)	帰りが遅い (23.4%)	雇用や身分が不安定 (22.7%)
	R 4 調査	収入が少ない (53.3%)	帰りが遅い (23.0%)	子どもと接する時間が持てない (17.9%)
父子家庭	H29 調査	収入が少ない (61.8%)	帰りが遅い (26.0%)	朝が早い (26.0%)
	R 4 調査	収入が少ない (62.1%)	帰りが遅い (35.7%)	朝が早い (26.4%)
寡婦	H29 調査	収入が少ない (44.8%)	職場の人間関係 (21.6%)	雇用や身分が不安定 (20.0%)
	R 4 調査	収入が少ない (31.0%)	特にない (22.1%)	職場の人間関係 (8.0%)

(現状)

- 母子家庭、父子家庭、寡婦とも「収入が少ない（母子家庭 53.3%）（父子家庭 62.1%）（寡婦 31.0%）」の割合が最も多くなっている。
- 母子家庭は、父子家庭と比較して、「職場の人間関係（16.1%）」の割合が多くなっている。
- 父子家庭は、「朝が早い（26.4%）」、「帰りが遅い（35.7%）」、「勤務時間が長い（20.7%）」などの勤務時間に関する悩みの割合が多くなっているほか、「昇給・昇進が遅い（25.0%）」、「休みがとりにくい（25.7%）」等の割合も多い。
- また、母子家庭、父子家庭共通して、「子どもと接する時間が持てない（母子家庭 17.9%）（父子家庭 22.9%）」と回答した人の割合が多くなっている。

26 転職等の希望（SA）【母父質問 23、寡 18】現在働いている方への質問



(前回調査比較)

		今の仕事を続けたい	仕事を変えたい
母子家庭	H29 調査	55.2%	32.1%
	R 4 調査	57.8%	27.9%
父子家庭	H29 調査	66.1%	24.4%
	R 4 調査	63.6%	27.1%
寡婦	H29 調査	76.8%	12.8%
	R 4 調査	68.1%	13.3%

(現状)

- 「今の仕事を続けたい」と回答した人の割合は、母子家庭 57.8%、父子家庭 63.6%、寡婦 68.1%となっている。
- 「仕事を変えたい」と回答した人の割合は、母子家庭 27.9%、父子家庭 27.1%、寡婦 13.3%となっている。

27 資格の保有状況 (MA)【母父質問 30、寡婦 21】

	1 位	2 位	3 位
母子	自動車一種免許 (普通) (51.2%)	簿記・珠算・速記 (15.6%)	ホームヘルパー (11.8%)
父子	自動車一種免許 (普通) (59.6%)	自動車二種免許 (大型・小型) (13.2%)	パソコン・Web 関係 (10.6%)
寡婦	自動車一種免許 (普通) (52.1%)	簿記・珠算・速記 (29.4%)	ホームヘルパー (26.4%)

28 今後取得したい資格 (MA)【母父質問 30、寡婦 21】

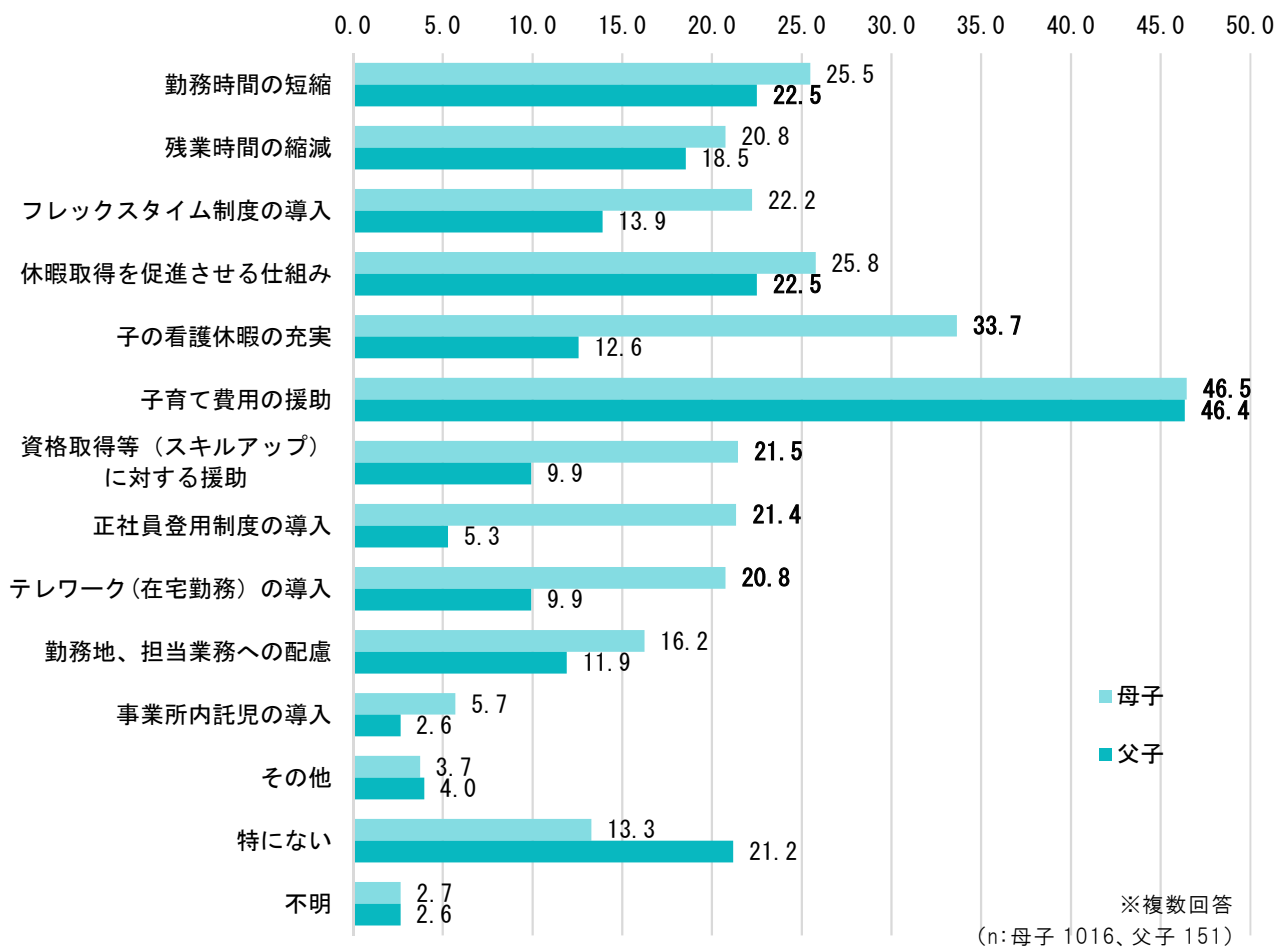
	1 位	2 位	3 位
母子	パソコン・WEB 関係 (8.2%)	簿記・珠算・速記 (7.7%)	介護福祉士 (4.5%)
父子	自動車二種免許 (大型・小型) (6.0%)	自動車一種免許 (普通)、簿記・珠算・速記 (5.3%)	
寡婦	介護福祉士 (3.1%)	社会福祉士、あん摩マッサージ師、パソコン・Web 関係 (1.8%)	

(現状)

- 母子家庭では、「パソコン・WEB 関係 (8.2%)」の割合が最も多く、次いで「簿記・珠算・速記 (7.7%)」、「介護福祉士 (4.5%)」となっている。また、何らかの資格を取得したいと考えている人の割合は 31.7%となっている。
- 父子家庭では、「自動車二種免許 (6.0%)」の割合が最も多く、次いで「介護福祉士 (4.5%)」、「自動車整備士 (3.9%)」となっている。また、何らかの資格を取得したいと考えている人の割合は 27.8%となっている。
- 寡婦では、「パソコン・ワープロ (7.3%)」の割合が最も多く、次いで「介護福祉士 (3.1%)」、「社会福祉士 (3.1%)」となっている。また、何らかの資格を取得したいと考えている人の割合は 11.0%となっている。
- 母子家庭において、選択肢にないもののうち、取得したい資格として複数名が挙げていたのは、ケアマネージャー (3 人) と FP・公認心理士・社労士・(各 2 人) であった。

29 子育てをしながら働くために会社に望むこと (MA)【母父質問 31】

図23 子育てをしながら働くために会社に望むこと



(現状)

- 母子家庭で特に希望が多いのは、「子育て費用の援助（46.5%）」、次いで「子の看護休暇の充実（33.7%）」となっている。
- 父子家庭で特に希望が多いのは、「子育て費用の援助（46.4%）」、次いで「勤務時間の短縮」「休暇取得を促進させる仕組み」が同率（22.5%）となっている。
- 会社に望むこととして、母子家庭と父子家庭で特に差があった項目は「子の看護休暇の充実（21.1ポイント差）」「正社員登用制度の導入（16.1ポイント差）」「資格取得等に対する援助（11.6ポイント差）」「テレワークの導入（10.9ポイント差）」であり、いずれも母子の方がポイントが高くなっている。

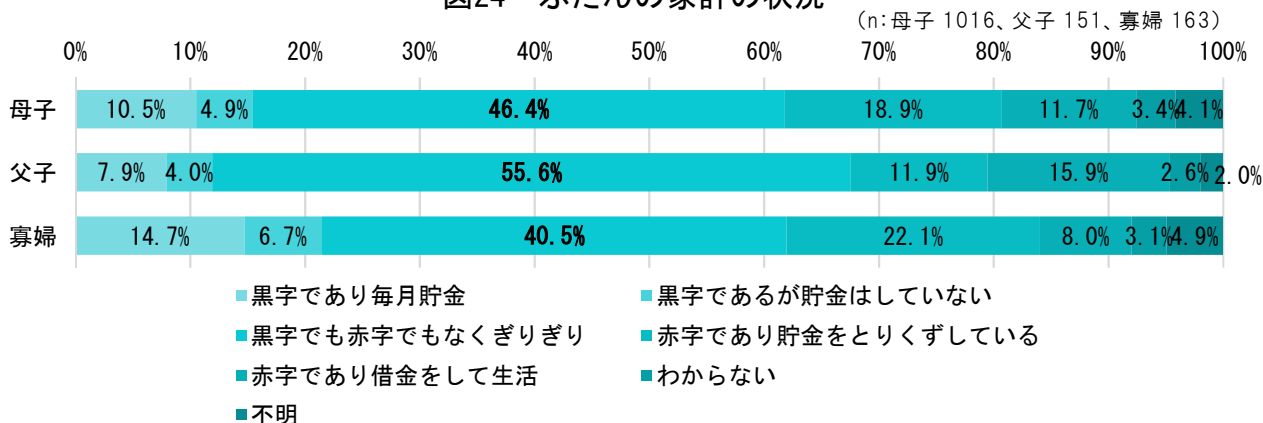
（まとめ6） 雇用状況等について

- いずれの世帯類型においても、前回調査より就業者の割合が増加している。
- 就業している人の雇用形態では、いずれの世帯類型においても、「正社員・正職員」の割合が増加し、「パート・アルバイト」の割合が減少している。
- 母子家庭は、ひとり親家庭になったことにより、「正社員・正職員」の割合が増加しており、家計を支えるために転職したものと推測される。
- 父子家庭は、ひとり親家庭になったことにより、「正社員・正職員」の割合が減少しており、子育てのための時間を確保するために転職・退職したものと推測される。
- 会社に望むこととして、母子家庭では、「子の看護休暇の充実」、父子家庭では、「勤務時間の短縮」「休暇取得を促進させる仕組み」と回答した人が多いのが特徴である。
- いずれの世帯類型においても、「仕事を変えたい」と回答した人よりも「今の仕事を続けたい」と回答した人の割合が高い。

IV 家計の状況について

30 世帯の家計の状況(SA)【母父質問 32、寡 22】

図24 ふだんの家計の状況

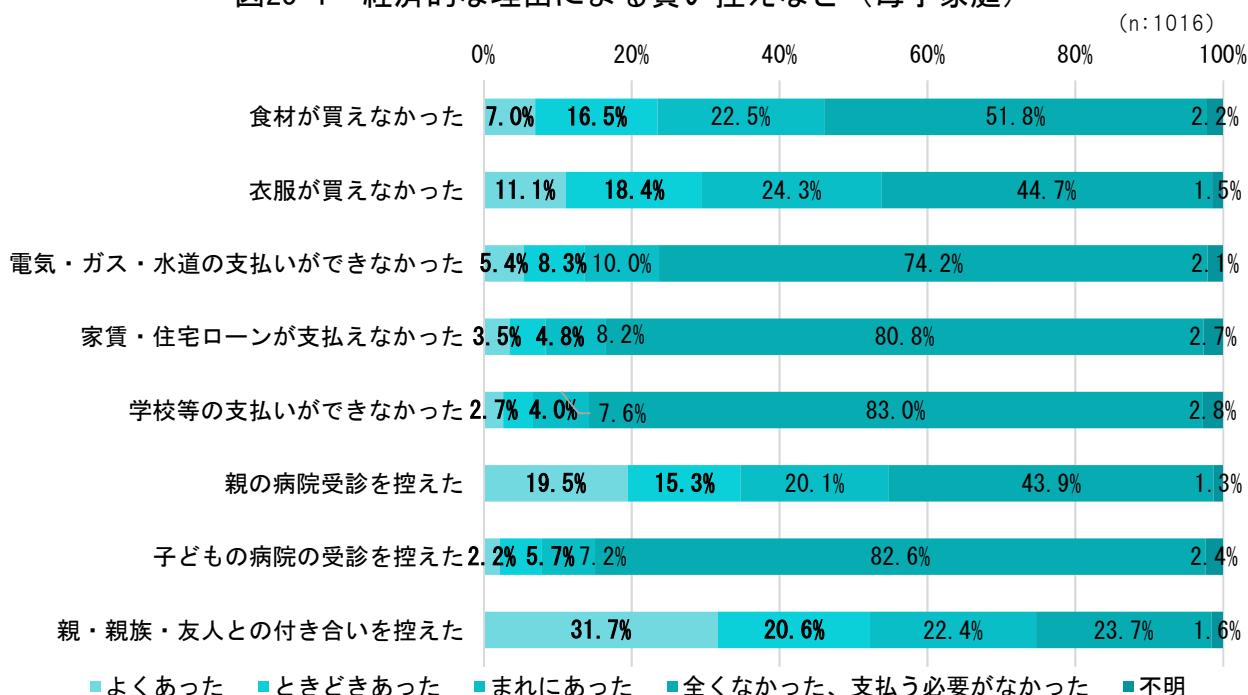


(現状)

- 黒字となっている世帯は母子家庭で 15.4%、父子家庭で 11.9%、寡婦家庭で 21.4%にとどまっている。

31-1 経済的な理由により購入できなかったことなど(母子家庭)【母質問 33】

図25-1 経済的な理由による買い控えなど(母子家庭)



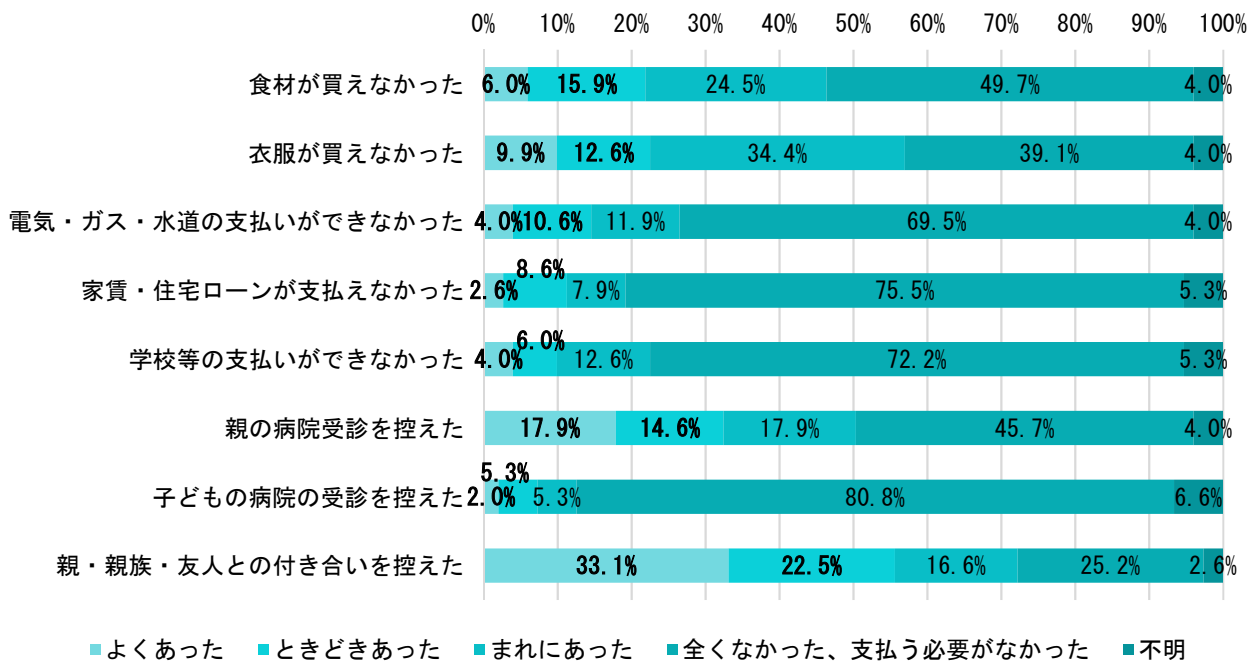
(現状)

- 親の病院の受診、親や友人との付き合いを控える割合が高くなっている。

31-2 経済的な理由により購入できなかったことなど（父子家庭）【父質問】

図25-2 経済的な理由による買い控えなど（父子家庭）

(n:151)



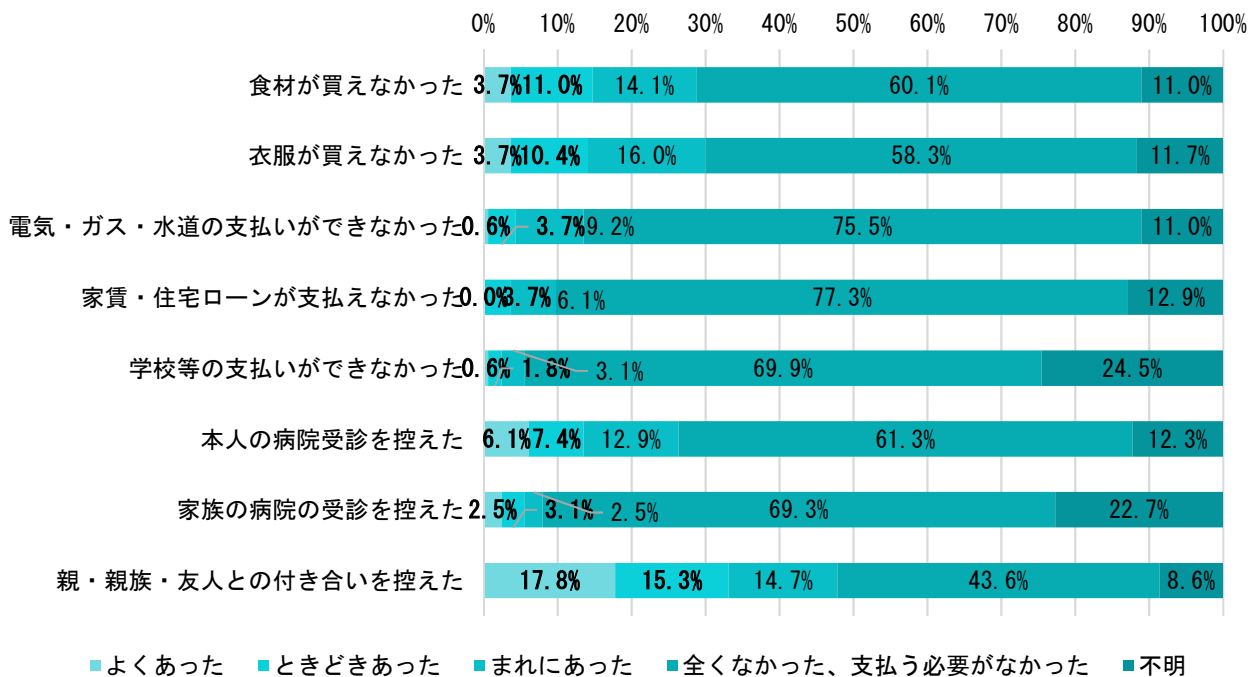
（現状）

- 親の病院の受診、親や友人との付き合いを控える割合が高くなっている。

31-3 経済的な理由により購入できなかったことなど（寡婦）【寡質問 23】

図25-3 経済的な理由による買い控えなど（寡婦）

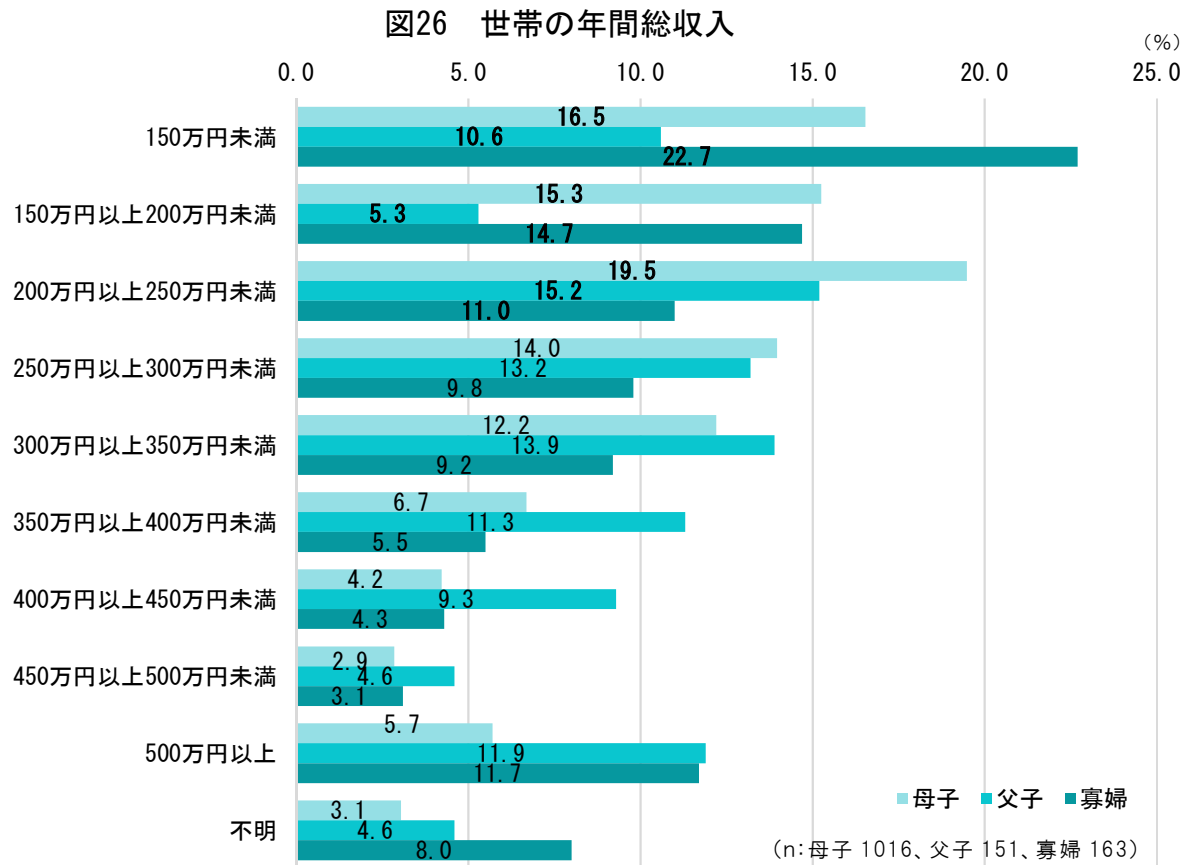
(n:163)



（現状）

- 親や友人との付き合いを控える割合が高くなっている。

32 世帯の年間総収入 (SA) 【母父質問 34、寡 24】



(前回調査比較)

		母子世帯	父子世帯	寡婦
年間総収入 300 万円未満	H29 調査	71.3%	59.7%	62.8%
	R4 調査	65.3%	44.3%	58.2%

(現状)

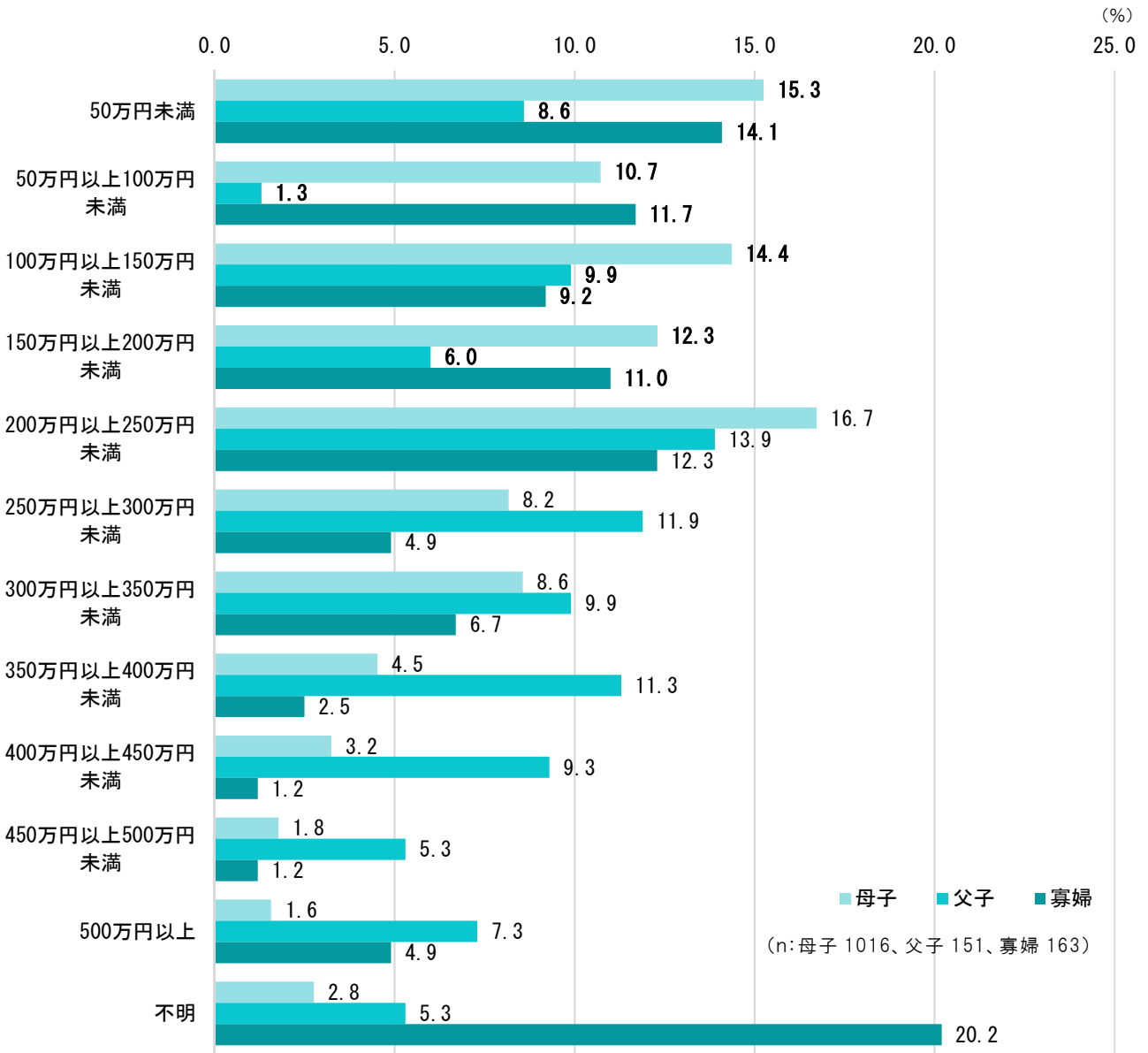
- 母子家庭では、「300 万円未満」の世帯の割合が 65.3%となっている。
- 父子家庭では、「300 万円未満」の世帯の割合が 44.3%となっている。
- 寡婦では、「300 万円未満」の世帯の割合が 58.2%となっている。

【参考：令和元年度札幌市民経済計算】

市民一人当たり所得：293 万円

33 年間就労収入（SA）【母父質問 35、寡 25】

図27 年間就労収入



(前回調査比較)

		母子世帯	父子世帯	寡婦
年間就労収入 200 万円未満	H29 調査	62.8%	37.0%	56.0%
	R4 調査	52.7%	25.8%	46.0%

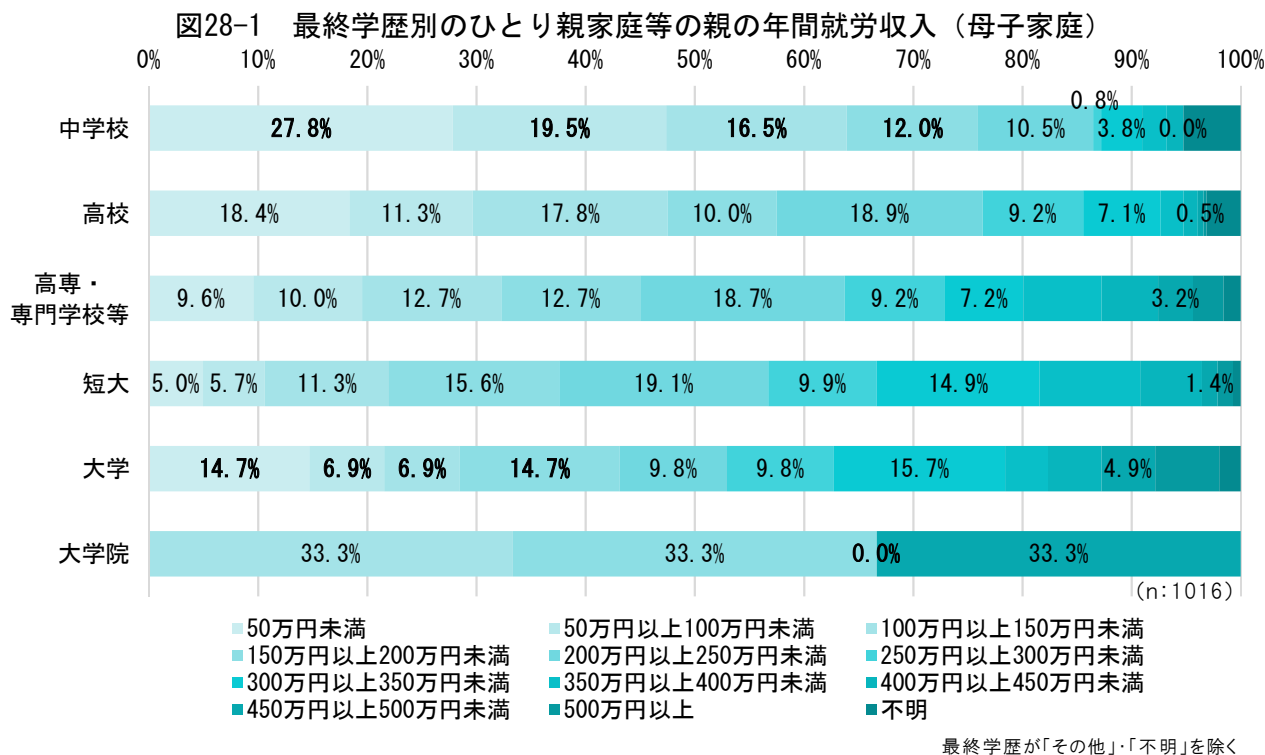
(現状)

- 母子家庭では、「200 万円未満」の人の割合が 52.7%となっている。
- 父子家庭では、「200 万円未満」の人の割合が 25.8%となっている。
- 寡婦では、「200 万円未満」の人の割合が 46.0%となっている。

【参考：令和 3 年厚生労働省毎月勤労統計調査】

札幌市の年間平均賃金：男性（535 万円）、女性（304 万円）

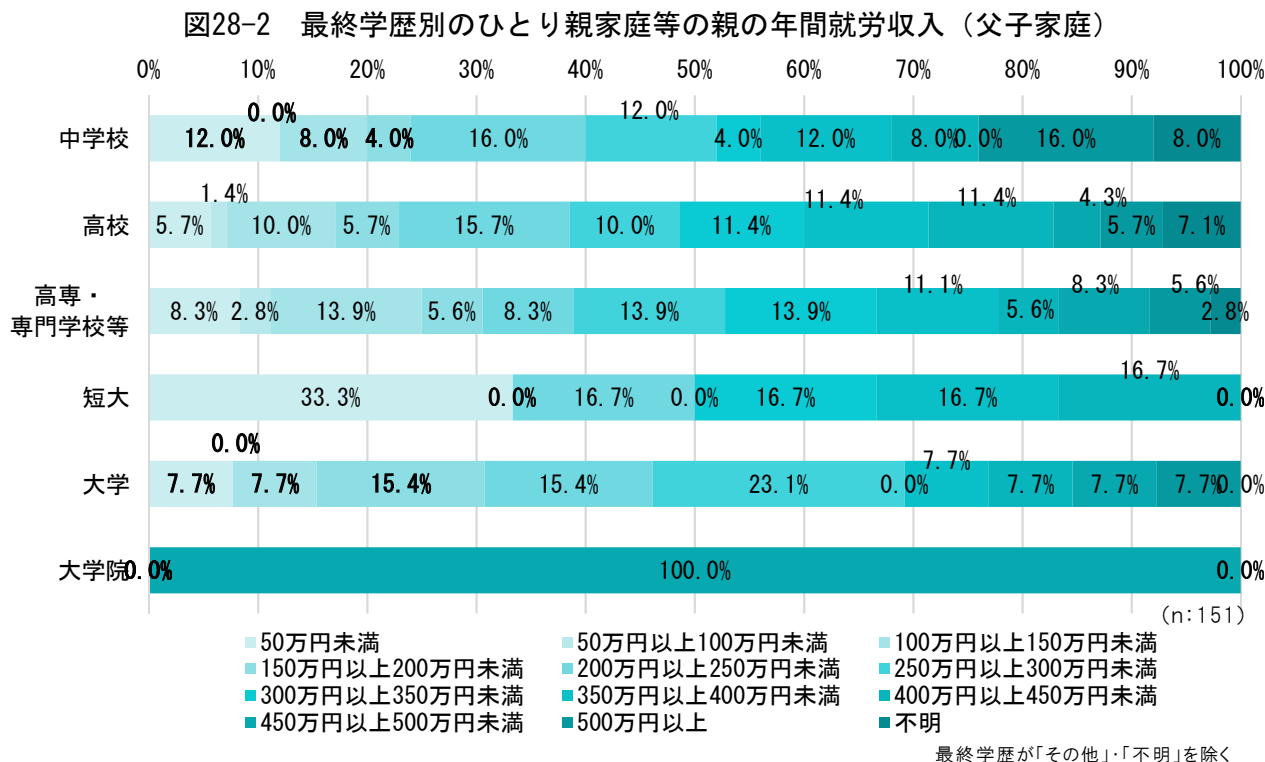
34-1 親の最終学歴と年間就労収入（母子家庭）



（現状）

- 母子家庭では、中学校卒業の「200 万円未満」の人の割合は 75.9%で、大学卒業では 43.1%となっている。

34-2 親の最終学歴と年間就労収入（父子家庭）

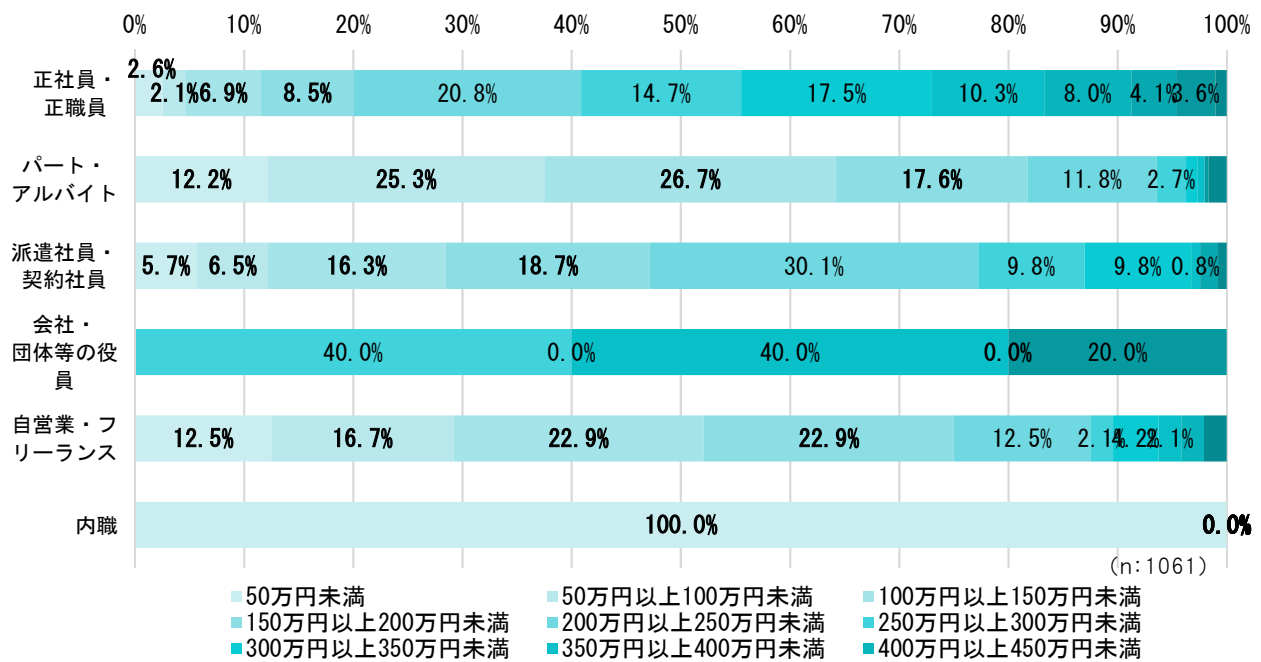


（現状）

- 父子家庭では、中学校卒業の「200 万円未満」の人の割合は 24.0%で、大学卒業では 30.8%となっている。

34-3 雇用形態と年間就労収入（母子家庭）

図28-3 雇用形態別の年間就労収入（母子家庭）

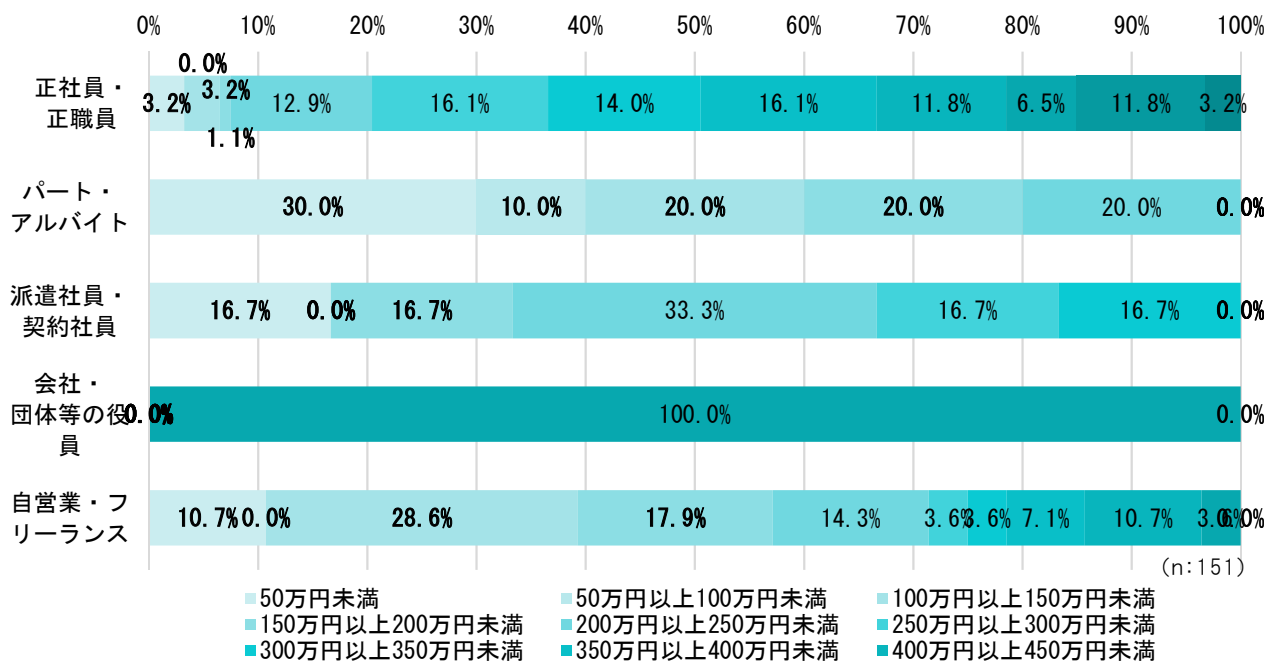


（現状）

- 正社員・正職員の 200 万円未満の割合は 20.1%、パート・アルバイトでは 81.8%となっている。

34-4 雇用形態と年間就労収入（父子家庭）

図28-4 雇用形態別年間就労収入（父子家庭）



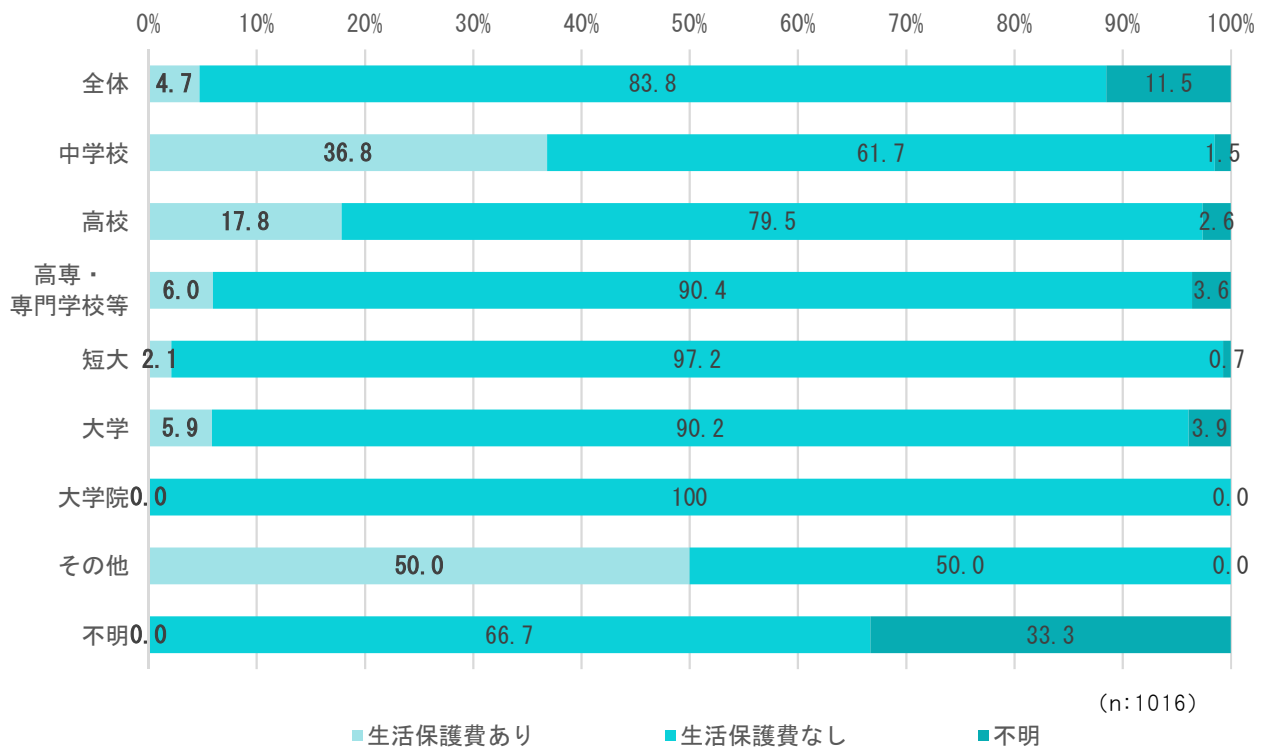
「その他」・「不明」及び件数が0件のものを除く

（現状）

- 正社員・正職員の 200 万円未満の割合は 7.5%、パート・アルバイトでは 80.0%となっている。

34-5 親の最終学歴と生活保護受給率（母子家庭）【母質問 5、36】

図28-5 生活保護受給世帯（母子家庭）



（前回調査比較）

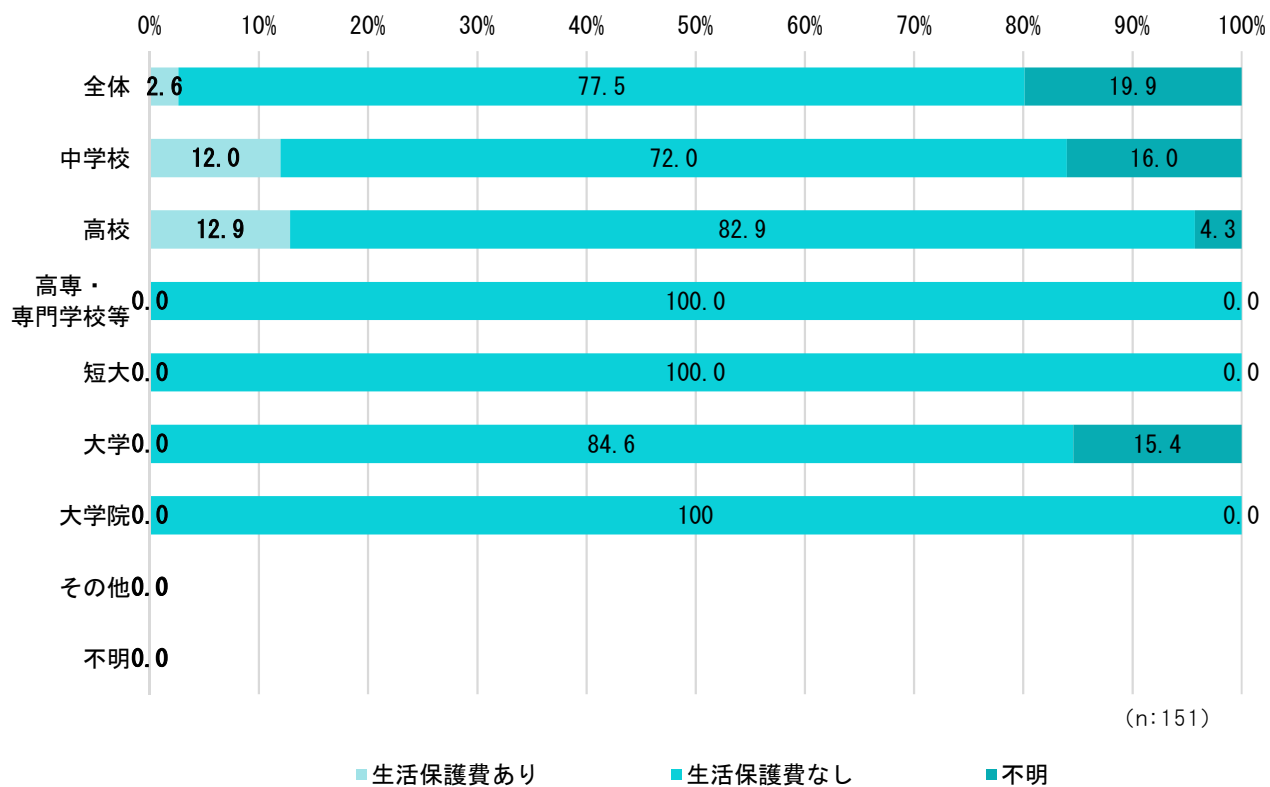
		生活保護費あり	生活保護費なし	不明
生活保護受給率 （全体）	H29 調査	18.3%	71.9%	9.8%
	R4 調査	4.7%	83.8%	11.5%

（現状）

- 「生活保護費あり」と回答した人のうち、最終学歴が中学校の場合は 36.8%であったのに対し、大学の場合は「5.9%」であった。

34-6 親の最終学歴と生活保護受給率（父子家庭）【父質問 5、36】

図28-6 生活保護受給世帯（父子家庭）



（前回調査比較）

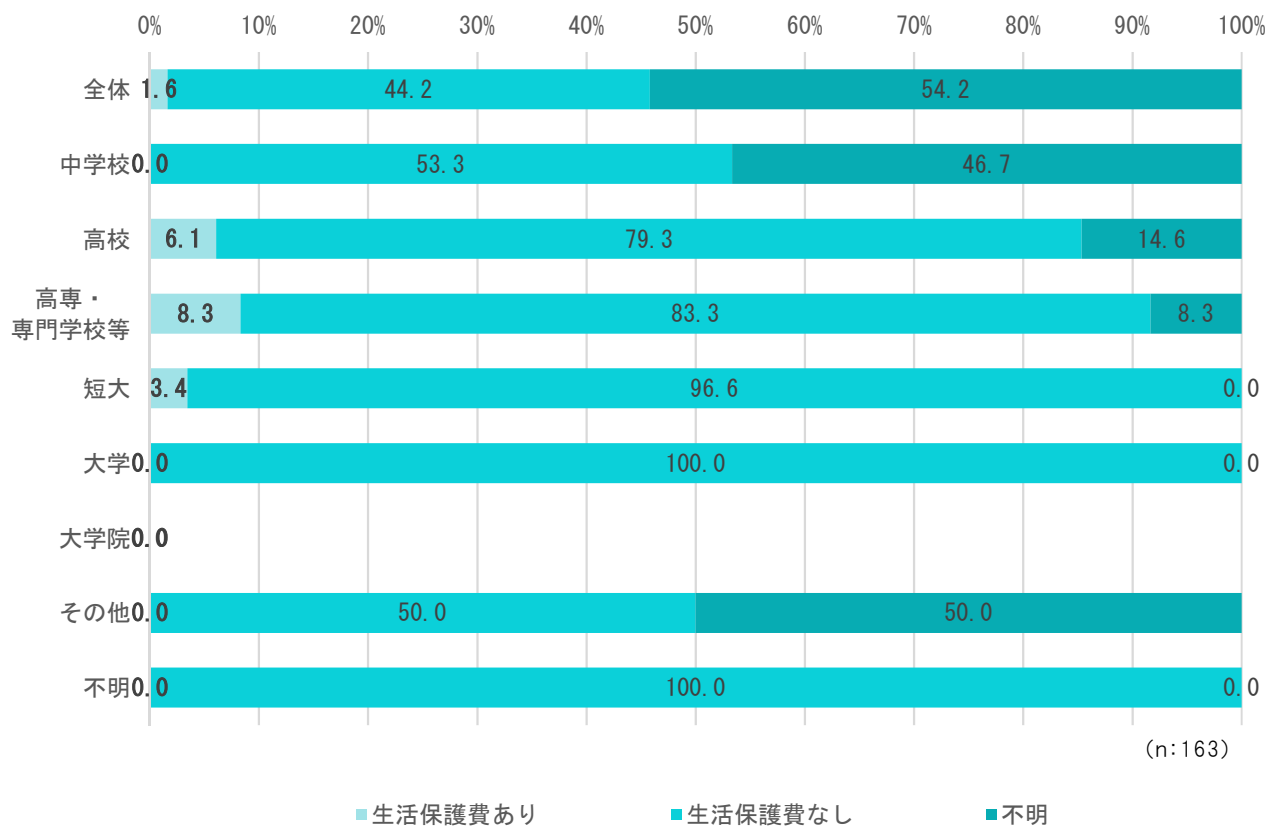
		生活保護費あり	生活保護費なし	不明
生活保護受給率 （全体）	H29 調査	11.0%	74.7%	14.3%
	R4 調査	2.6%	77.5%	19.9%

（現状）

- 「生活保護費あり」と回答した人のうち、最終学歴が中学校の場合は 12.0%であったのに対し、大学の場合は「0.0%」であった。

34-7 親の最終学歴と生活保護受給率（寡婦）【寡質問 5、26】

図28-7 生活保護受給世帯（寡婦）



（前回調査比較）

		生活保護費あり	生活保護費なし	不明
生活保護受給率 （全体）	H29 調査	5.2%	77.0%	17.8%
	R4 調査	1.6%	44.2%	54.2%

（現状）

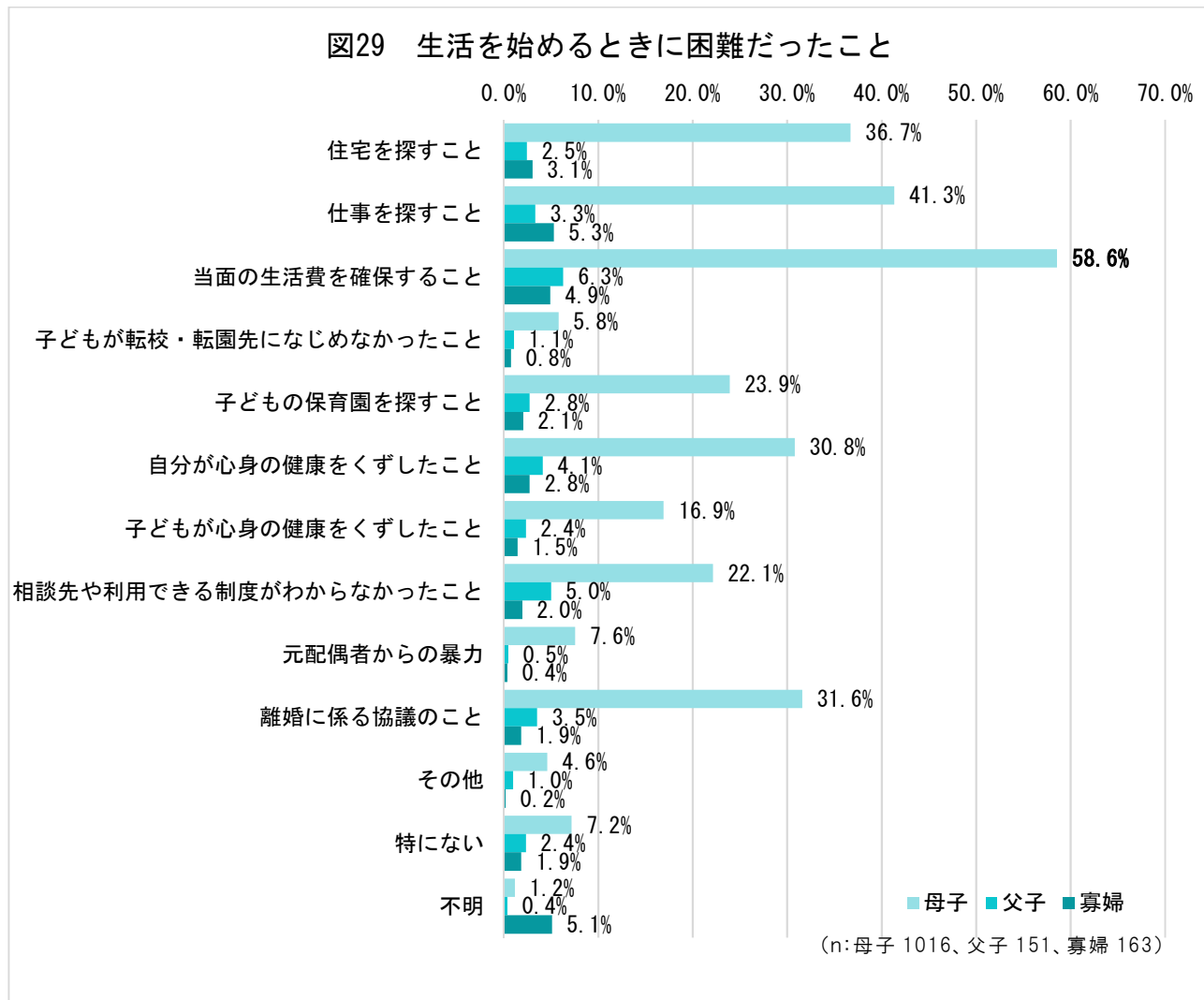
- 不明・無回答者が多いため分析困難であるが、最終学歴が大学の場合は「生活保護費あり」の割合が 0.0%であった。

（まとめ 7） 収入状況等から見た課題

- いずれの世帯類型においても、世帯の年間総収入が「300 万円未満」と回答した人の割合、年間就労収入が「200 万円未満」と回答した人の割合が、前回調査より減少しており、世帯収入としては増加傾向にあることがうかがえる。
- 母子家庭では、年間の就労収入が「200 万円未満」と回答した人の割合が、正社員で 20.1%、パート・アルバイトでは 81.8%と 4 倍以上の開きがみられる。
- いずれの世帯類型においても、「生活保護費あり」と回答した人の割合が前回調査時よりも減少している。
- 母子家庭では、最終学歴が上がるにつれ、生活保護を受けている割合が減少する傾向にあり、中でも最終学歴が中学校の人は生活保護を受給している割合が突出して高い。

V 養育費の受け取り状況などについて

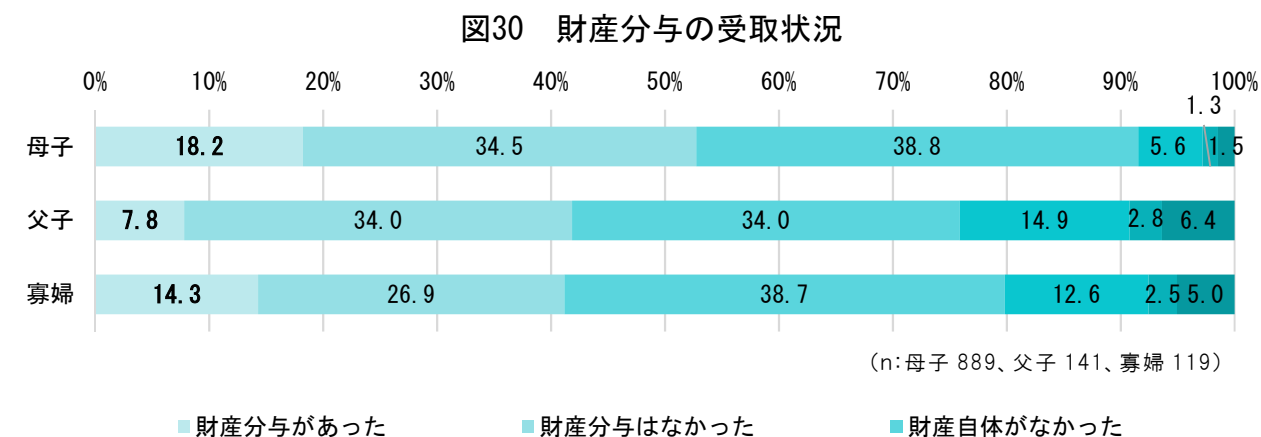
35 ひとり親としての生活を始めるときに困難だったこと (MA)【母父質問 39、寡 28】



(現状)

- 全ての項目において、母子家庭は父子家庭と比較して困難を感じる場面が多く、特に当面の生活費を確保することの割合が 58.6%と高くなっている。

36 財産分与の状況 (SA)【母父質問 41、寡 30】ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

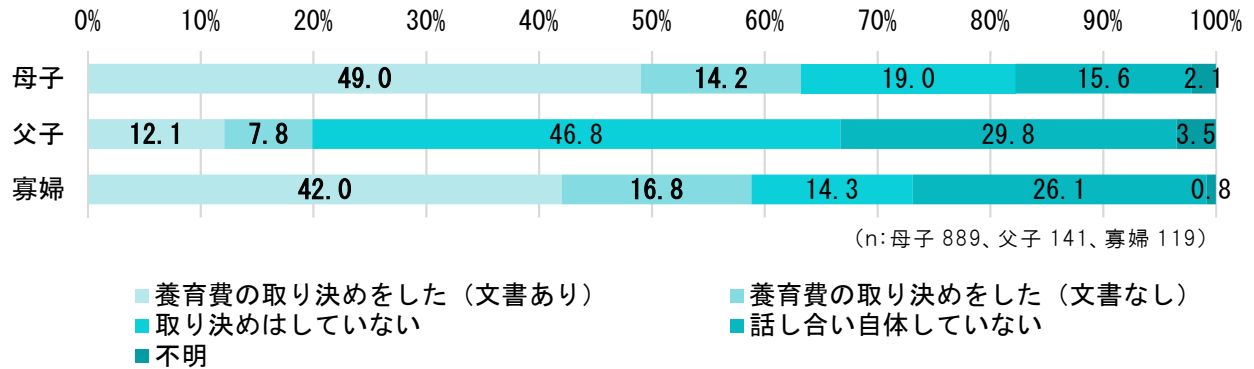


(現状)

- 母子家庭では、「財産分与があった」人の割合が 18.2%となっている。
- 父子家庭では、「財産分与があった」人の割合が 7.8%となっている。
- 寡婦では、「財産分与があった」人の割合が 14.3%となっている。

37 養育費の取決状況 (SA)【母父質問 42、寡 31】ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

図31 養育費の取決状況



(前回調査比較)

		取決めをした	取決めをしなかった
母子家庭	H29 調査	52.6%	47.1%
	R4 調査	63.2%	35.4%
父子家庭	H29 調査	19.9%	76.6%
	R4 調査	20.6%	79.4%
寡婦	R4 調査	58.8%	40.4%

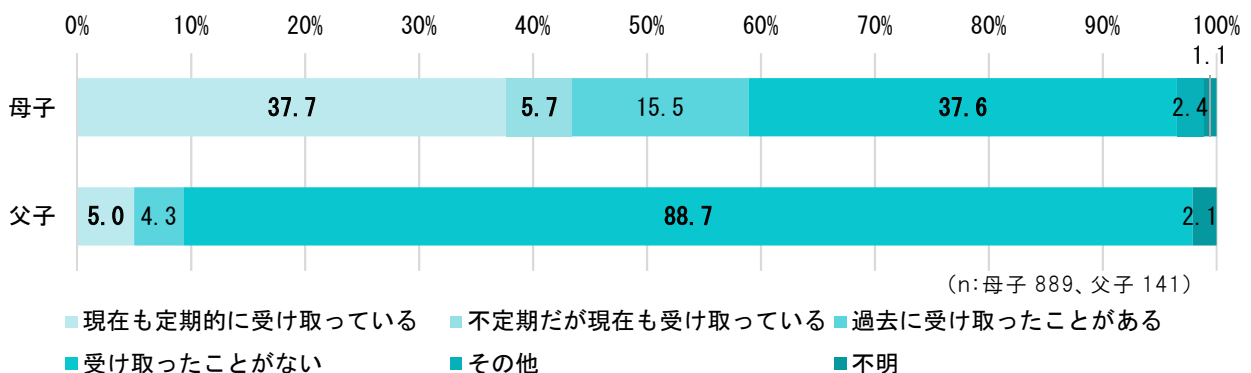
※ 前回調査時寡婦データなし

(現状)

- 母子家庭では、「養育費取り決めをした」人の割合が 63.2%となっている。
- 父子家庭では、「養育費取り決めをした」人の割合が 19.9%となっている。
- 寡婦では、「養育費取り決めをした」人の割合が 58.8%となっている。

38 養育費の受取状況 (SA)【母父質問 44】ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

図32 養育費の受取状況



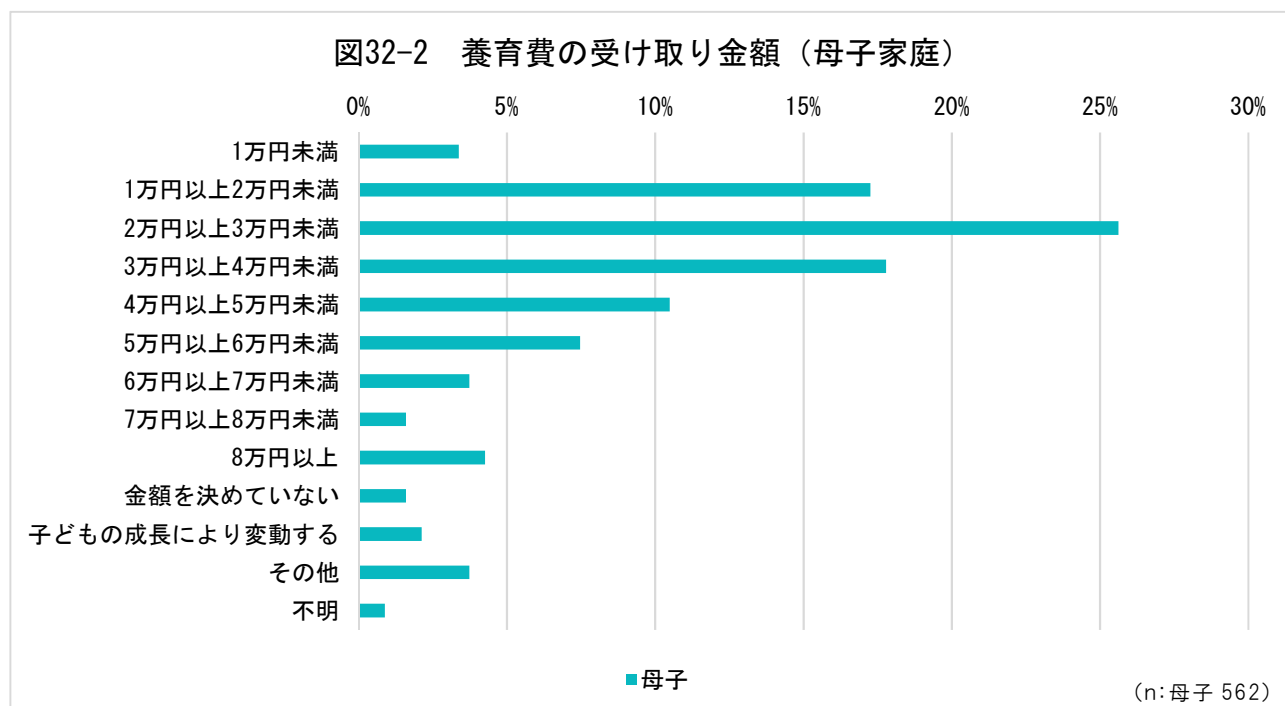
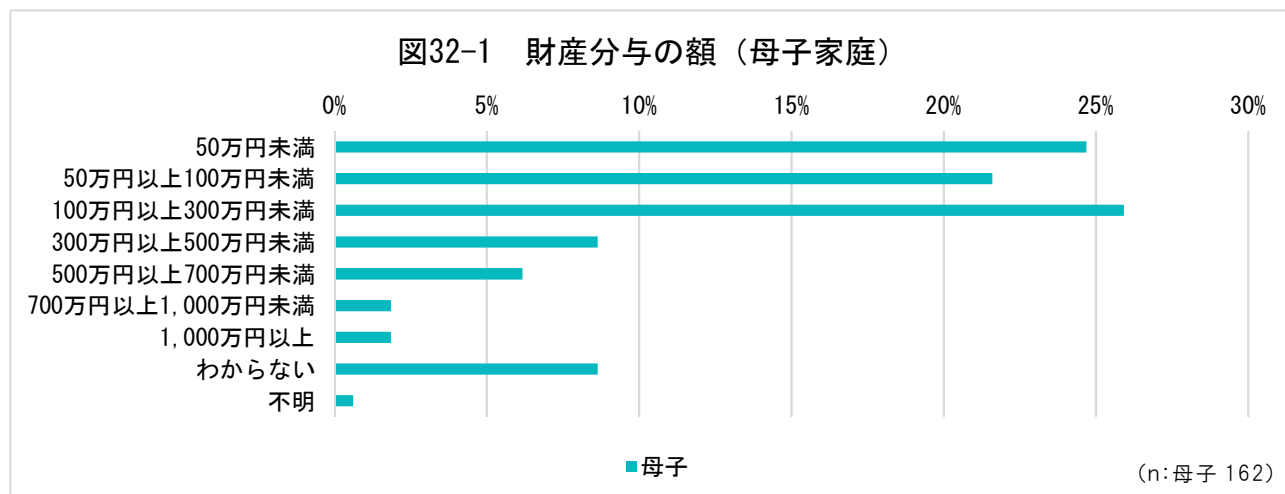
(前回調査比較)

		現在も受け取っている (R4 定期・不定期合算)	受け取ったことがある	受け取ったことがない
母子家庭	H29 調査	34.0%	15.5%	49.7%
	R4 調査	43.4%	15.5%	37.6%
父子家庭	H29 調査	6.5%	2.9%	87.7%
	R4 調査	5.0%	4.3%	88.7%

(現状)

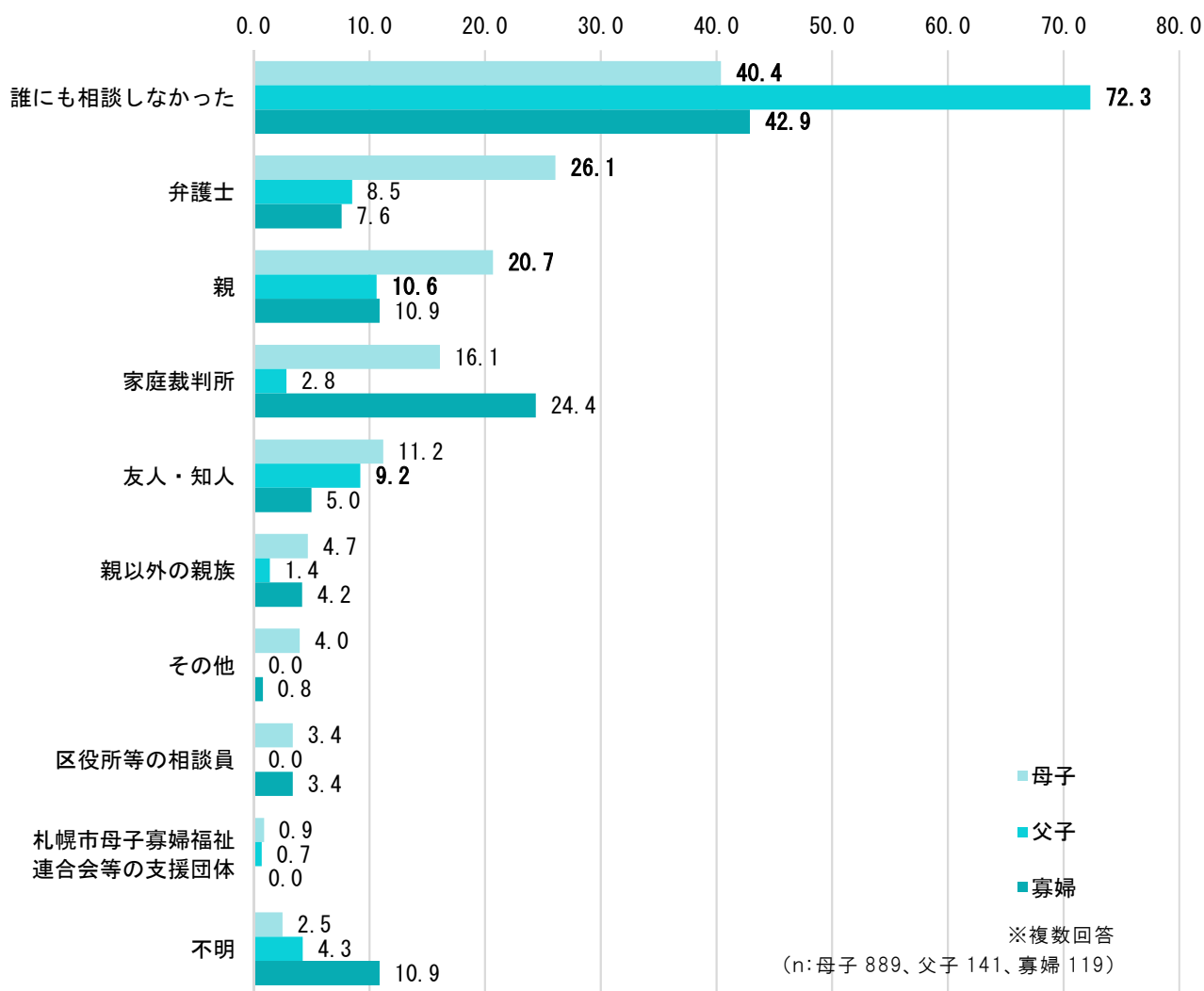
- 母子家庭では、「現在も受け取っている」人の割合が 43.4%、「受け取ったことがない」人の割合が 37.6%となっている。
- 父子家庭では、「現在も受け取っている」人の割合が 5.0%、「受け取ったことがない」人の割合が 88.7%となっている。

38-1 財産分与と養育費の受取金額 (SA)【母質問 41-1、45】財産分与が「あった」、養育費の取決めに「交わした」と回答した者



39 養育費の相談（MA）【母父質問 43、寡 32】ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

図33 養育費取り決め時の相談先



(前回調査比較)

		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	誰にも相談しなかった (39.9%)	親 (25.9%)	家庭裁判所 (21.1%)
	R4 調査	誰にも相談しなかった (40.4%)	弁護士 (26.1%)	親 (20.7%)
父子家庭	H29 調査	誰にも相談しなかった (66.7%)	弁護士 (12.3%)	親、家庭裁判所 (9.4%)
	R4 調査	誰にも相談しなかった (72.3%)	親 (10.6%)	友人・知人 (9.2%)
寡婦	R4 調査	誰にも相談しなかった (42.9%)	家庭裁判所 (24.4%)	親・不明 (10.9%)

※ 前回調査時寡婦データなし

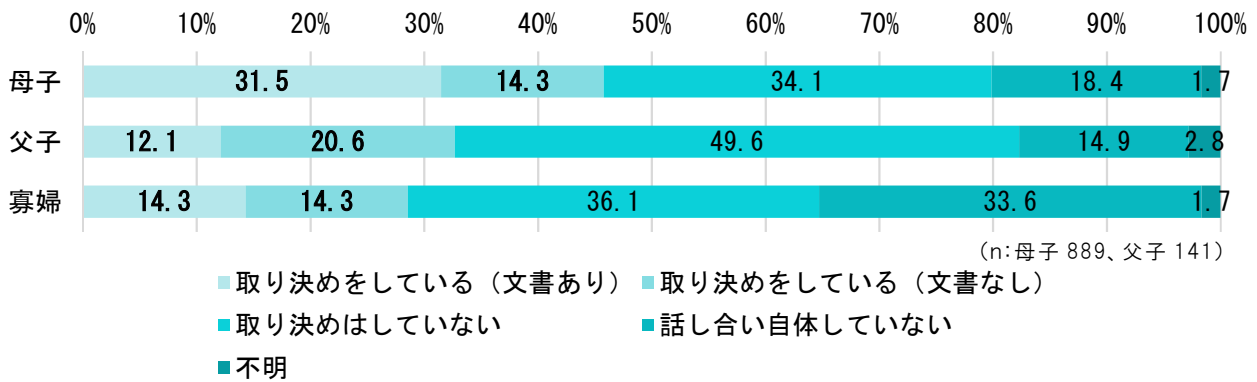
(現状)

○ 母子家庭では、「誰にも相談しなかった (40.4%)」の割合が最も多く、次いで「弁護士 (26.1%)」、「親 (20.7%)」となっている。

- 父子家庭では、「誰にも相談しなかった(72.3%)」の割合が最も多く、次いで「親(10.6%)」、「友人・知人(9.2%)」となっている。

40 面会交流の取決状況（SA）【母父質問 47、寡 33】ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

図34 面会交流の取決状況



（前回調査比較）

		取決めた	取決めた
母子家庭	H29 調査	36.5%	63.0%
	R4 調査	45.8%	52.5%
父子家庭	H29 調査	35.5%	63.8%
	R4 調査	32.7%	64.5%
寡婦	R4 調査	28.6%	69.7%

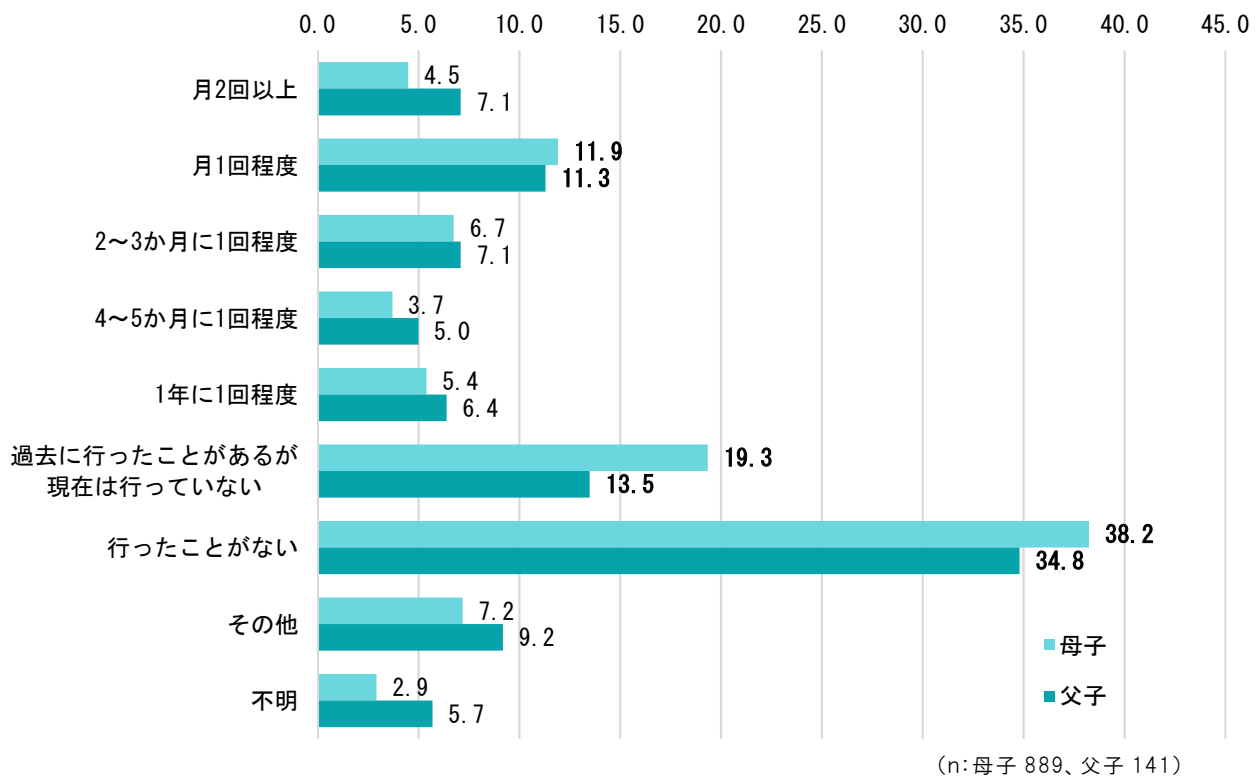
※ 前回調査時寡婦データなし

（現状）

- 母子家庭では、「面会交流の取り決めた」人の割合が 45.8%となっている。
- 父子家庭では、「面会交流の取り決めた」人の割合が 32.7%となっている。

41 面会交流の実施状況（SA）【母父質問 49】ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

図35 面会交流の実施状況



(前回調査比較)

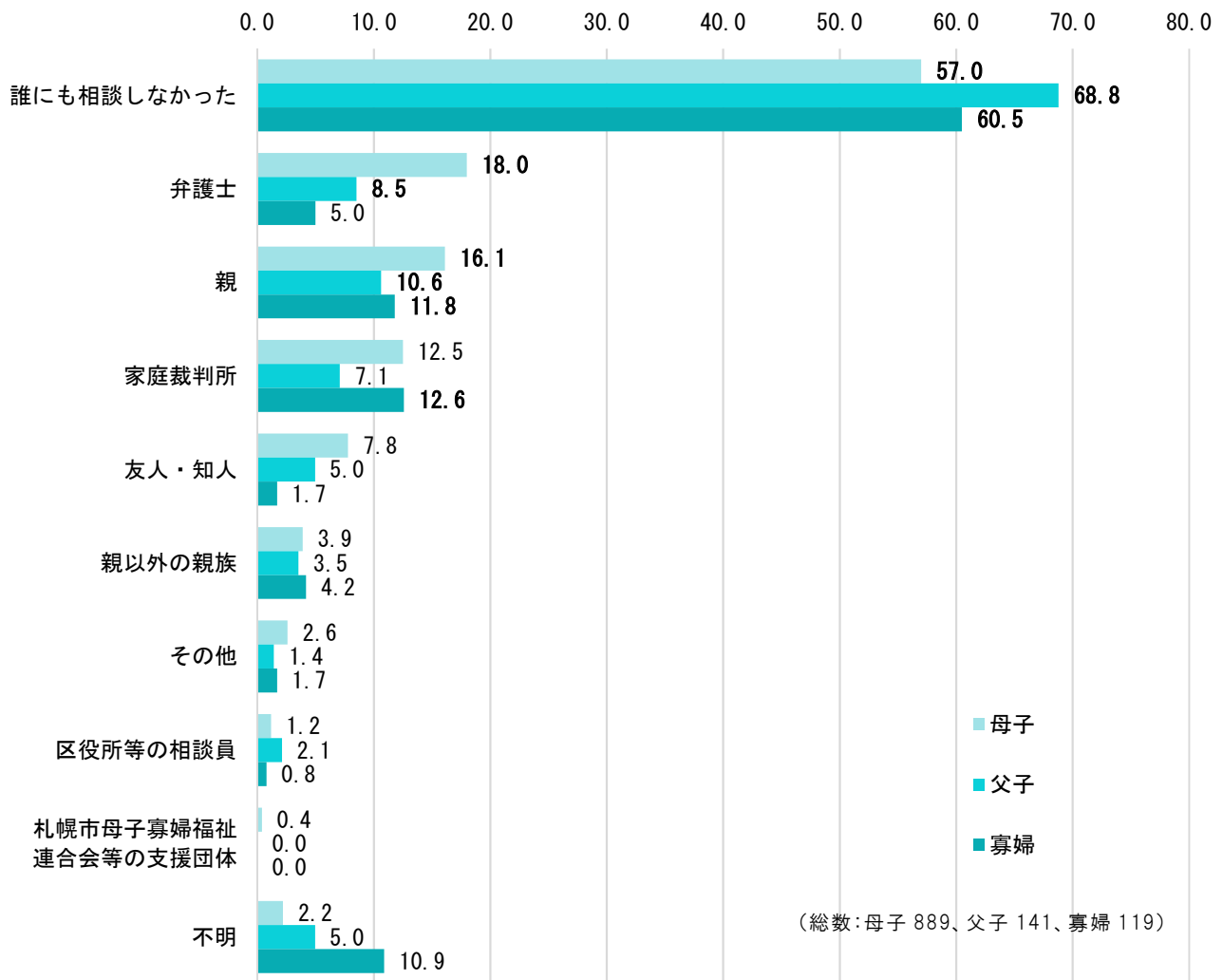
		過去に行ったことはあるが、現在は行っていない	行ったことがない
母子家庭	H29 調査	15.3%	47.0%
	R4 調査	19.3%	38.2%
父子家庭	H29 調査	12.3%	38.4%
	R4 調査	13.5%	34.8%

(現状)

- 母子家庭、父子家庭とも「行ったことがない（母子家庭 38.2%）（父子家庭 34.8%）」の割合が最も多く、次いで「過去に行ったことがあるが現在は行っていない（母子家庭 19.3%）（父子家庭 13.5%）」、「月1回程度（母子家庭 11.9%）（父子家庭 11.3%）」となっている。

42 面会交流の相談（MA）【母父質問 48】ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

図36 面会交流の相談



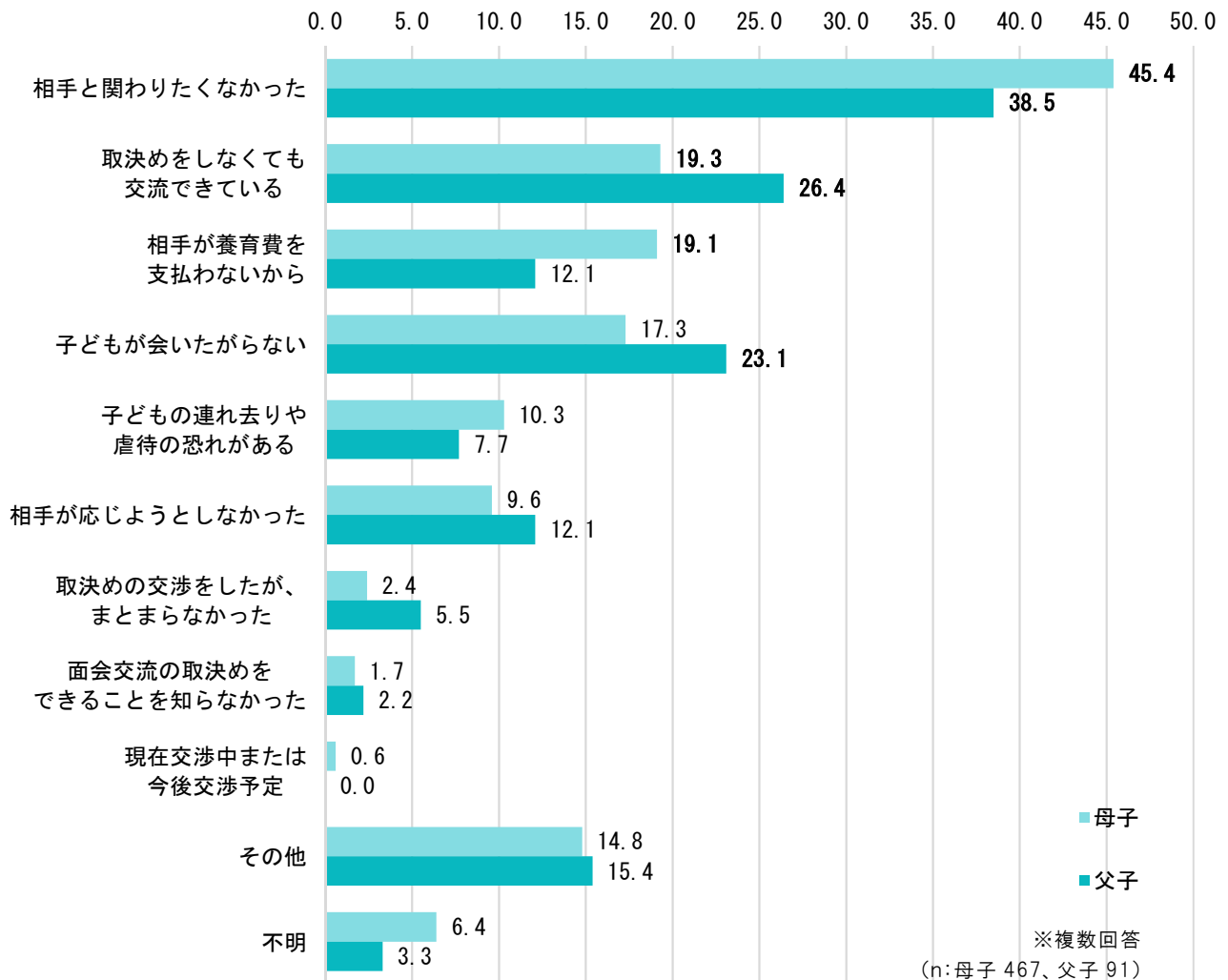
(現状)

- 母子家庭では、「誰にも相談しなかった (57.0%)」の割合が最も多く、次いで「弁護士 (18.0%)」、「親 (16.1%)」となっている。
- 父子家庭では、「誰にも相談しなかった (68.8%)」の割合が最も多く、次いで「親 (10.6%)」、「弁護士 (8.5%)」となっている。
- 寡婦では、「誰にも相談しなかった (60.5%)」の割合が最も多く、次いで「家庭裁判所 (12.6%)」、「親 (11.8%)」となっている。

43 面会交流の取決めをしていない理由（MA）【母父質問 50】

質問 47 で「取り決めはしていない」「話し合い自体していない」と回答した人のみ

図37 面会交流の取決めをしていない理由



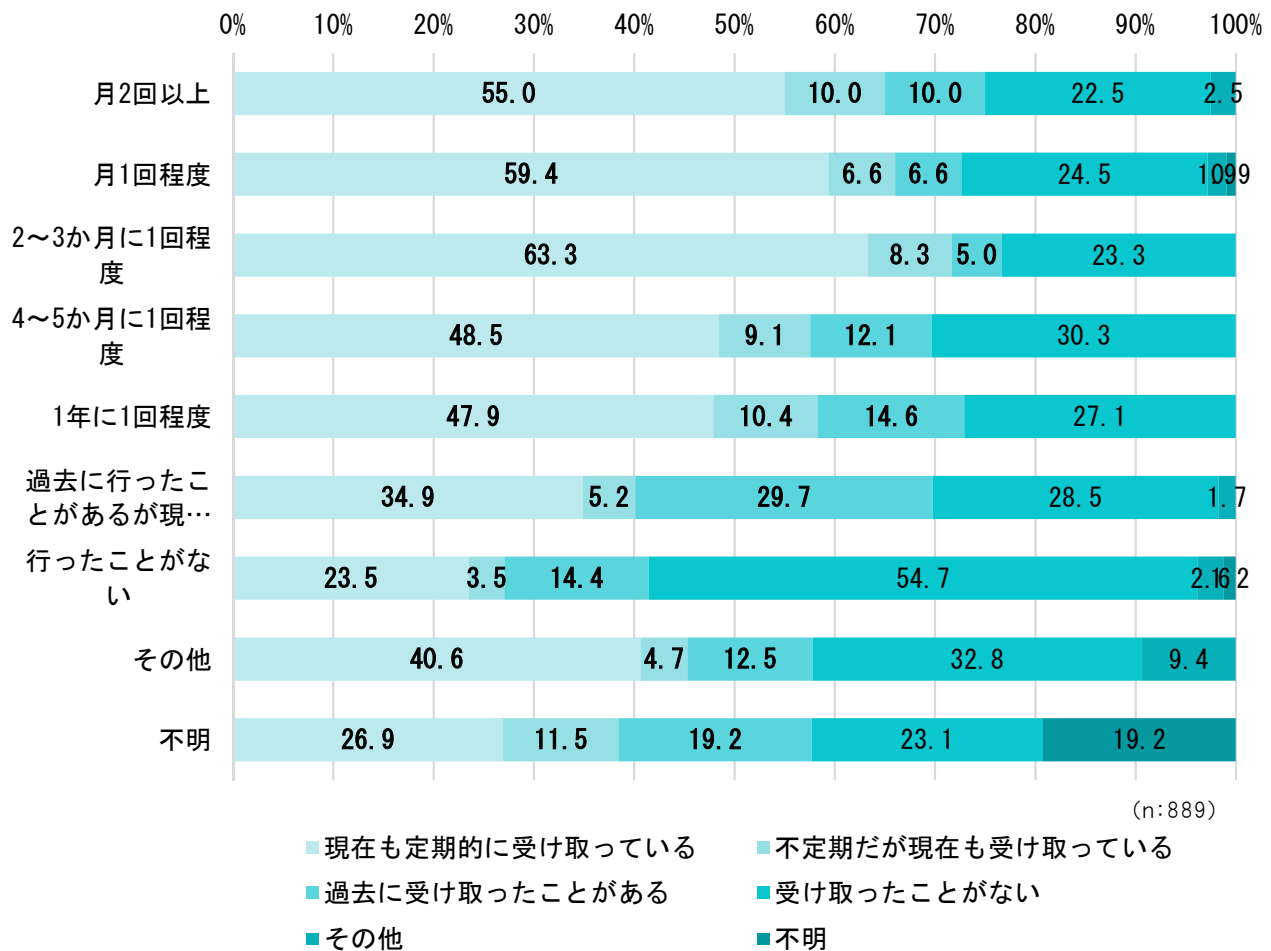
（現状）

- 母子家庭では、「相手と関わりたくなかった（45.4%）」の割合が最も多く、次いで「取決めをしなくても交流できている（19.3%）」、「相手が養育費を支払わないから（19.1%）」となっている。
- 父子家庭では、「相手と関わりたくなかった（38.5%）」の割合が最も多く、次いで「取決めをしなくても交流できている（26.4%）」、「子どもが会いたがらない（23.1%）」となっている。

44 面会交流実施状況別の養育費の受取状況（母子家庭）（SA）【母質問 44、49】

ひとり親になった理由を「離婚」と回答した人のみ

図38 面会交流実施状況別の養育費の受取状況（母子家庭）



（現状）

- 養育費の受取状況を面会交流の実施状況別に見ると、面会交流の実施頻度が多いほど、養育費を受け取っている割合が高い傾向にある。

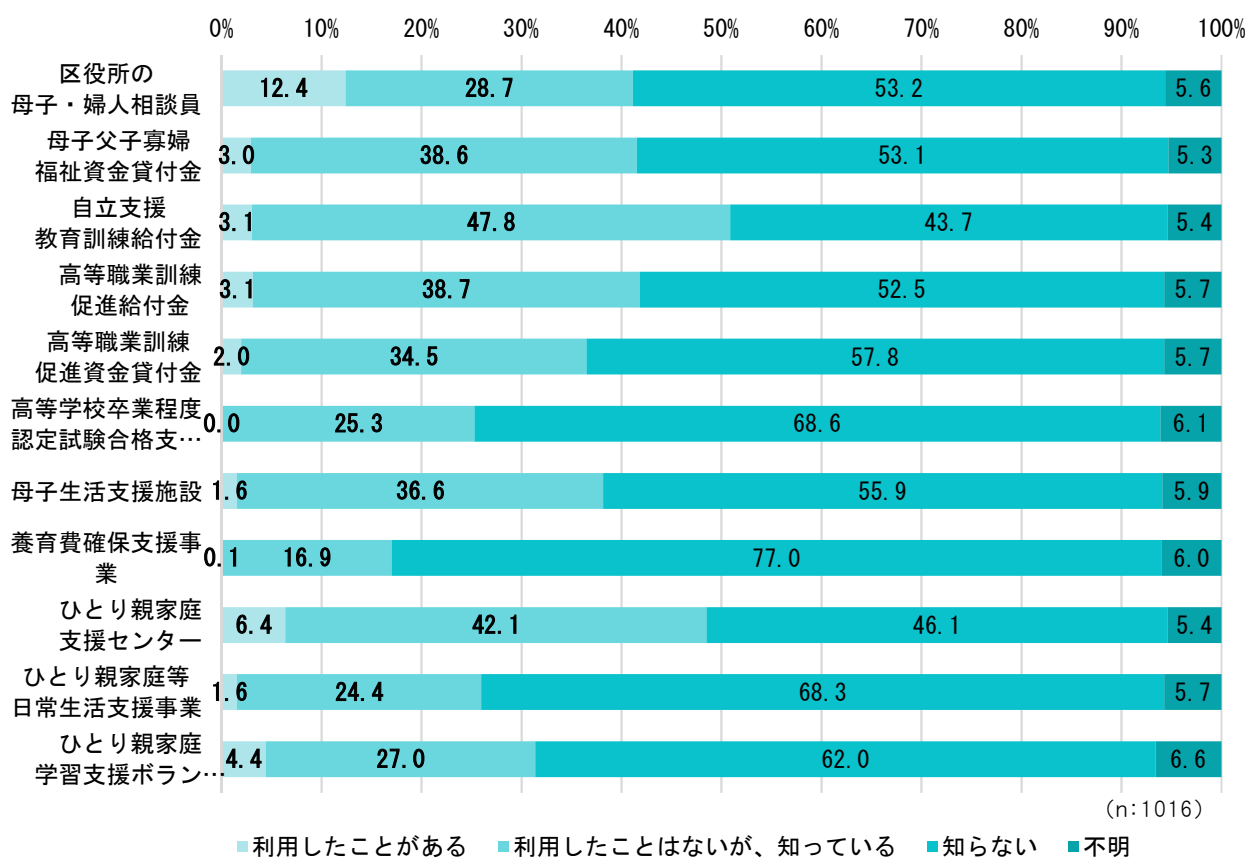
（まとめ 8） 養育費等について

- 「養育費の取り決めをした」と回答した人の割合は、母子家庭・父子家庭とも前回調査よりも増加しているが、依然として「取り決めをしていない」と回答した人の割合が母子家庭で 35.4%、父子家庭で 79.4%となっている。
- 養育費を「現在も受け取っている」と回答した人の割合が前回調査より母子家庭で 9.4 ポイント増加しているが、依然として「受け取ったことがない」と回答した人の割合が母子家庭で 37.6%、父子家庭で 88.7%となっている。
- 養育費及び面会交流取り決め時の相談について、母子家庭、父子家庭とも「誰にも相談しなかった」と回答した人の割合が最も多く、また、市の相談窓口である「区役所等の相談員」、「札幌市母子寡婦福祉連合会（ひとり親家庭支援センター）」が相談相手になっている割合が極めて低くなっている。
- 面会交流の取り決めをしていない理由について、前回調査時より「取り決めをしなくても交流できている」と回答した人の割合が母子家庭で 7.9 ポイント、父子家庭で 15.0 ポイント増加しており、SNS 等の普及で連絡をとることが容易になったことも要因の一つと考えられる。
- 母子家庭で、養育費を「受け取ったことがない」と回答した人の割合は、面会交流の実施状況が「月 2 回以上」と回答した人では、22.5%であるのに対し、「行ったことがない」と回答した人では 54.7%となっているため、面会交流の実施は子の精神的な安定のみならず、養育費という経済的な面にも影響を与える可能性がある。
- しかしながら、「面会交流の取決めをしていない理由」に「子どもの連れ去りや虐待の恐れがある」、「子どもが会いたがらない」と回答した人も少なからずいることから、支援については、慎重な対応を要するものと考えられる。

VI 支援制度等について

45 支援制度の利用率・認知度（母子家庭）（SA）【母質問 51】

図39 支援制度の利用率・認知度（母子）



（前回調査比較）

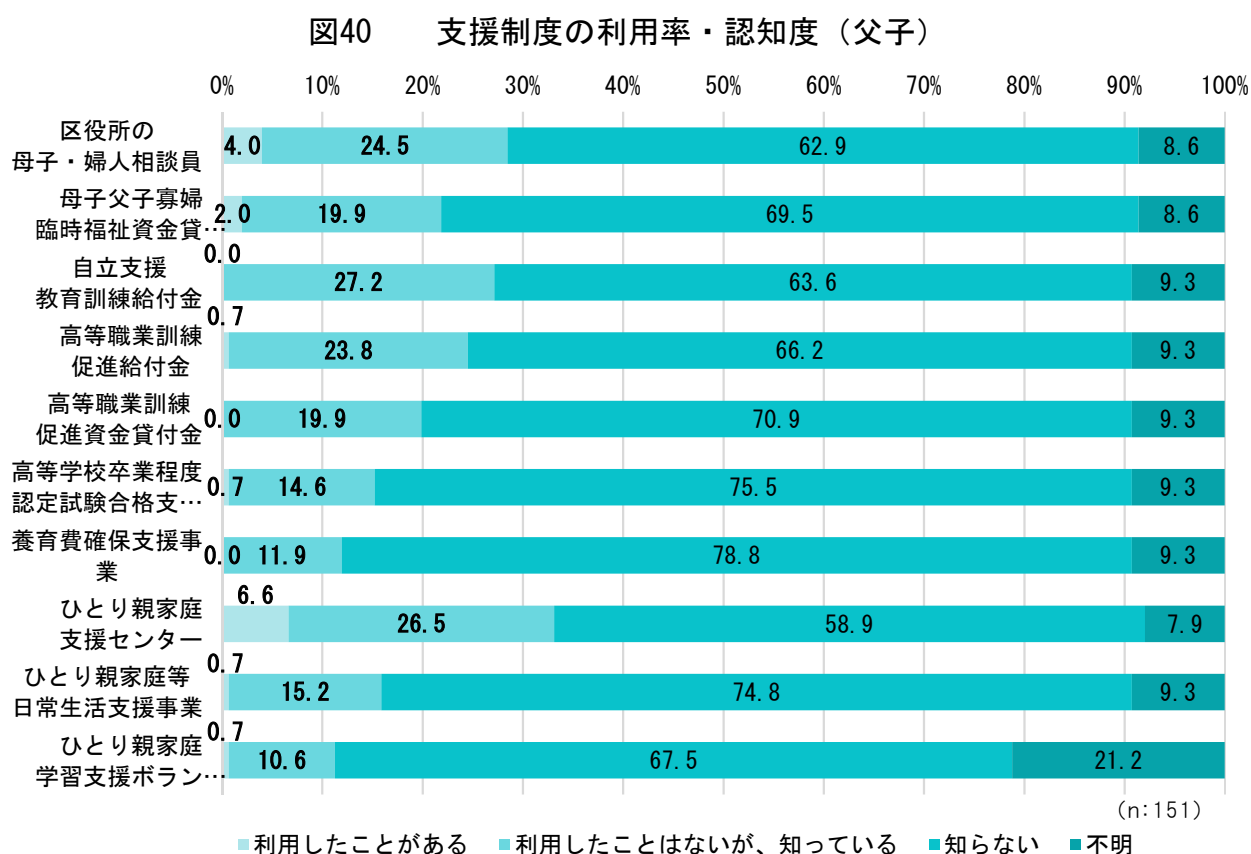
		利用あり	知っている	知らない
区役所の母子・婦人相談員	H29 調査	10.1%	26.0%	49.0%
	R 4 調査	12.4%	28.7%	53.2%
母子寡婦福祉資金貸付金	H29 調査	3.3%	29.6%	52.5%
	R 4 調査	3.0%	38.6%	53.1%
自立支援教育訓練給付金	H29 調査	3.4%	33.5%	48.3%
	R 4 調査	3.1%	47.8%	43.7%
高等職業訓練促進給付金	H29 調査	3.8%	22.7%	58.1%
	R 4 調査	3.1%	38.7%	52.5%
高等職業訓練促進資金貸付金	H29 調査	1.4%	22.3%	60.6%
	R 4 調査	2.0%	34.5%	57.8%
高等学校卒業程度認定試験合格支援事業	H29 調査	0.1%	11.6%	71.5%
	R 4 調査	0.0%	25.3%	68.6%
母子生活支援施設	H29 調査	2.5%	32.7%	49.1%
	R 4 調査	1.6%	36.6%	55.9%
養育費確保支援事業	H29 調査	—	—	—
	R 4 調査	0.1%	16.9%	77.0%
ひとり親家庭等支援センター	H29 調査	6.5%	28.4%	50.3%

	R 4 調査	6.4%	42.1%	46.1%
ひとり親家庭等	H29 調査	1.3%	18.6%	64.2%
日常生活支援事業	R 4 調査	1.6%	24.4%	68.3%
ひとり親家庭	H29 調査	2.7%	24.1%	57.6%
学習支援ボランティア	R 4 調査	4.4%	27.0%	62.0%

(現状)

- 「利用したことがある」と「知っている」を合わせた認知度が、前回調査以降の新規事業である「養育費確保支援事業」以外の全ての事業において向上している。

46 支援制度の利用率・認知度（父子家庭）（SA）【父質問 51】



(前回調査比較)

		利用あり	知っている	知らない
区役所の母子・婦人相談員	H29 調査	2.6%	9.1%	74.7%
	R 4 調査	4.0%	24.5%	62.9%
母子寡婦福祉資金貸付金	H29 調査	0.0%	7.8%	77.9%
	R 4 調査	2.0%	19.9%	69.5%
自立支援教育訓練給付金	H29 調査	0.6%	8.4%	76.6%
	R 4 調査	0.0%	27.2%	63.6%
高等職業訓練促進給付金	H29 調査	0.6%	7.8%	77.9%
	R 4 調査	0.7%	23.8%	66.2%
高等職業訓練促進資金貸付金	H29 調査	0.0%	4.5%	81.2%

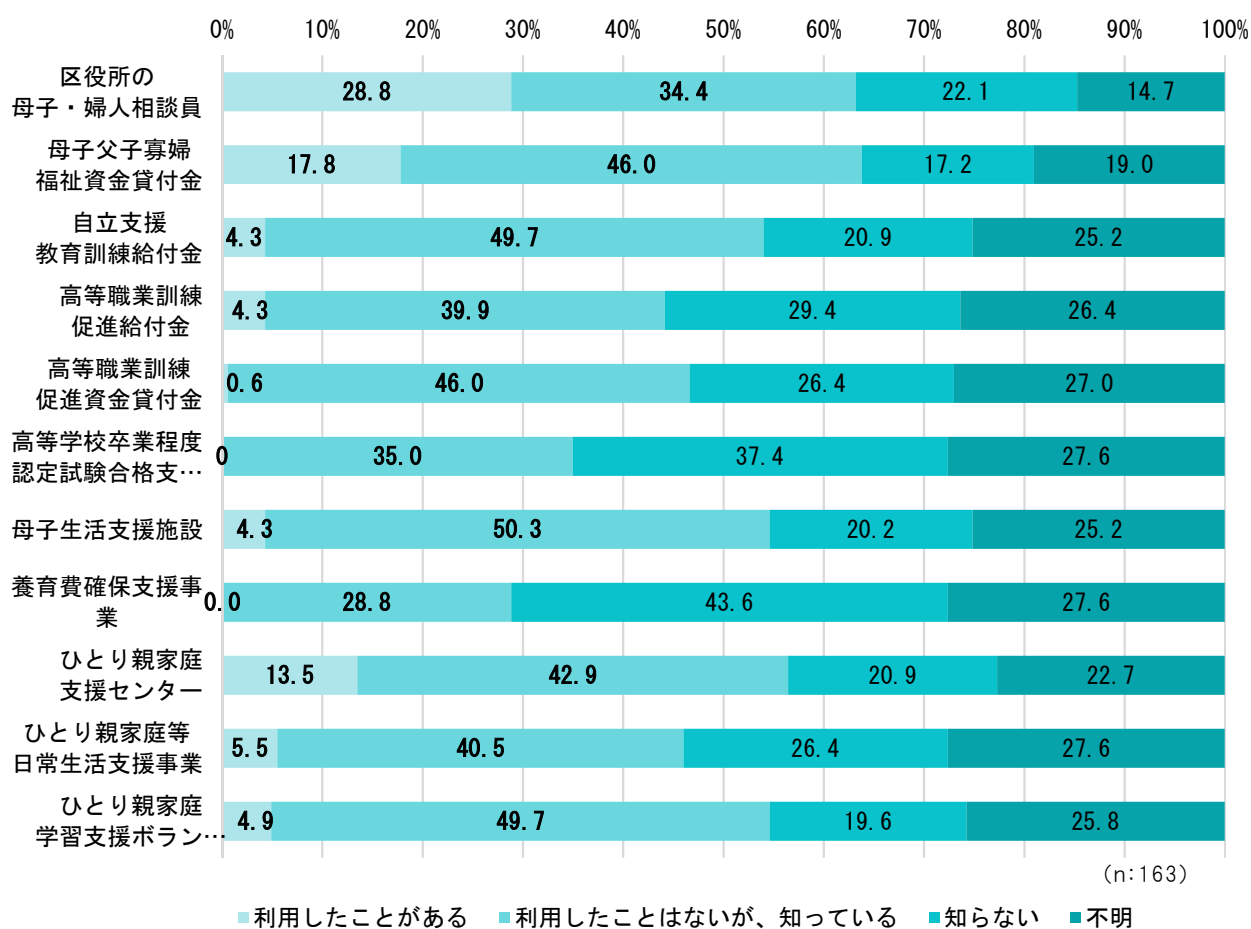
	R4 調査	0.0%	19.9%	70.9%
高等学校卒業程度認定試験 合格支援事業	H29 調査	0.0%	3.9%	81.8%
	R4 調査	0.7%	14.6%	75.5%
養育費確保支援事業	H29 調査	—	—	—
	R4 調査	0.0%	11.9%	78.8%
ひとり親家庭等支援センター	H29 調査	1.9%	14.9%	70.1%
	R4 調査	6.6%	26.5%	58.9%
ひとり親家庭等 日常生活支援事業	H29 調査	0.6%	9.1%	76.0%
	R4 調査	0.7%	15.2%	74.8%
ひとり親家庭 学習支援ボランティア	H29 調査	0.6%	9.1%	76.0%
	R4 調査	0.7%	10.6%	67.5%

(現状)

- 「利用したことがある」と「知っている」を合わせた認知度が、前回調査以降の新規事業である「養育費確保支援事業」以外の全ての事業において向上している。

47 支援制度の利用率・認知度（寡婦）（SA）【寡質問 35】

図41 支援制度の利用率・認知度（寡婦）



(前回調査比較)

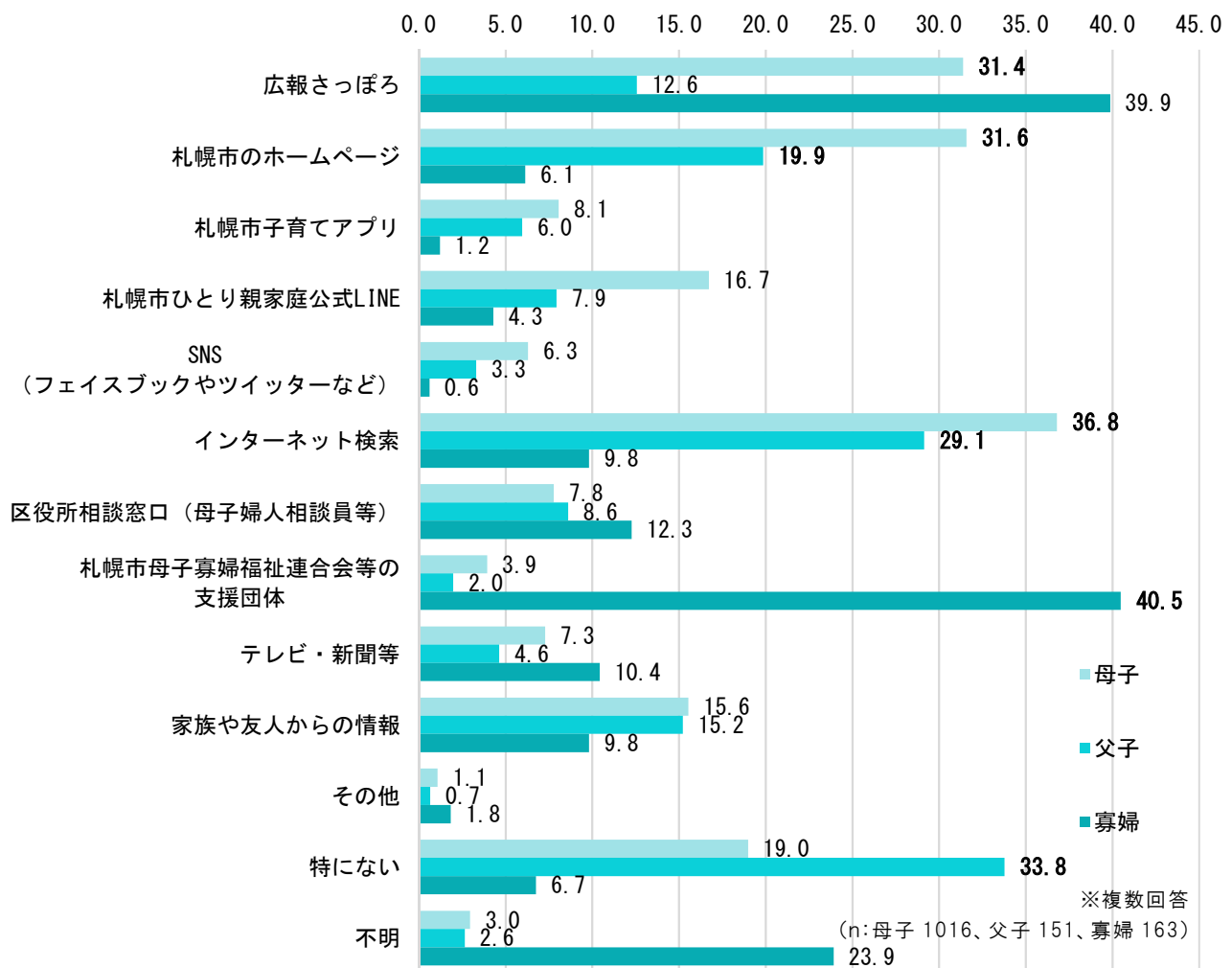
		利用あり	知っている	知らない
区役所の母子・婦人相談員	H29 調査	25.7%	33.0%	15.2%
	R 4 調査	28.8%	34.4%	22.1%
母子寡婦福祉資金貸付金	H29 調査	20.9%	38.7%	15.2%
	R 4 調査	17.8%	46.0%	17.2%
自立支援教育訓練給付金	H29 調査	4.2%	41.4%	19.4%
	R 4 調査	4.3%	49.7%	20.9%
高等職業訓練促進給付金	H29 調査	2.6%	35.6%	26.2%
	R 4 調査	4.3%	39.9%	29.4%
高等職業訓練促進資金貸付金	H29 調査	0.5%	33.0%	30.9%
	R 4 調査	0.6%	46.0%	26.4%
高等学校卒業程度認定試験 合格支援事業	H29 調査	0.0%	20.4%	40.8%
	R 4 調査	0.0%	35.0%	37.4%
母子生活支援施設	H29 調査	2.1%	42.4%	19.4%
	R 4 調査	4.3%	50.3%	20.2%
養育費確保支援事業	H29 調査	—	—	—
	R 4 調査	0.0%	28.8%	43.6%
ひとり親家庭等支援センター	H29 調査	10.5%	39.3%	17.3%
	R 4 調査	13.5%	42.9%	20.9%
ひとり親家庭等 日常生活支援事業	H29 調査	3.7%	38.2%	22.0%
	R 4 調査	5.5%	40.5%	26.4%
ひとり親家庭 学習支援ボランティア	H29 調査	2.6%	44.0%	17.3%
	R 4 調査	4.9%	49.7%	19.6%

(現状)

- 「利用したことがある」と「知っている」を合わせた認知度が、前回調査以降の新規事業である「養育費確保支援事業」以外の全ての事業において向上している。

48 支援策等の情報収集の手段（MA）【母父質問 52、寡 36】

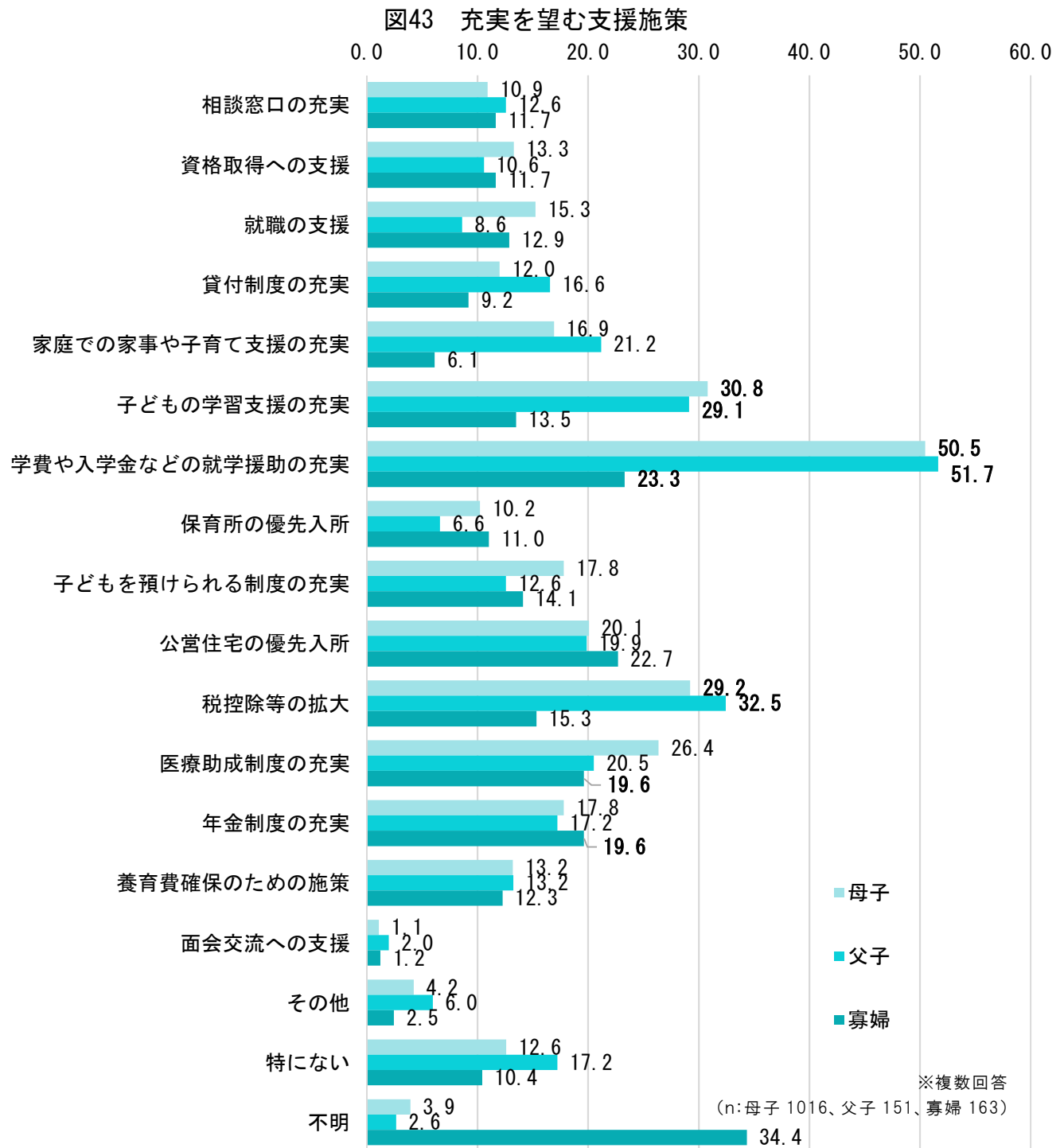
図42 支援策等の情報収集の手段



（現状）

- 母子家庭では、「インターネット検索（36.8%）」の割合が最も多く、次いで「札幌市のホームページ（31.6%）」、「広報さっぽろ（31.4%）」となっている。
- 父子家庭では、「特にない（33.8%）」の割合が最も多く、次いで「インターネット検索（29.1%）」、「札幌市のホームページ（19.9%）」となっている。
- 寡婦では、「札幌市母子寡婦福祉連合会等の支援団体（40.5%）」が最も多く、次いで「広報さっぽろ（39.9%）」となっている。

49 充実を望む支援施策（MA）【母父質問 53、寡 37】



(前回調査比較)

		1 位	2 位	3 位
母子家庭	H29 調査	就学援助の充実 (46.8%)	子どもの学習支援 (36.4%)	税控除等の拡大 (30.8%)
	R 4 調査	就学援助の充実 (50.5%)	子どもの学習支援 (30.8%)	税控除等の拡大 (29.2%)
父子家庭	H29 調査	就学援助の充実 (39.6%)	税控除等の拡大 (29.9%)	子どもの学習支援 (28.6%)
	R 4 調査	就学援助の充実 (51.7%)	税控除等の拡大 (32.5%)	子どもの学習支援 (29.1%)
寡婦	H29 調査	年金制度の充実 (48.2%)	公営住宅の優先入所 (40.3%)	医療助成制度充実 (37.7%)
	R 4 調査	就学援助の充実 (23.3%)	公営住宅の優先入所 (22.7%)	医療助成・年金の充実 (19.6%)

(現状)

- 母子家庭では、「就学援助の充実 (50.5%)」の割合が最も多く、次いで「子どもの学習支援の充実 (30.8%)」、「税控除等の拡大 (29.2%)」となっている。
- 父子家庭では、「就学援助の充実 (51.7%)」の割合が最も多く、次いで「税控除等の拡大 (32.5%)」、「子どもの学習支援の充実 (29.1%)」となっている。
- 寡婦では、「就学援助の充実 (23.3%)」の割合が最も多く、次いで「公営住宅の優先入所 (22.7%)」、同率で「医療助成制度の充実 (19.6%)」「年金制度の充実 (19.6%)」となっている。

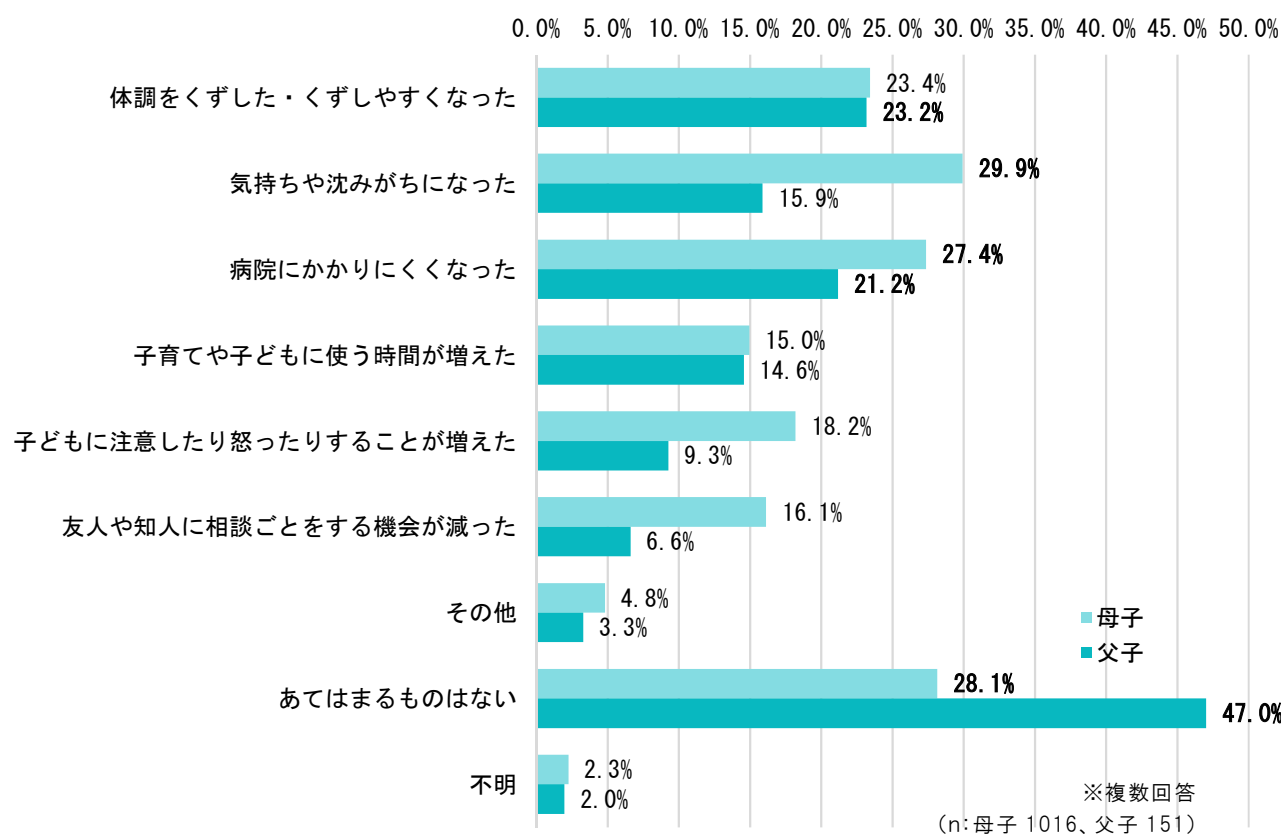
(まとめ9) 支援制度等について

- 支援制度について、新規事業以外の全ての事業において認知度の向上がみられ、各種広報活動等による成果であると推測される。
- 情報収集の手段では、母子家庭・父子家庭ともに「インターネット検索」や「札幌市のホームページ」と回答した人が多く、来所をしなくてもスマートフォン等で簡単に調べられる方法での情報発信が求められていると考えられる。
- 情報収集の手段で、「札幌市ひとり親家庭公式 LINE」を回答した人の割合が、母子家庭で 16.7%、父子家庭で 7.9%となっている。
- 情報手段の手段が「特にない」と回答した人が一定割合おり、父子家庭では特に高く、33.8%となっている。
- 寡婦では、「札幌市母子寡婦福祉連合会等の支援団体」から情報を収集している割合が高くなっている。
- 充実を望む支援施策では、母子家庭及び父子家庭は、「就学援助の充実」や「子どもの学習支援の充実」を望む人の割合が多く、寡婦では、「年金制度の充実」や「医療助成制度の拡充」を望む人の割合が多くなっている。

VII 新型コロナウイルス感染症について

50 新型コロナによる生活への影響（MA）【母父質問 54】

図44 新型コロナによる生活への影響（母子・父子）

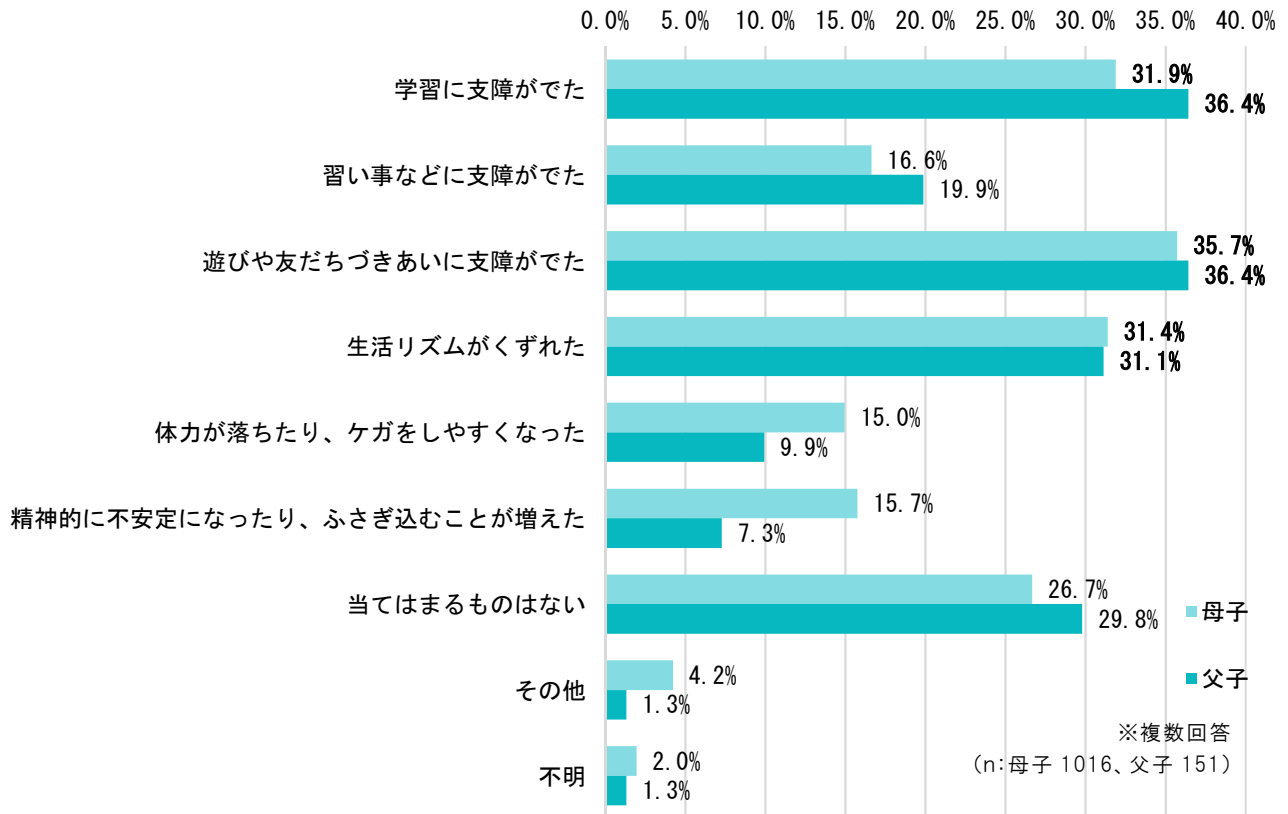


（現状）

- 母子家庭では、「気持ちが沈みがちになった（29.9%）」と回答した人の割合が最も多く、次いで「あてはまるものはない（28.1%）」、「病院にかかりにくくなった（27.4%）」となっている。
- 父子家庭では、「あてはまるものはない（47.0%）」と回答した人の割合が最も多く、次いで「体調をくずした・くずしやすくなった（23.2%）」、「病院にかかりにくくなった（21.2%）」となっている。

51 新型コロナによる子どもへの影響（MA）【母父質問 55】

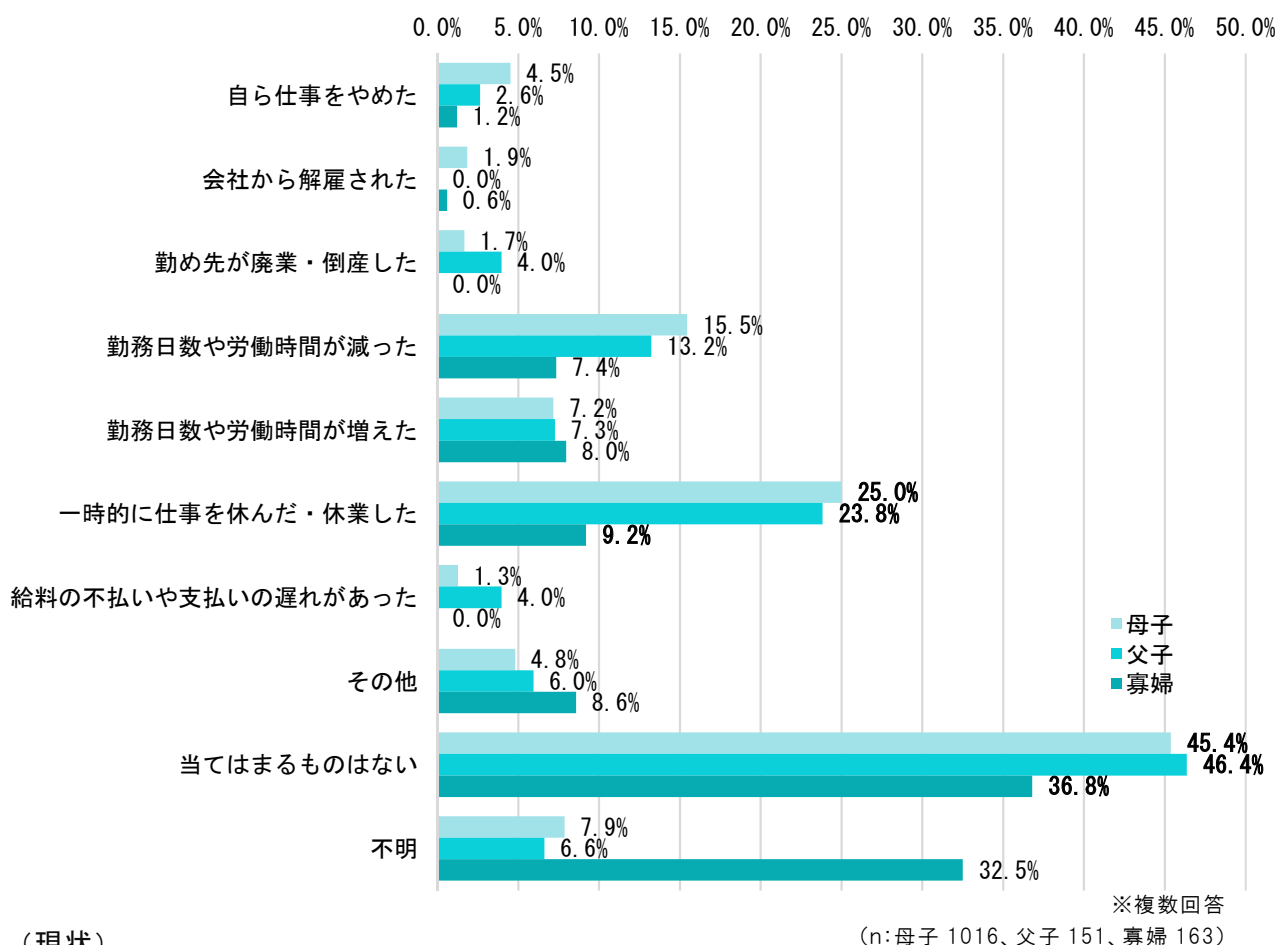
図45 新型コロナの子どもへの影響（母子・父子）



（現状）

- 母子家庭では、「遊びや友だちづきあいに支障がでた（36.4%）」と回答した人の割合が最も多く、次いで「学習に支障がでた（31.9%）」、「生活リズムがくずれた（31.4%）」となっている。
- 父子家庭では、「学習に支障がでた（36.4%）」、「遊びや友だちづきあいに支障がでた（36.4%）」と回答した人の割合が同率で最も多く、次いで「生活リズムがくずれた（31.1%）」となっている。

図46 新型コロナの仕事への影響



(現状)

- いずれの世帯類型においても、不明を除くと「当てはまるものはない（母子 45.4%、父子 46.4%、寡婦 36.8%）」と回答した人の割合が最も多く、次いで「一時的に仕事を休んだ・休業した（母子 25.0%、父子 23.8%、寡婦 9.2%）」となっている。

（まとめ 10） 新型コロナの影響について

- 新型コロナによる生活への影響について、「当てはまるものはない」と回答した人の割合も多いが、約4人に1人の割合で「体調をくずした・くずしやすくなった」と回答し、「気持ちが沈みがちになった」、「子どもに注意したり怒ったりすることが増えた」等心身ともに影響を受けたことがうかがえる。
- 新型コロナによる子どもへの影響について、母子家庭・父子家庭ともに「遊びや友だちづきあいに支障がでた」、「学習に支障がでた」、「生活リズムがくずれた」と回答した人が多く、新型コロナによる社会の変化は子どもたちに対しても大きな影響を及ぼしていることがうかがえる。
- 新型コロナによる仕事への影響について、「当てはまるものはない」と回答した人が多い一方で、生活に多大な影響を及ぼす「会社から解雇された」、「勤め先が廃業・倒産した」との回答もあった。